

2026(令和8)年度 看護学部シラバス

看護学科 (2026年度入学生)

基礎教養					
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
26101	Science Basics	1	26114	看護情報学	3
26102	データサイエンス	1	26115	叡智の探究	1
26103	情報リテラシー	1	26116	文章表現法	1
26104	心理学概論	1	26117	社会学概論	1
26105	純心平和学	1	26118	音楽表現	1
26106	キリスト教学	1	26119	美術表現	1
26107	日本国憲法	1	26120	絵本と発達	1
26108	看護学セミナー	1	26121	英語Ⅱ	2
26109	コミュニケーション論	1	26122	言語と文化の理解	2
26110	英語Ⅰ	1	26123	看護英語	2
26111	運動理論・実技	1	26124	暮らしとアート	3
26112	家族社会学	2	26125	音楽療法	3
26113	看護倫理	3	26126	美術療法	3

専門(看護の基礎)					
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
26201	人体の構造と機能Ⅰ	1	26212	疾病治療論Ⅱ	1
26202	人体の構造と機能Ⅱ	1	26213	疾病治療論Ⅲ	2
26203	人体の構造と機能Ⅲ	1	26214	疾病治療論Ⅳ	2
26204	病理学	2	26215	疾病治療論Ⅴ	2
26205	基礎薬理学	2	26216	保健医療福祉行政論	2
26206	臨床薬理学	2	26217	保健医療福祉行政展開論	2
26207	栄養生化学	1	26218	公衆衛生学	1
26208	感染予防学	1	26219	健康教育学	2
26209	臨床心理学	3	26220	保健統計学Ⅰ	1
26210	医療概論	1	26221	保健統計学Ⅱ	2
26211	疾病治療論Ⅰ	1	26222	疫学	2

2026(令和8)年度 看護学部シラバス

専門（看護の実践）					
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
26301	看護学概論	1	26320	小児看護学概論	2
26302	基本援助技術	1	26321	小児看護学援助論	2
26303	生活援助技術	1	26322	小児看護学演習	3
26304	診療援助技術	2	26323	母性看護学概論	2
26305	看護とコミュニケーション	1	26324	母性看護学援助論	2
26306	看護展開論	2	26325	母性看護学演習	2
26307	フィジカルアセスメント	2	26326	精神看護学概論	2
26308	暮らしの理解	1	26327	精神看護学援助論	2
26309	地域・在宅看護学概論	2	26328	精神看護学演習	3
26310	地域・在宅看護学（生活援助技術）	2	26329	公衆衛生看護学概論	2
26311	地域・在宅看護学（医療関連技術）	3	26330	公衆衛生看護学支援技術論	3
26312	在宅看護過程	3	26331	公衆衛生看護学支援技術演習	3
26313	成人看護学概論	1	26332	対象別公衆衛生看護論	4
26314	成人の生活と健康	2	26333	地域活動支援演習	4
26315	成人慢性期看護学	2	26334	家族看護学	3
26316	成人急性期看護学	3	26335	終末期・緩和看護学	3
26317	老年看護学概論	1	26336	がん看護学	3
26318	老年生活機能援助論	2	26337	補完代替医療と看護	3
26319	老年健康回復援助論	2			

専門（看護の実践）					
26338	基礎看護技術実習	1	26345	老年退院支援実習	3
26339	基礎看護展開実習	2	26346	小児看護学実習	3
26340	暮らしの理解体験実習	1	26347	母性看護学実習	3
26341	地域・在宅看護学実習	3	26348	精神看護学実習	3
26342	成人慢性期看護学実習	3	26349	統合実習	4
26343	成人急性期看護学実習	3	26350	学校・産業保健実習	4
26344	老年生活支援実習	3	26351	公衆衛生看護学実習	4

専門（看護の発展）					
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
26401	医療安全	3	26409	看護叡智探究論Ⅰ（基礎）	1
26402	多職種連携論	4	26410	看護叡智探究論Ⅱ（看護の基礎）	2
26403	看護管理学	4	26411	看護叡智探究論Ⅲ（看護の専門）	3
26404	災害看護学	3	26412	看護叡智探究論Ⅳ（看護の統合）	4
26405	国際看護学	3	26413	看護研究の基礎	2
26406	看護キャリア論	4	26414	看護研究ゼミナール	3,4
26407	医療経済論	4	26415	看護研究の実践	4
26408	看護行政と看護の展望	4			

授業科目名	Science Basics	担当教員名	福永ひとみ 藤森裕基(化学)・蓑輪欣房(生物)・荻野大吾(数学)			
コード	26101	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
◎	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					

【授業の概要】
 「Science Basics」は、生涯にわたり看護学を探究する能力を修得するためにscienceの基本を修得する科目である。看護の専門的知識を学ぶための基盤づくりを目的とし、私たちの身体、人々をとりまく環境、地域の自然といった身近な現象を題材としてScienceの法則・原理を理解する。具体的には、からだの中で起きる化学反応、細胞の働きや遺伝情報、力と運動、天気の変化や地球温暖化について学び修得する。高校で学んだ生物・化学・物理の内容を振り返ることで専門科目を理解するための基礎を作り、生化学・薬学・栄養学・病理学・治療法を理解するための助けとする。これらを学ぶ過程で、科学的な見方・考え方を理解する。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 身の回りの物質とその成分・性質について説明できる。	○				
2 からだを作る原子・分子と化学変化について説明できる。	○				
3 からだの仕組みや機能について説明できる。	○				
4 生命活動、エネルギーと代謝について説明できる。	○				
5 細胞の増え方と遺伝について説明できる。	○				
6 からだの中の環境とその維持について説明できる。	○				

【授業計画】		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	イントロダクション 授業の目的・概要説明	福永	予習(20分): シラバスを熟読し、指定教科書の目次・全体に目を通す。 復習(25分): 授業ノートを整理する。
2	【数学】 計算: 足すと10になる計算、いろいろな筆算、四則計算の順序、倍数と約数の表現: 分数、約分、通分、分数の四則演算について学ぶ。	外部講師 荻野	予習(20分): スタートアップトレーニング(数学)p46～p53を読む。 復習(25分): 授業ノートを整理する。
3	【化学】 第1章: 身のまわりの化学 第2章: 化学の単位と元素の周期表	外部講師 藤森	予習(20分): 化学 p1～p30 を読む。 復習(25分): 授業ノートを整理する。
4	【生物】 第1章: 生命体のつくりとはたらき(細胞の構造と機能、人体を構成する水・電解質・浸透圧、細菌とウイルス) 第2章: 生命維持のエネルギー(エネルギー、酵素とのはたらき)	外部講師 蓑輪	予習(20分): 生物学 p1～p57を読む。 復習(25分): 授業ノートを整理する。
5	【数学】 小数、割合、速さ、濃度について学ぶ。	外部講師 荻野	予習(20分): スタートアップトレーニング(数学)p54～p61を読む。 復習(25分): 授業ノートを整理する。
6	【化学】 第3章: 物質の三態 第4章: 気体の性質 第5章: 液体・溶液の性質	外部講師 藤森	予習(20分): 化学 p31～p71 を読む。 復習(25分): 授業ノートを整理する。
7	【生物】 第3章: 細胞の増殖とからだのなりたち 第4章: 遺伝情報とその伝達・発現のしくみ(染色体と遺伝子、DNAのはたらき、遺伝性疾患)	外部講師 蓑輪	予習(20分): 生物学 p59～p132を読む。 復習(25分): 授業ノートを整理する。
8	【数学】 平均、比、比例・反比例、 色々な単位: 単位の表し方、接頭語、長さ、重さ、面積、体積について学ぶ。	外部講師 荻野	予習(20分): スタートアップトレーニング(数学)p62～p69を読む。 復習(25分): 授業ノートを整理する。
9	【化学】 第6章: 化学反応 第7章: 反応速度 第8章: 化学平衡	外部講師 藤森	予習(20分): 化学 p73～p118を読む。 復習(25分): 授業ノートを整理する。
10	【生物】 第5章: 生殖と発生 第6章: 個体の調節(各器官系のはたらき、内分泌系)	外部講師 蓑輪	予習(20分): 生物学 p133～p201を読む。 復習(25分): 授業ノートを整理する。
11	【数学】 数量関係: 図・グラフで見る数・量、様々なグラフ、グラフの読みとり、グラフの作成について学ぶ。データの代表値として、中央値を追加して学ぶ。	外部講師 荻野	予習(20分): スタートアップトレーニング(数学)p70～p75を読む。データの中央値について高校1年生の教科書(数学I)で復習する。 復習(25分): 授業ノートを整理する。
12	【化学】 第9章: 原子の構造と化学結合 第10章: 無機化学	外部講師 藤森	予習(20分): 化学 p119～p170 を読む。 復習(25分): 授業ノートを整理する。
13	【生物】 第7章: 刺激の受容と行動(神経系の情報処理と情報伝達) 第8章: 生命の進化と多様性	外部講師 蓑輪	予習(20分): 生物学 p203～p280を読む。 復習(25分): 授業ノートを整理する。

14	【化学】 第11章：有機化学 第12章：高分子化学	外部講師 藤森	予習(20分)：化学 p171～p226 を読む。 復習(25分)：授業ノートを整理する。			
15	【生物】 第9章：生物と環境のかかわり 第10章：地球環境とヒトとの共存（地球温暖化,環境汚染）	外部講師 養輪	予習(20分)：生物学 p281～p309を読む。 復習(25分)：授業ノートを整理する。			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL（課題解決型学習）				特になし		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			○			
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】 A4サイズのノートを準備する。授業ごとに数回、ノートの提出を求める。次回の授業前に返却する。不足のある時は、補講時間に指導する。						
【成績の評価方法】 ①定期試験:100%（数学30点+化学35点+生物35点=100点満点。3科目の合計点の60点に満たない場合、3科目で100点満点の再試験を受けなければならない）						
【生成AI利活用（無）】						
【ルーブリック評価の活用（無）】						
【履修申請上の条件】 特になし						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 系統看護学講座 基礎分野 化学 第7版	医学書院	9784260031813	⑤		
	② 系統看護学講座 基礎分野 生物学 第10版	医学書院	9784260031899	⑥		
	③ 看護学生スタートアップトレーニング改訂3版	メディカ出版	9784840488556	⑦		
	④			⑧		
【参考書】 ニューステージ新生物図表 浜島書店 2022						
【オープンな教育リソース】 特になし						
【担当教員の実務経験】 福永ひとみ：看護師及び看護教員資格を持ち、病院・教育機関において実務経験を有す 外部講師：藤森裕基(化学)・養輪欣房(生物)・荻野 大吾(数学)、それぞれ担当分野の教育経験を有す						
【オフィスアワー】 福永: 火～金曜日の昼休み時間(12:10～13:00)						
【教員連絡先】 福永研究室 3号館 3階 3316号室 hfukunaga@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】 特になし						

授業科目名	データサイエンス	担当教員名	高橋 利光			
コード	26102	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
①	対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
②	看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
③	専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
④	人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
⑤	地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
⑥	生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					

【授業の概要】
「データサイエンス」は、生涯にわたり看護学を探究する能力を修得し、質の高い看護を提供するために、医療や看護情報を適切に活用する基本的能力を修得する科目である。現社会では、インターネットやモバイル型の各種デバイス、情報通信技術の急速な発展により、さまざまな場面でビックデータが蓄積・活用されるようになった。それに伴い、大量のデータから何らかの意味のある情報、法則、関連性などを導き出す「データサイエンス」の重要性が高まっている。医療の分野では、「診断支援システム」などがその活用例である。本授業では、データサイエンスが必要とされる背景や仕組み・活用例の紹介とデータを活用するための情報基礎知識とPC基本操作(Microsoft Office Word/Excel/PowerPoint)を学ぶ。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 PCの基本的な知識を身に付け、操作方法を習得する。	○	○	○		
2 データサイエンス、情報モラルの基礎知識とWeb利用方法を習得する。	○	○	○		
3 情報資源・ネットワーク環境を利用し、情報の「収集・分析・活用」ができる。情報モラルや医療現場でのIT知識を習得する。	○	○	○		
4 Microsoft Office Wordを利用し、基本知識・操作の習得から文書作成ができる。	○	○	○		
5 Microsoft Office Excelを利用し、基本知識・操作の習得と表計算、グラフ作成、基本的な関数を使用することができる。基礎な統計処理を習得する。	○	○	○		
6 Microsoft Office PowerPointの基礎知識と操作を習得する。	○	○	○		

【授業計画】		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	授業計画 ・講義概要・講義計画の説明/メール・Classroom使用方法の確認 ・コンピュータの基礎① Windows基本説明	高橋	予習(30分):シラバスを確認する。 PCを使用し、どんなことがしたいか目的をイメージする(例:タイピングが速くなりたいなど)。 復習(90分):1回目授業資料の確認とタイピング練習、授業内で提示する課題。
2	コンピュータの基礎② ・Windows 基本と操作方法の説明・演習 ・利便性が高いアプリの紹介・使用説明 データサイエンスの概要説明・活用事例紹介①/演習	高橋	予習(60分):予習資料(コンピュータの基礎とデータサイエンス)を確認する。 復習(90分):2回目授業資料の確認とタイピング練習、授業内で提示する課題。
3	情報モラルとインターネットの活用方法 ・WEBサイトを利用し、効率の良い情報収集・検索方法の説明 ・基礎的な情報モラルとITルール説明・演習 ・病院でのPC活用事例紹介と説明 データサイエンスの概要説明・活用事例紹介②	高橋	予習(60分):予習資料(情報モラルとインターネットの活用方法)を確認する。 復習(90分):3回目授業資料の確認とタイピング練習、授業内で提示する課題。
4	文書作成① ・Microsoft Office Wordの概要・機能説明 ・文書作成・演習 生成AI概要説明/演習①	高橋	予習(60分):予習資料(Microsoft Office Word概要と機能)を確認する。 復習(60分):4回目授業資料の確認とタイピング練習、授業内で提示する課題。 レポート課題(120分):Microsoft Office Wordを使用し、文書を作成する。
5	文書作成② ・Microsoft Office Word機能の復習と操作方法 ・文書作成・演習 生成AI概要説明・演習②	高橋	予習(60分):予習資料(Microsoft Office Word基礎操作)を確認する。 復習(90分):5回目授業資料の確認とタイピング練習、授業内で提示する課題。
6	表計算ソフト利用① ・Microsoft Office Excelの概要説明と操作 ・表計算方法・演習 ・統計処理説明・演習	高橋	予習(60分):予習資料(Microsoft Office Excel概要と機能)を確認する。 復習(90分):6回目授業資料の確認とタイピング練習、授業内で提示する課題。
7	表計算ソフト利用② ・Microsoft Office Excelの基礎操作 ・数式と関数使用・演習 ・統計処理演習 ・Microsoft Office PowerPoint基礎説明・演習	高橋	予習(60分):予習資料(Microsoft Office Excel操作と関数表)を確認する。 復習(90分):7回目授業資料の確認とタイピング練習、授業内で提示する課題。
8	・情報モラル復習 ・Microsoft Office Word/Excel 復習 ・Microsoft Office PowerPoint操作説明・演習 ・アンケート調査(習熟度確認)・演習	高橋	予習(60分):予習資料(総復習資料)を確認する。 復習(60分):1~8回の授業資料の確認、授業内で提示する課題。 レポート課題(120分):Microsoft Office Word/Excel/PowerPointの課題を提示する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	<ul style="list-style-type: none"> PC操作に慣れるため、授業の始まり10分間、タイピング練習を行う。 情報モラルの動画視聴(授業内で再生する)。 医療現場で使用する情報機器などの紹介をする。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

<p>【課題のフィードバック】</p> <p>・レポートに対する解説は、次回の授業にて行う。</p>
<p>【成績の評価方法】</p> <p>①授業での取り組み(40%) ※受講態度と課題への取り組み姿勢,課題提出状況など。 ②各授業の演習課題提出(40%) ※演習課題は,提出するだけでなく提出物の内容を見て評価する。 ③小レポート(20%) ※レポート課題を2回提示する。 合計:100%</p> <p>※公欠以外に3回欠席した場合は、評価対象外とする。</p> <p>【生成AI活用(有)】 【ルーブリック評価の活用(無)】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし</p>
<p>【教科書】</p> <p>特になし。授業資料は,Classroomに提示する。</p>
<p>【参考書】</p> <p>特になし</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>大学,高等学校,専門学校の情報処理講師を歴任。その他,複数の教育・医療機関の情報システム管理者の経験有り。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>授業内容の質問やコメントは,授業開始前もしくは,終了後,教室にて行う。急な質問や連絡がある場合は,メールで連絡すること。</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>totakahashi@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>授業内で提示する課題は,授業内時間もしくは,授業で指定した期限内に必ず提出すること。MicrosoftOfficeがインストールされているWindowsPCを持参すること。授業の資料は,Classroomに掲載する。</p>

授業科目名	情報リテラシー	担当教員名	高澤 芳弘					
コード	26103	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
①	対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力							
②	看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力							
③	専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力							
④	人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力							
⑤	地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力							
◎	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力							
【授業の概要】								
「情報リテラシー」は、看護の専門的知識を学ぶための基盤づくりとなる情報収集法と情報・科学技術や人工知能を正しく活用するための知識・技術を身につける科目である。近年のICT発展に伴い、世界中の情報機器がインターネットにつながり、大量の情報を簡単に入手できる。そのため、利用者は情報リテラシーを理解し、ルールを守って利用する必要がある。本授業では、情報社会に対応できるよう必要性が高い情報リテラシーの習得を行う。具体的には、大量の情報の中から必要なものを収集し、分析・活用するための知識や技能の習得の他、レポート・論文作成に必要なソフト(Word)や表計算作成に使用するソフト(Excel)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の操作を習得する。								
【授業の到達目標】								
				評価方法				
				①	②	③	④	⑤
1 情報モラル・セキュリティ・法規(著作権・肖像権)を理解し、遵守できる。				○	○	○	○	
2 Word・Excel・PowerPointを活用し、レポート・資料・統計処理を適切に行える。				○	○	○	○	
3 大量の情報から必要な情報を収集・分析・活用できる。				○	○		○	
4 ICTツールを活用し、情報共有とコミュニケーションを円滑に行える。				○	○		○	
5 生成AIの概要とリスクを理解し、適切に活用できる。				○	○	○	○	
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	ガイダンス・情報社会と情報モラル・法規(著作権・肖像権)	高澤	予習(90分):シラバスを熟読し、高校時代の「情報Ⅰ」教科書の「情報社会と情報モラル」を確認し、重要語句を整理する。 復習(90分):情報モラル・著作権に関する最新事例を調べて要約し、配信された復習問題を解く。					
2	情報セキュリティ(パスワード管理・SNSリスク・サイバー犯罪)	高澤	予習(90分):高校時代の「情報Ⅰ」教科書の「情報セキュリティ」に関する内容を読み、パスワード管理の基本とSNS利用の注意点をまとめる。 復習(90分):授業で扱った事例をもとに、SNSリスクに関する記事を検索・要約し、配信された復習問題を解く。					
3	レポート・論文作成演習 (GoogleドキュメントまたはWord)	高澤	予習(90分):レポートのテーマを決定し、構成案を作成。ドキュメント(またはWord)の基本操作を確認。 復習(90分):授業で作成したレポートを見直し、引用・参考文献の書き方を確認。					
4	表計算演習① (GoogleスプレッドシートまたはExcelは:基本操作・関数)	高澤	予習(90分):スプレッドシート(またはExcel)の基本操作とSUM、AVERAGEなどの関数を練習。 復習(90分):授業で扱った演習問題を再度解き、関数の使い方を確認。					
5	表計算演習② (GoogleスプレッドシートまたはExcel:統計・グラフ作成)	高澤	予習(90分):高校時代の「情報Ⅰ」教科書の「統計」に関する内容を読み、重要語句を整理。グラフ作成の手順を調べる。 復習(90分):授業で作成したデータを使ってグラフを完成させ、見やすさを改善。					
6	プレゼンテーション演習① (GoogleスライドまたはPowerPoint:スライド作成・デザイン)	高澤	予習(90分):スライド構成案を作成し、素材(画像・図表)を準備。 復習(90分):授業で作成したスライドを見直し、デザインを改善。					
7	プレゼンテーション演習② (ドキュメント・スプレッドシートの成果を統合しスライド完成)	高澤	予習(90分):ドキュメント・スプレッドシートの成果を統合し、スライドを完成。 復習(90分):発表練習を行い、ルーブリック評価項目(構成力・表現力・態度)を確認。					
8	発表・相互評価+生成AIの概要・活用演習	高澤	予習(90分):発表資料を提出、相互評価の観点を確認、発表のリハーサルをする。 復習(90分):他者の発表を評価し、生成AIの活用事例を調べてまとめる。					
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫					
①:PBL(課題解決型学習)		○	プロジェクト型学習の要素を導入 →ドキュメント・スプレッドシート・スライドを統合した発表課題で主体的な学びを促進する					
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○						
③:ディスカッション・ディベート		○						
④:グループワーク		○						
⑤:プレゼンテーション		○						
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
・課題に対する解説は、次回の授業にて行う。								

【成績の評価方法】					
①課題提出(レポート・演習)40% ②プレゼンテーション20% ③小テスト20% ④授業態度・参加度20% 合計100%					
※公欠以外に3回欠席した場合は、評価対象外とする。					
【生成AI利活用(有)]					
【ルーブリック評価の活用(有)]					
【履修申請上の条件】					
特になし					
【教科書】		書名	出版社	ISBN	
	①				⑤
	②				⑥
	③				⑦
	④				⑧
【参考書】					
特になし					
【オープンな教育リソース】					
特になし					
【担当教員の実務経験】					
高等学校において情報科目を18年以上担当し、ICT教育・教材開発・デジタルコンテンツ制作を实践。Excel VBAを活用したデジタルノート管理、校内ネットワーク・Google Classroom・Microsoft Teamsによる課題管理とフィードバック、動画制作を通じたプロジェクト型学習を实践。情報モラル・セキュリティ指導、生成AI活用演習、課題サイト運営など、ICTを活用した教育実践の経験有り。					
【オフィスアワー】					
授業内容の質問やコメントは授業開始前もしくは終了後、教室にて行う。Google Classroomでも可能。急な質問や連絡がある場合は、メールで連絡すること。					
【教員連絡先】					
【備考】					
授業内で提示する課題を期限内に提出すること。MicrosoftOfficeがインストールされているWindowsPCを必ず持参すること。授業の資料はClassroomにて提示する。					

授業科目名	心理学概論	担当教員名	小俣 沙知			
コード	26104	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					

【授業の概要】
人生100年時代を迎えるなか、社会的・心理的豊かさを求める人々が増し、援助や支援を担う専門職の需要が急速に増している。こころの豊かさを求める時代において、社会に適応し生活を営むうえで必要となる教養科目の1つである。また、看護の対象である人間の行動に関する科学的思考や分析をおこなううえで心理学の基礎知識は基盤となり得る。この授業では、実験心理学、教育心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学にわたる心理学全般の基本的知見を概観し、心理学がどのような学問であるかについての理解を深める。心理学誕生と発展の歴史や研究方法に始まり、主に心理学の基礎となる領域について、これまでの研究成果を概観しながら紹介を行っていく。人間理解に繋がる手掛かりとなるよう考察する。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 人間の心理と行動について学び、自己と他者の理解を深め、心理学の基礎的知識を用いて自己と他者について説明することができる。			○		
2 心とからだのつながり、ストレス、心身の発達について説明できる。	○	○	○		
3 心理学の基礎的知識を習得するとともに、人のこころの働きやより広い視野を持って人間を理解し、人間についての自分の考えを述べるることができる。			○		
4 人のこころの働きの基本と個人差を理解するとともに、対人支援について説明できる。		○	○		

【授業計画】		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション 「心理学」の目的について学ぶ	小俣	課題:シラバスを一読し、自分なりのイメージや理解をもって参加する 予習(80分):心理学について調べままとめておく。 復習(80分):心理学の学修の目的について理解し、対人支援に必要な心理的な視点について自分の考えをまとめる。
2	認知について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習(80分):人の感覚を通して知覚する認知についてまとめてくる。 復習(90分):認知について理解を深め、錯視・錯覚などの認知について自分の考えをまとめる。
3	感情について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習(80分):人の感情について調べままとめておく。 復習(90分):感情の仕組みについて理解を深め、感情について自分の考えをまとめる。
4	欲求について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習(80分):欲求について調べままとめておく。 復習(90分):欲求の意味を理解し、欲求不満の対処について自分の考えをまとめる。
5	性格について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習(80分):自分らしさについて調べままとめておく。 復習(90分):性格の分類について理解を深め、性格の構成について自分の考えをまとめる。
6	ストレスについて学ぶ 確認小テスト	小俣	予習(80分):ストレスと心身の健康について調べままとめておく。 復習(90分):ストレスの影響について理解を深め、マネジメントについて考えをまとめる。
7	社会心理について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習(80分):社会心理学について調べままとめておく。 復習(90分):集団における個人への影響の理解を深め、他者との連携場面での対人影響について自分の考えをまとめる。
8	レポート課題提出 確認テスト 解答解説	小俣	予習(80分):これまでの講義内容についてまとめておく。 復習(90分):講義で学んだことについて理解を深め、実践の場でどの様に活用できるかについて考えをまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】
フィードバックとして、レポート(リアクションペーパー)にコメントを入れて返却する。

【成績の評価方法】					
①授業参加度:20%、②確認テスト:40%、③課題レポート:40%					
1. どの程度、積極的に授業時に参加したかを「授業参加度」として評価する。					
2. 確認テストでは各回で講義した内容に関しての全体の理解度を確認する。					
3. 課題レポートでは、対人支援における他者理解で心理学の基礎的な理論が応用できているかの視点を重視する。					
【生成AI利活用（無）】					
【ルーブリック評価の活用（無）】					
【履修申請上の条件】					
特になし。					
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社
①				⑤	
②				⑥	
③				⑦	
④				⑧	
【参考書】					
「看護学生のための心理学」(長田久雄著) 医学書院					
【オープンな教育リソース】					
特になし。					
【担当教員の実務経験】					
特になし。					
【オフィスアワー】					
金曜日 午前					
【教員連絡先】					
somata@g.t-junshin.ac.jp					
【備考】					
特になし。					

授業科目名	純心平和学	担当教員名	大竹聖美、井上救、田中路			
コード	26105	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	①	対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力				
	②	看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力				
	③	専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力				
	④	人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力				
	⑤	地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力				
	⑥	生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力				

【授業の概要】
 「純心平和学」は、対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力を修得するために、学園創設者であるSr.江角ヤスの平和への希求を知り、考える科目である。本学で学ぶ一人ひとりが建学の精神を体現し、日々の生活・将来の職場・それぞれの置かれた場所で、小さな平和を実現できるように具体的な手がかりを修得することを目指す。自分と他者を大切に作る基盤となる奉仕の精神を育み、平和を考える。平和へのアプローチは多様で、さまざまな視点から平和について考え取りくむことが可能であるが、純心平和学では、本学の全人教育の伝統に立ち、音楽・美術・絵本を通して平和を考察する。芸術を通して、対象と向かい合い、共感し、理解する実践の場でもある。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 学園創設者Sr.江角ヤスの平和観を要約し、説明できる			○		
2 芸術作品(音楽・美術・絵本)から平和の要素を抽出し、分析できる			○		
3 対話を通じて他者の意見を整理し、共有できる	○				
4 奉仕の行動を記録し、具体例を挙げて報告できる			○		
5 自身の立場から小さな平和の実現を企画し、提案できる		○			

【授業計画】		授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【全体概要と平和のまなざし】授業の目的・到達目標・評価方法を説明し、「小さな平和」の概念と芸術によるアプローチの可能性を導入する。	大竹・井上・田中路	大竹・井上・田中路	授業で配布された資料を参照しながら、分野ごとに指示された課題に取り組み、フォームを提出する(110分)
2	【創設者と建学の精神に学ぶ平和】Sr.江角ヤスの生涯と「マリア様、嫌なことは私が喜んで」の精神、カトリック大学としての理念(愛に根差した真の知恵)を学び、日常における奉仕と平和の関係を考察する。	大竹・井上・田中路	大竹・井上・田中路	授業で配布された資料を参照しながら課題に取り組み、フォームを提出する(115分)
3	【絵本と平和①:物語に宿る共感】絵本を通して他者理解と共感の力を探る。<赤ちゃん絵本>を通して、対面・受容・傾聴・応答・信頼・安心・満足を考える。	大竹・井上・田中路	大竹・井上・田中路	授業で配布された資料を参照し、資料に掲載されている絵本、参考図書を読む(180分)
4	【絵本と平和②:語りと沈黙の力】絵本の構造や表現技法に注目し、言葉にならない感情や沈黙の意味を考察。学生自身が読み聞かせを体験し、言葉と感情、想像力と平和を考える。	大竹・井上・田中路	大竹・井上・田中路	授業で配布された資料を参照しながら課題に取り組み、フォームを提出する(180分)
5	【美術と平和①:見ることの倫理】「平和を象徴する美術」を鑑賞し、視覚表現が語る平和のメッセージ、祈りや希望を読み解く。	大竹・井上・田中路	大竹・井上・田中路	「平和を象徴する美術」と思われる作品を調べてくる(180分)
6	【美術と平和②:表現と祈りのかたち】学生自身が「平和を象徴する美術作品」を制作する。	大竹・井上・田中路	大竹・井上・田中路	制作する作品のイメージを絵にして持参する(180分)
7	【音楽と平和①:音がつなぐ心】音楽の持つ癒しや祈りの力、一体感を体験的に学ぶ。平和を願う祈りの楽曲である讃美歌を鑑賞し、歌い、身体を通してその精神性を修得する。	大竹・井上・田中路	大竹・井上・田中路	【予習】ガイダンス時に予告された讃美歌の楽譜に目を通して(90分) 【復習】トーンチャイム・ハンドベルの楽譜を読み自分のタイミングを確認する(90分)
8	【音楽と平和②:声と沈黙の表現】声・リズム・沈黙の表現を通して、非言語的な平和のメッセージを探る。簡単な音のワークショップを通じて、身体感覚と平和を結びつける。	大竹・井上・田中路	大竹・井上・田中路	トーンチャイム・ハンドベルの楽譜を読み自分のタイミングを確認する(90分) 【復習】リスニング・ウォークの課題を通して、患者のための音環境づくりについての意見をまとめる(添削後適宜返却)(90分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		*本科目は、第1回目と第2回目を除き、第3回目以降は3グループに分かれてグループ別学修を行う。 *出席番号順にA・B・C班に分かれ、同一授業日程、3グループ同時進行で203(大竹担当)、301(井上担当)、201(田中路担当)にて次のように実施される。【A班】第3回:絵本と平和①、第4回:絵本と平和②、第5回:美術と平和①、第6回:美術と平和②、第7回:音楽と平和①、第8回:音楽と平和②/【B班】第3回:美術と平和①、第4回:美術と平和②、第5回:音楽と平和①、第6回:音楽と平和②第7回:絵本と平和①、第8回:絵本と平和②/【C班】第3回:音楽と平和①、第4回:音楽と平和②、第5回:絵本と平和①、第6回:絵本と平和②、第7回:美術と平和①、第8回:美術と平和②
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】
 *絵本・美術・音楽でそれぞれ課題が出され、フィードバックされる。フィードバックの方法は各担当教員から授業時に説明がある。

【成績の評価方法】
 ①授業参加度: 30%
 ②プレゼンテーション: 30%
 ③提出物: 40%
 合計:100%
【生成AI利活用(無)】
【ルーブリック評価の活用(有)】

【履修申請上の条件】
 特になし

【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
①	科目担当教員による配布資料のみ			⑤		
②				⑥		
③				⑦		
④				⑧		

<p>【参考書】 授業時に指示する</p>
<p>【オープンな教育リソース】 千葉大学アカデミックリンクセンター<『児童文学事典』電子版> https://alc.chiba-u.jp/cl/</p>
<p>【担当教員の実務経験】 日本ペンクラブこどもの本委員、国立国会図書館国際子ども図書館外国語書籍調査員、八王子学園都市大学いちょう塾講師、大学コンソーシアム八王子夏休み子どもいちょう塾講師、八王子ふれあい子ども祭り講師、東京都保育士等キャリアアップ研修講師、日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス講師等</p>
<p>【オフィスアワー】 大竹:月・水・金の昼休み／井上:月・金の昼休み／田中:火・金の昼休み</p>
<p>【教員連絡先】 大竹: kootake@g.t-junshin.ac.jp 井上: sinoue@g.t-junshin.ac.jp 田中: m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】 特になし</p>

授業科目名	キリスト教学	担当教員名	宮本 久雄					
コード	26106	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力							
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力							
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力							
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力							
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力							
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力							
【授業の概要】								
看護に職業と人生の意義を学生一人ひとりが見出すことを授業の目的とする。そのための最も基本的な自らの成熟を励まし促す方策として「他者論」を提示する。すなわち、「他者論」とは、他者が誰であり、他者と出会い共に生きることの自覚の深まりである。この「他者論」のテーマをめぐって、授業では物語的方法をとる。そこでは他者と真に出会い、他者に供えつつ共に生きた人々の物語を紹介していきたい。その人々は、宗教・科学・文学・死生学などの分野に生きた人々である。例えば、知的ハンディを負った子供たちと生きたJ・パニエ、水俣病患者の苦姿を共苦した石牟礼道子、カルカッタで弱い病者などに献身したマザー・テレサ、愛の福音を全人類に向けて語ったイエス・キリストです。授業では、彼らの物語資料、テキスト、言葉そして彼らを具体的に示すDVDを用い、学生諸君に解り易いように解説します。その授業内容を若者学生が、全心身に体現できるように。								
【授業の到達目標】								
				評価方法				
				①	②	③	④	⑤
1 授業において「他者の物語」をよく聞き身につけ、他者の尊厳と権利を守る為奉仕するその意味を述べることができる。				○	○			
2 「他者の物語」とは、他者のために生きた人格(イエス、マザー・テレサなど)の物語り、豊かな人間性の悟りであるそのことを述べるができる。				○	○			
3 「他者の物語」の傾聴は、自己が他と関わる人格の育みの根本となり、看護の根本となる具体的な内容を述べるができる。				○	○			
4 国際社会でも活躍できることを具体的に説明できる。				○	○			
5								
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	授業の方法:物語り論と3つのC DVD「チェルノブイリ」(47分)をみる。 NP『チェルノブイリの祈り』	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					
2	DVD「十万年後の安全」(79分)を見る。	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					
3	イエスのたとえ、たとえの文学ジャンル「善きサマリア人」(1)	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					
4	「善きサマリア人」(2)、「ぶどう園の主人と働き人」	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					
5	「無慈悲な僕」(エンブレム)、リアクションペーパー	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					
6	マザー・テレサの生涯と働き;DVDを見る。生涯の説明。 マザー・テレサのことば(1)	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					
7	マザー・テレサのことば(2) 日本のハンセン病患者の母、井深八重 DVD(46分)をみる。	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					
8	井深八重の生涯	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					
			時間外学修時間は29時間必要であるので、不足分は休日等を活用して予習・復習すること。					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)				DVDなどの活用				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)								
③:ディスカッション・ディベート			○					
④:グループワーク			○					
⑤:プレゼンテーション			○					
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
レポートの書き方の説明と予行実習をする。 リアクション・ペーパーについてのコメントを行う。								
【成績の評価方法】								
・前期のレポート(70%) ・リアクション・ペーパー(10%) ・授業中にテキストを読んでもらう時の態度など(20%)、他 合計100%								
【生成AI利活用(無)】								
【ルーブリック評価の活用(無)】								

【履修申請上の条件】						
特になし						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 関わるということ	教友社	9784911258163	⑤		
	②			⑥		
	③			⑦		
	④			⑧		
【参考書】						
特になし						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
神学研究・実践者として、東大25年、上智大8年、本学5年目の実務経験を通し、各学生のレベルを見極めながら、特に看護師となって成長する上で物語論を工夫している。						
【オフィスアワー】						
木曜日9時半～12時10分						
【教員連絡先】						
電話・FAX 03(3463)2536						
【備考】						
授業後にレポート提出(1200字前後)。講義の中で自分に興味・関心のあるテーマを自由に選び、手書き原稿で提出する。						

授業科目名	日本国憲法	担当教員名	石黒 麻利子			
コード	26107	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修 ○	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	①	対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力				
	②	看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力				
	③	専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力				
	④	人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力				
	⑤	地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力				
	⑥	生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力				

【授業の概要】
 本講義では、憲法の歴史、憲法の存在意義、憲法と法律の違い、大日本帝国憲法と日本国憲法の相違、日本国憲法が公布されるまでの経緯、日本国憲法の基本原理(国民主権、基本的人権の尊重、平和主義)、人権各論、新しい人権、人権を巡る諸問題、統治機構の制度的特徴と国際比較、憲法改正の手続きと憲法改正に関する論点を学び、看護専門職としてなぜ日本国憲法を学ぶ必要があるのかを理解し、人権に配慮した法的思考方法を会得する。また、日本国憲法が、個人の人々の社会生活、医療の現場、看護を実践する上でどのような役割を果たしているのかについて具体的な事例研究をとおして考察する。さらに、看護専門職として臨床で遭遇する人権問題について検討し、紛争防止・解決策を会得する。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 憲法の存在意義、憲法と法律の違い、立憲的意味の憲法の内容と特徴を説明できる	○	○			
2 日本国憲法の定める国民主権の意義・内容を説明できる	○	○			
3 日本国憲法の定める基本的人権の尊重の意義・内容を説明できる	○	○			
4 日本国憲法の定める平和主義について意義・内容を説明できる	○	○			
5 日本国憲法の定める統治機構の制度的特徴を説明できる	○	○			

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	憲法の存在意義、憲法と法律の違い、立憲的意味の憲法の内容	石黒	予習(0.5時間)六法とは何か調べる 日本国憲法を読んでおく 復習(0.5時間)課題小論文の復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
2	憲法の歴史、日本国憲法誕生の経緯	石黒	予習(0.5時間)大日本国憲法と本國憲法を読み比べる 復習(0.5時間)課題小論文の復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	日本国憲法の三大原理、個人の尊重、法の支配	石黒	予習(0.5時間)日本国憲法の三大原則とは何か調べる 復習(0.5時間)課題小論文の復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	平和主義 憲法9条をめぐる問題点	石黒	予習(0.5時間)個別的自衛権と集団的自衛権の意味、違いを調べる 復習(0.5時間)課題小論文の復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	統治機構(1)権力分立の原理 大統領制と議院内閣制	石黒	予習(0.5時間)権力分立とは何か、なぜ必要か調べる 復習(0.5時間)課題小論文の復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	統治機構(2)国会 国会の地位 立法権 両院制 選挙制度	石黒	予習(0.5時間)日本国憲法第四章国会を読んでおく 復習(0.5時間)課題小論文の復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	統治機構(3)内閣 行政権 内閣総理大臣の権限 衆議院の解散 内閣の職務	石黒	予習(0.5時間)日本国憲法第五章内閣を読んでおく 復習(0.5時間)課題小論文の復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	統治機構(4)裁判所 司法権・裁判官の独立 特別裁判所の禁止 違憲立法審査権	石黒	予習(0.5時間)日本国憲法第六章司法を読んでおく 復習(0.5時間)課題小論文の復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
9	統治機構(5)地方自治 憲法改正をめぐる諸問題	石黒	予習(0.5時間)憲法改正がなぜ問題になるか調べる 復習(0.5時間)課題小論文の復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
10	人権(1)総論 人権の歴史 個人の尊重・幸福追求権 公共の福祉 法の下の平等	石黒	予習(0.5時間)日本国憲法第三章国民の権利及び義務を読んでおく 復習(0.5時間)課題小論文の復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
11	人権(2)精神的自由 思想良心の自由 信教の自由 表現の自由 学問の自由 職業選択の自由 家族生活における個人の尊厳と両性の平等	石黒	予習(0.5時間)精神的自由にはどのような権利が含まれるか調べる 復習(0.5時間)課題小論文の復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
12	人権(3)プライバシー権 自己決定権と医師の説明義務 最高裁判例解説	石黒	予習(0.5時間)プライバシー権とは何か、医師の説明義務と自己決定権の関係を調べる 復習(0.5時間)課題小論文の復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
13	人権(4)刑事手続きにおける権利 罪刑法定主義 法定手続の保障	石黒	予習(0.5時間)罪刑法定主義とは何か調べる 復習(0.5時間)課題小論文の復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
14	人権(5)経済的自由 生存権 勤労の権利 財産権	石黒	予習(0.5時間)経済的自由にはどのような権利が含まれるか調べる 復習(0.5時間)課題小論文の復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
15	日本国憲法が医療にどのように関係するか 医療事故と医療過誤 医療訴訟	石黒	予習(0.5時間)日本国憲法が医療にどのように関係するのか調べる 復習(0.5時間)課題小論文の復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫				
①:PBL（課題解決型学習）	○	パワーポイントを使用 講義内容を踏まえた課題を与え小論文を作成させる 次の講義で講評し、多様な考え方があることを理解させ、さらに問題意識を深める				
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○					
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
課題小論文に対するフィードバックは、次回の講義で行う フィードバックとして、課題小論文について講評を加える						
【成績の評価方法】						
①定期試験 60%						
②小論文 40%						
合計:100%						
【生成AI利活用（ 無 ）】						
【ルーブリック評価の活用（ 無 ）】						
【履修申請上の条件】						
なし						
【教科書】	書 名	出版社	ISBN	書 名	出版社	ISBN
	① ポケット六法 令和8年版	有斐閣		⑤		
	②			⑥		
	③			⑦		
	④			⑧		
【参考書】						
特になし						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
脳神経科学者(医学博士)として専門分野において、医学的知識を講義する 弁護士として専門分野において、法的知識、判例等について講義する						
【オフィスアワー】						
授業日の14:30～16:10						
【教員連絡先】						
mishiguro@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】						
パワーポイント原稿の撮影禁止 私語禁止 小論文は用紙縦置き・横書き・右上に学籍番号と氏名 違反者は0点						

授業科目名	看護学セミナー	担当教員名	塚本 都子・宮本 久雄			
コード	26108	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					
【授業の概要】 「看護学セミナー」は、医療倫理、看護倫理および法的責任を理解しながら看護を遂行する能力を身に付けることを目的とし、看護学を学ぶ上での導入科目として位置づけられている。大学生に期待される基礎的な「学びの態度・方法・知識など」を修得し、高校生から大学生へのスムーズな移行を図る。また、個人ワークやグループワークにより学生主体型授業展開をし、自ら必要な知識を得て、各自の課題に気づきその課題に向けての解決策について体系的に考えることができるようにする。さらに、卒業後のキャリア生活を見据え、期待される看護職とはどのような存在であるのかということ早期より考察する力をつけ、看護専門職としての責務を遂行する能力を身に付ける。						
【授業の到達目標】						
評価方法						
① ② ③ ④ ⑤						
1 大学生における様々なストレスと要因、対処方法を記述できる						
2 理想とする看護職に必要な能力の獲得をめざし、大学における学修方法が説明できる。						
3 教科書や文献の活用方法と授業中のノートの整理方法や工夫する方法を述べることができる。						
4 図書館とデータベースを活用する方法および資料収集方法、基本的なルールについて説明できる。						
5 科学的・論理的な視点でレポート作成できる。						
6 社会人として求められるコミュニケーション能力、ディスカッションスキル、共通テーマに対しての学びを発表することができる。						
7 看護学を大学で学ぶ意義について、自分の考えを記述することができる。						
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	1)コースガイダンス 生徒から学生への変換「大学で学ぶということ-意義・責任-」 2)スチューデント・スキル ①対人関係のスキル(マナー・コミュニケーション・自己表現と他者紹介)【演習】 ②効果的な学び方	塚本	予習(15分):授業内容についてテキスト(大学生 学びのハンドブック)の該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(15分):講義を振り返り、自己表現とコミュニケーションに必要な話の順番、話の間のとり方、傾聴などについての資料を検索し準備し、熟読してくる。			
2	3)看護キャリアの設計 ①看護師を志す理由 ②看護観(理想とする看護師像)、内閣府世論調査との比較 ③東京純心大学看護学部を選んだ理由 ④ディプロマ・ポリシーの理解と達成戦略 資料:看護学部3P、カリキュラム・ツリー、シラバス、看護職の倫理綱領 ⑤4年後の自分像に向けてメッセージ	塚本	予習(15分):テキスト「よくわかる看護職の倫理綱領」看護職の倫理綱領を読み、分からない用語を調べてくる。 復習(30分):講義を振り返り、これからの自己の考えをまとめる。			
3	③青年期におけるストレス対処スキル ④日々の健康管理 ⑤倫理的感受性と責任 【講義終了時】小テスト10点	望月先生 (塚本)	予習(15分):自身が抱えやすい日常のストレスについて、日常的に意識している健康管理についてまとめる。 復習(30分):テキスト「よくわかる看護職の倫理綱領」を熟読し、本文①～⑩の中で、あなたが一番関心のある本文に関する考えをまとめる。			
3	3)看護キャリアの設計 ①看護師を志す理由 ②看護観(理想とする看護師像)、内閣府世論調査との比較 ③東京純心大学看護学部を選んだ理由 ④ディプロマ・ポリシーの理解と達成戦略 資料:看護学部3P、カリキュラム・ツリー、シラバス、看護職の倫理綱領 ⑤4年後の自分像に向けてメッセージ	塚本	予習(15分):テキスト「よくわかる看護職の倫理綱領」看護職の倫理綱領を読み、分からない用語を調べてくる。 復習(30分):講義を振り返り、これからの自己の考えをまとめる。			
4	4)ポートフォリオ作成 ①ポートフォリオとは ②看護学セミナー「看護キャリアデザイン・ポートフォリオ」の作成(各自)	塚本	予習(15分):パーソナルポートフォリオについて、調べてくる。 復習(30分):講義を振り返り、学びをまとめる。			
5	4)ポートフォリオ発表 ①自身の看護キャリア設計の発表 ②他学生の看護キャリア設計からの発見:各自記載し、ポートフォリオに綴る 【講義終了時】課題ポートフォリオ20点	塚本	予習(15分):自己表現とコミュニケーションに必要な話の順番、話の間のとり方、傾聴などについての資料を検索し準備する。 復習(30分):講義を振り返り、学びをまとめる。			
6	5)スタディ・スキル ①ノートのとり方 ②反転学修(用語の調べ方・文章の読み方・まとめ方など) 本や資料を音読する (図書館)	塚本	予習(15分):事前に図書館を見学し、気づいた点や分からない点等をまとめる。 復習(15分):講義を振り返り、学びをまとめる。課題図書「闘病記」の検索等に取り組む。			
7	③レポート作成時の書籍、資料、文献収集方法など (図書館) ④研究についての倫理の基礎(捏造・改ざん・盗用)について 【講義終了時】小テスト10点	塚本	予習(15分):自分の関心・興味のある書籍や文献について説明できるように準備する。 復習(30分):講義を振り返り、学びをまとめる。			

8	⑤レポートの書き方 ・レポートとは何か ・レポート作成の基本(テーマ設定・構成・形式等、日本語のルール) ・著作権や個人情報保護などの法令遵守、人権、個人情報など	塚本	予習(15分):授業内容についてテキスト(看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンBOOK)の該当する箇所を熟読する。 復習(30分):講義を振り返り、学びをまとめる。
9	⑥仲間とともに学ぶスキル ・学修する仲間とは ・共同学習とは ・仲間との学習スタイル ⑦ディスカッション・スキル ・活気溢れるグループワークとは ・ゼミナール発表とは ⑧次回、オリエンテーション(知りたいこと・関心ごと・調べたいこと・疑問に思うこと) 【講義終了時】小テスト10点	塚本	予習(15分):テキストにおける「ゼミ発表」、「グループワーク」の箇所を熟読してくる。 復習(30分):講義を振り返り、学びをまとめる。オリエンテーションを受けて次回までの準備を行う。
10・11	⑨「よくわかる看護職の倫理綱領」の理解 ・本文1から16を読み、興味・関心があるテーマを決定する。 文献を用いて理解を深め考察し、レポートを作成する。 【レポート20点】	塚本	予習(30分):テキストにおける「ゼミ発表」、「グループワーク」の箇所を熟読してくる。 復習(60分):講義を振り返り、学びをまとめる。オリエンテーションを受けて次回までの準備を行う。
12	・グループワーク プレゼンテーション準備(パワーポイント、10枚程度) 1.タイトル・メンバー・発表年月日 2.はじめに(選定理由と選定した本文について) 3.選定した本文の重要性 4.疑問点と調べた結果 5.今後の課題	塚本	予習(30分):共通テーマを決定した後、グループで次回のパワーポイント作成と発表資料を準備する。 復習(15分):発表会を振り返り、学びをまとめる。
13	・グループ学びの発表会 【グループワーク・参加態度・発表 20点】 発表時間 7分程度、質疑応答5分程度 追加・修正したPPを提出する	塚本	予習(30分):グループで次回のパワーポイント作成と発表資料を準備する。 復習(15分):発表会を振り返り、学びをまとめる。
14	・J. バニエと知的ハンディの人々の協団体「ラルシュ」 【講義】	宮本	予習(15分):J. バニエと知的ハンディの人々の協団体「ラルシュ」について書籍や文献を読む。 復習(15分):講義を振り返り、学びをまとめる。
15	・J. バニエと知的ハンディの人々の協団体「ラルシュ」 【講義】	宮本	予習(15分):J. バニエと知的ハンディの人々の協団体「ラルシュ」の書籍や文献を読む。 復習(30分):講義を振り返り、学びをまとめる。 ■授業終了後課題:テーマ 看護学を学ぶ意義 サブテーマ -私の目指す看護師像- についてまとめる。 文字数:1000~1500字程度のレポート作成する。 文字のフォント:10.5ポイント 明朝体 ■提出:授業終了1週間後(〇月〇日17:00)学務課専用ポストに提出(10点)
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		○	DVD活用
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション		○	
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
リアクションペーパーや課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義のなかで実施する。			
【成績の評価方法】			
①到達目標1・3・4・5に記載されている基礎的知識を小テストで評価する。 ②到達目標2・7に対して、パーソナル・テーマポートフォリオおよびレポートをルーブリックで評価する。 ③到達目標6に対して、グループワークおよび発表に対して他者評価・自己評価する。 <割合> 小テスト:30% 課題ポートフォリオ:20% グループワーク・発表:20% レポート30% 合計:100%			
【生成AI利活用(有)】			
【ルーブリック評価の活用(有)】			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】	書名	出版社	ISBN
①	大学生 学びのハンドブック[5訂版]	世界思想社	9784790717492
②	よくわかる 看護者の倫理綱領 第3版	照林社	9784796525480
③			
④			
⑤			
⑥			
⑦			
⑧			
【参考書】			
1. 梶谷佳子、河原宣子、堀 妙子編集:看護学生のための よくわかる大学での学び方、金芳堂、2018。 2. メヂカルフレンド社編集部:New看護学生プレトレーニング 看護を学ぶ前にもう一度整理しておきたい基礎知識、メヂカルフレンド社、2019。 3. 佐藤智明、矢島 彰、山本明志編:3訂 大学 学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック、ナカニシヤ出版、2020。 4. 坂井浩美・山崎啓子著:看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンBOOK、日本看護協会出版、2021。 5. 藤井徹也:看護学生スタートブック 第2版、医学書院、2021。			
【オープンな教育リソース】			
公益社団法人日本看護協会ホームページ https://www.nurse.or.jp/episode/ 内閣府 世論調査 https://survey.gov-online.go.jp/h04/H05-01-04-16.html			
【担当教員の実務経験】			
看護師としての実務経験および看護大学の教員経験のある者、臨床心理に関する有識者、図書館の知識のある者を中心に、看護学セミナーを教授する。			

【オフィスアワー】

塚本は、火・木の12:00～13:00、16:00～18:00である。研究室への訪室やg-mailで質問等に対応する。

【教員連絡先】

塚本都子 mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

この科目は、看護学の基礎的知識・技術・態度について学ぶ。また、クラスで協同するグループワークも取り入れているので積極的な参加が必要である。進度は、1週間に2時間ずつ進む。必ず、教科書や図書館の資料などを活用し、予習、復習を丁寧に行うことにより、看護学への学問的な関心が高まる。後期に位置する専門科目の履修に重要な科目である。

授業科目名	コミュニケーション論	担当教員名	大輪 香菊			
コード	26109	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
①	対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力
②	看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力
③	専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力
◎	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力

【授業の概要】
 本科目では、言語コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの理論を学び、「傾聴」「説得」「感情表現」など、人間関係を豊かにするヒントとなるコミュニケーションの方策を学ぶ。さらに認知行動療法等の心理学的要素(ABC理論・自己肯定・アサーション)も取り入れ、自らの心を守る考え方を構築し、生活の中でも実践する。そして理論だけではなくワークや発表も組み込み、自己表現やチームワークを体感することでコミュニケーションの理解を深める。これにより、看護実践に必要なコミュニケーション技術に関する基本的な理論と方法を修得し、看護を効果的に提供する能力を養うことを目標とする。コミュニケーション論は、言語学、心理学、生理学などが関わる学際的な学問であるため、今後の学びに活かしていく。

【授業の到達目標】		評価方法				
		①	②	③	④	⑤
1	礼儀を重んじ、敬語に慣れ、よりよい人間関係を築ける。	○	○	○		
2	建設的かつ解りやすく、言いたい事を伝えることができる。	○	○	○		
3	自己概念を持ち、自己紹介ができる。		○			
4	自己理解から他者理解を深め、円滑にコミュニケーションがとれる。	○	○			
5	客観的かつ心理学的にも事象を捉え、自他ともに良好な関係を築ける。	○	○			

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	コミュニケーション概要・提出小レポートの書き方 1. コミュニケーションとは何か・敬語のおさらい 2. なぜコミュニケーションが必要なのか 3. 理論と感情論について知る (以降、授業資料はパワーポイントで作成したものを活用)	大輪	予習(20分):敬語ドリルを実施 復習(40分):講義の内容を各自見返す 課題(90分):授業中に課題を提示する。
2	コミュニケーションのルール違反について 1. ルール違反に合った時の考え方(ABC理論と自己肯定) 自己概念・自己理解 1. 自己理解を深める 2. ディスカッションを通して自分と他人の違いを知る	大輪	予習(20分):敬語ドリルを実施 復習(40分):ディスカッションの感想を提出。 課題(90分):授業中に課題を提示する。
3	言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション 1. 言語と非言語のコミュニケーションの違い 2. 伝え方の工夫を考える	大輪	予習(20分):敬語ドリルを実施 復習(40分):言語と非言語のコミュニケーションについてまとめる。 課題(90分):授業中に課題を提示する。
4	考えを整理して伝える 1. 伝え方を考える(PREP法) 2. 構成を順序立てて話をする (グループ内でチェックワーク)	大輪	予習(20分):敬語ドリルを実施 復習(40分):PREP法を実践してみて、課題点や注意点を探る。 課題(90分):授業中に課題を提示する。
5	【チームによるプレゼン】の為のディスカッション (ワーク) 1. 次回のプレゼン内容について、アイデアを持ち寄る 2. 持ち寄ったアイデアをひとつに絞る。次回チームで発表する。	大輪	予習(20分):敬語ドリルを実施 復習(60分):次回の発表に向けて内容、構成、発表順、担当者を決めて練習しておく。 課題(100分):授業中に課題を提示する。
6	【チームによるプレゼン】(発表当日のみ2コマ連続授業) 1. チーム毎のプレゼンテーション 2. ディスカッションし、話をまとめ、聴衆に伝える	大輪	予習(60分):今日のプレゼン内容を確認する。 復習(60分):グループの発表が良かったかをチェックし提出。 課題(100分):授業中に課題を発表する。
7・8	【ゲスト講義】(2コマ連続授業) 1. 「異文化共生とコミュニケーション」について講話を聴く 2. ディスカッションし、質問する。	大輪	予習(30分):敬語ドリル総復習を実施 復習(80分):講話を聴き、医療従事者としての異文化コミュニケーションについてレポート提出。 課題(200分):授業中に課題を発表する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		予習では「敬語ドリル」を実施。冒頭で答え合わせと解説をしてから講義に入ります。 基本的にディスカッションやプレゼンを含め、対話は敬語とします。 また授業では動画を取り入れて学生の理解を深めます。 グループ発表を実施。課題作成時にもコミュニケーションが必要となります。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】
 授業内ディスカッション終了後に、取り組みへの感想まとめを含めて提出

【成績の評価方法】						
①授業内容を振り返る小レポート:(40%) ②グループ発表会参加度:(30%) ③定期試験:(30%) これらをもって総合評価する。						
【生成AI利活用(無)】						
【ルーブリック評価の活用(無)】						
【履修申請上の条件】						
特になし						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 大学1年生からのコミュニケーション入門	ナカニシヤ出版	9784779504693	⑤		
	② 社会人の常識敬語ドリル	語研	9784876151783	⑥		
	③			⑦		
	④			⑧		
【参考書】						
特になし						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
<ul style="list-style-type: none"> ・フリーアナウンサーとして、ラジオ、テレビなどでキャスター、リポーター、ナレーションを担当。視覚障害者向けの音訳も手掛け、「わかりやすく伝えるための音声表現」の実践、中国帰国者の労苦を伝える語り部としても活動している。 ・大学のほか、ビジネスマンや子ども向けの「アナウンスレッスン」講座も行っている。 ・言語・非言語コミュニケーション、プレゼンテーション、留学生などの日本語教育指導にも携わる。 						
【オフィスアワー】						
授業内容についての質問やコメントへの対応は、講義開始前もしくは終了後に教室で行う。						
【教員連絡先】						
kohwa@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】						
特になし						

	英語 I	担当教員名	増田 光																																																																		
コード	26110	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修 ○	選択																																																																
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義																																																																		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】																																																																				
◎	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力 ② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力 ③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力 ④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力 ⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力 ⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力																																																																				
【授業の概要】 英語 I は、看護学部の1年前期の必修科目で、言語習得をとおして人間関係を築くためのコミュニケーション能力を育成することを目的としている。グローバル化が進む中、学生が村米、海外の医療機関で就業したり、医療ツーリズムなどで海外からの患者に接する、あるいは海外からの医療従事者達と英語でコミュニケーションをとったりする場合などに活躍できるよう、英語力の基礎を築く。聴く、話す、読む、書くといった英語の4技能をバランスよく学ぶ。2クラスに分けて少人数での実践的なコミュニケーション能力も磨く。定期試験の際には2クラス合同で共通問題を使用する。外部の4技能英語検定試験(英検)の準2級プラス程度に相当する英語力の習得を目指している。																																																																					
【授業の到達目標】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="5">評価方法</th> </tr> <tr> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 基本的な英文法を復習することにより、4技能の向上に活かすことが出来る。</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 リスニング教材が豊富に含まれているため、英文聴き取りのコツをつかみ、リスニング能力がつく。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 課題として英文を書くため、ライティングへの抵抗感が薄れて書く力が伸びる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 場面を設定した会話練習を行うので、相手の立場を考えたコミュニケーション能力がつく。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							評価方法					①	②	③	④	⑤	1 基本的な英文法を復習することにより、4技能の向上に活かすことが出来る。	○	○	○			2 リスニング教材が豊富に含まれているため、英文聴き取りのコツをつかみ、リスニング能力がつく。			○			3 課題として英文を書くため、ライティングへの抵抗感が薄れて書く力が伸びる。	○					4 場面を設定した会話練習を行うので、相手の立場を考えたコミュニケーション能力がつく。	○					5																												
	評価方法																																																																				
	①	②	③	④	⑤																																																																
1 基本的な英文法を復習することにより、4技能の向上に活かすことが出来る。	○	○	○																																																																		
2 リスニング教材が豊富に含まれているため、英文聴き取りのコツをつかみ、リスニング能力がつく。			○																																																																		
3 課題として英文を書くため、ライティングへの抵抗感が薄れて書く力が伸びる。	○																																																																				
4 場面を設定した会話練習を行うので、相手の立場を考えたコミュニケーション能力がつく。	○																																																																				
5																																																																					
【授業計画】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>授業計画</th> <th>担当者</th> <th>授業外学修(予習・復習・課題等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業計画の進め方、Unit 1 Introduction (1)</td> <td>増田</td> <td>予習(30分): p.5のVocabularyを解いておく。復習(15分): 自己紹介の表現を復習する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 Introduction (2)</td> <td>増田</td> <td>予習(30分): p.9のReadingを予習する。復習(15分): Readingを復習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2 What a life!(1), 小テスト</td> <td>増田</td> <td>予習(30分) p.11のVocabularyを解いておく。復習(15分): Readingを復習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2 What a life!(2)</td> <td>増田</td> <td>予習(30分): p.15のReadingを予習する。復習(15分): Readingを復習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 3 Free time (1), 小テスト</td> <td>増田</td> <td>予習(30分): p.17のVocabularyを解いておく。復習(15分): 趣味の表現を復習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3 Free time (2)</td> <td>増田</td> <td>予習(30分): p.22のReadingを復習する。復習(15分): Readingを復習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Presentationについて(organizing your ideas)</td> <td>増田</td> <td>予習(30分): p.25のVocabularyを解いておく。復習(15分): Presentationについて復習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 4 Places (1) 小テスト</td> <td>増田</td> <td>予習(30分): p.29のReadingを予習する。復習(15分): 場所を表す表現を復習する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 4 Places (2)</td> <td>増田</td> <td>予習(30分): p.31のVocabularyを解いておく。復習(15分): Readingを復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 5 Getting around (1) 小テスト</td> <td>増田</td> <td>予習(30分): p.35のReadingを予習する。復習(15分): 道順の表現を復習する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 5 Getting around (2)</td> <td>増田</td> <td>予習(30分): p.37のVocabularyを解いておく。復習(15分): Readingを復習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 6 Shopping (1) 小テスト</td> <td>増田</td> <td>予習(30分): p.41のReadingを予習する。復習(15分): 買い物の表現を復習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 6 Shopping (2)</td> <td>増田</td> <td>予習(30分): 小テストの学習のため予習なし。復習(45分): Readingを復習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Presentationについて(taking notes), 小テスト</td> <td>増田</td> <td>予習(30分): Writing課題から1つ選び、プレゼンテーションの準備をする。復習(15分): Presentationについて復習する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Presentation</td> <td>増田</td> <td>予習: 最終授業のため、予習はなし。復習(45分): 定期試験の準備。</td> </tr> </tbody> </table>							授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)	1	授業計画の進め方、Unit 1 Introduction (1)	増田	予習(30分): p.5のVocabularyを解いておく。復習(15分): 自己紹介の表現を復習する。	2	Unit 1 Introduction (2)	増田	予習(30分): p.9のReadingを予習する。復習(15分): Readingを復習する。	3	Unit 2 What a life!(1), 小テスト	増田	予習(30分) p.11のVocabularyを解いておく。復習(15分): Readingを復習する。	4	Unit 2 What a life!(2)	増田	予習(30分): p.15のReadingを予習する。復習(15分): Readingを復習する。	5	Unit 3 Free time (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.17のVocabularyを解いておく。復習(15分): 趣味の表現を復習する。	6	Unit 3 Free time (2)	増田	予習(30分): p.22のReadingを復習する。復習(15分): Readingを復習する。	7	Presentationについて(organizing your ideas)	増田	予習(30分): p.25のVocabularyを解いておく。復習(15分): Presentationについて復習する。	8	Unit 4 Places (1) 小テスト	増田	予習(30分): p.29のReadingを予習する。復習(15分): 場所を表す表現を復習する。	9	Unit 4 Places (2)	増田	予習(30分): p.31のVocabularyを解いておく。復習(15分): Readingを復習する。	10	Unit 5 Getting around (1) 小テスト	増田	予習(30分): p.35のReadingを予習する。復習(15分): 道順の表現を復習する。	11	Unit 5 Getting around (2)	増田	予習(30分): p.37のVocabularyを解いておく。復習(15分): Readingを復習する。	12	Unit 6 Shopping (1) 小テスト	増田	予習(30分): p.41のReadingを予習する。復習(15分): 買い物の表現を復習する。	13	Unit 6 Shopping (2)	増田	予習(30分): 小テストの学習のため予習なし。復習(45分): Readingを復習する。	14	Presentationについて(taking notes), 小テスト	増田	予習(30分): Writing課題から1つ選び、プレゼンテーションの準備をする。復習(15分): Presentationについて復習する。	15	Presentation	増田	予習: 最終授業のため、予習はなし。復習(45分): 定期試験の準備。
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)																																																																		
1	授業計画の進め方、Unit 1 Introduction (1)	増田	予習(30分): p.5のVocabularyを解いておく。復習(15分): 自己紹介の表現を復習する。																																																																		
2	Unit 1 Introduction (2)	増田	予習(30分): p.9のReadingを予習する。復習(15分): Readingを復習する。																																																																		
3	Unit 2 What a life!(1), 小テスト	増田	予習(30分) p.11のVocabularyを解いておく。復習(15分): Readingを復習する。																																																																		
4	Unit 2 What a life!(2)	増田	予習(30分): p.15のReadingを予習する。復習(15分): Readingを復習する。																																																																		
5	Unit 3 Free time (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.17のVocabularyを解いておく。復習(15分): 趣味の表現を復習する。																																																																		
6	Unit 3 Free time (2)	増田	予習(30分): p.22のReadingを復習する。復習(15分): Readingを復習する。																																																																		
7	Presentationについて(organizing your ideas)	増田	予習(30分): p.25のVocabularyを解いておく。復習(15分): Presentationについて復習する。																																																																		
8	Unit 4 Places (1) 小テスト	増田	予習(30分): p.29のReadingを予習する。復習(15分): 場所を表す表現を復習する。																																																																		
9	Unit 4 Places (2)	増田	予習(30分): p.31のVocabularyを解いておく。復習(15分): Readingを復習する。																																																																		
10	Unit 5 Getting around (1) 小テスト	増田	予習(30分): p.35のReadingを予習する。復習(15分): 道順の表現を復習する。																																																																		
11	Unit 5 Getting around (2)	増田	予習(30分): p.37のVocabularyを解いておく。復習(15分): Readingを復習する。																																																																		
12	Unit 6 Shopping (1) 小テスト	増田	予習(30分): p.41のReadingを予習する。復習(15分): 買い物の表現を復習する。																																																																		
13	Unit 6 Shopping (2)	増田	予習(30分): 小テストの学習のため予習なし。復習(45分): Readingを復習する。																																																																		
14	Presentationについて(taking notes), 小テスト	増田	予習(30分): Writing課題から1つ選び、プレゼンテーションの準備をする。復習(15分): Presentationについて復習する。																																																																		
15	Presentation	増田	予習: 最終授業のため、予習はなし。復習(45分): 定期試験の準備。																																																																		
【アクティブラーニング】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>チェック欄</th> <th>その他の工夫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①:PBL (課題解決型学習)</td> <td></td> <td rowspan="6"></td> </tr> <tr> <td>②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③:ディスカッション・ディベート</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>④:グループワーク</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>⑤:プレゼンテーション</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>⑥:実習・フィールドワーク</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							チェック欄	その他の工夫	①:PBL (課題解決型学習)			②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		③:ディスカッション・ディベート	○	④:グループワーク	○	⑤:プレゼンテーション	○	⑥:実習・フィールドワーク																																																	
	チェック欄	その他の工夫																																																																			
①:PBL (課題解決型学習)																																																																					
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)																																																																					
③:ディスカッション・ディベート	○																																																																				
④:グループワーク	○																																																																				
⑤:プレゼンテーション	○																																																																				
⑥:実習・フィールドワーク																																																																					
【課題のフィードバック】 課題に対するフィードバックは次回の授業で行う。小テストの答案を返却後、解答の解説を行う。																																																																					
【成績の評価方法】 ①授業参加、課題: 30% ②小テスト: 30% ③定期試験: 40% 合計 100%																																																																					
【生成AI活用 (無)】																																																																					
【ルーブリック評価の活用 (無)】																																																																					

【履修申請上の条件】						
1年生前期の必修科目です。						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① Breakthrough Plus 2nd Edition Student's Book 1	Macmillan	9781380003089	⑤		
	②			⑥		
	③			⑦		
	④			⑧		
【参考書】						
授業内で適宜紹介する。						
【オープンな教育リソース】						
特になし。						
【担当教員の実務経験】						
特になし。						
【オフィスアワー】						
出講日の5時限。						
【教員連絡先】						
hmasuda@gt-iunshin.ac.jp						
【備考】						
2クラスに分かれるが、基本的には同じ進度で行い、定期試験問題も統一する。						

授業科目名	運動理論・実技	担当教員名	田邊 凱聖		
コード	26111	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/演習		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
①	対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力				
②	看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力				
③	専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力				
④	人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力				
◎	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力				
⑥	生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力				

【授業の概要】
 地域における人々の健康を支援する能力を修得するために、心身の健康維持に必要な体力と運動との関係を体験的に学習する。基礎体力の向上に必要な栄養・食育教育、心身の健全な育成に生涯にわたって影響力を持つスポーツについて実践していく。また、リーダーシップなどの社会性を養うとともに、生涯スポーツ参加への重要性を学修する。講義においては、運動理論として国民衛生の動向および国民健康・栄養調査、食事摂取基準等の資料をもとに、健康とスポーツについての関連を学修する。実技においては、体育方法学の面からバドミントン種目を中心に、チームワーク、ルール、体力づくりの方法等、スポーツ技能・技術向上と体力の増進および健康づくりを体験的に学修する。履修者が多い場合の授業形態は、実技と課題を隔週ごとに行うこととする。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 国民栄養の現状や国民健康・栄養調査等から健康問題についての解決策を述べるができる。	○	○			
2 体育方法学の面から運動処方、行動変容について説明できる。	○	○			
3 バドミントンの実践を通して心と体を一体としてとらえ、ルールが説明でき、ラリー技術が向上する。	○	○			
4 バドミントンの第1目標は、クイヤーでラリーができる。第2目標は、ドライブでラリーができる。第3目標は、ダブルスでゲームができる。	○	○			
5					

【授業計画】		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
	授業計画		
1	オリエンテーション (課題):健康観	田邊	・シラバスを一読しておくこと(60分)。 ・実技は第2体育館で行う。 ・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる。
2	(理論)課題:健康や寿命に関すること① (実技)バドミントン:ラケット、シャトルに慣れる	田邊	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・実技は、運動の出来る服装(体育館シューズを含む)で授業に臨むこと。 ・ストロークについて確認しておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	(理論)課題:健康や寿命に関すること② (実技)バドミントン:ラケット、シャトルに慣れる	田邊	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・実技は、運動の出来る服装(体育館シューズを含む)で授業に臨むこと。 ・ストロークについて確認しておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	(理論)課題:国民健康・栄養調査①栄養に関すること (実技)バドミントン:ストローク、フットワーク、シャトルの性質を覚える	田邊	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・基本的な動きについて復習しておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	(理論)課題:国民健康・栄養調査②栄養に関すること (実技)バドミントン:ストローク、フットワーク、シャトルの性質を覚える	田邊	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・基本的な動きについて復習しておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	(理論)課題:国民健康・栄養調査③体型に関すること (実技)バドミントン:クイヤー、ドライブ、ヘアピン	田邊	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・基本的動作のイメージトレーニングをしておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	(理論)課題:国民健康・栄養調査④体型に関すること (実技)バドミントン:クイヤー、ドライブ、ヘアピン	田邊	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・基本的動作のイメージトレーニングをしておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑤運動に関すること (実技)バドミントン:ハイクイヤー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ	田邊	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・ルールについて予習(30分)、サービスの方法の復習(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
9	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑥運動に関すること (実技)バドミントン:ハイクイヤー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ	田邊	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・ルールについて予習(30分)、サービスの方法の復習(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
10	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑦睡眠に関すること (実技)バドミントン:ゲーム(シングルス)	田邊	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・シングルス、ダブルスのルールについて予習しておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
11	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑧睡眠に関すること (実技)バドミントン:ゲーム(シングルス)	田邊	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・シングルス、ダブルスのルールについて予習しておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
12	(理論)課題:運動処方① (実技)バドミントン:ゲーム(ダブルス)	田邊	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・ダブルスのルールの再確認とペアとの連携について確認をしておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
13	(理論)課題:運動処方② (実技)バドミントン:ゲーム(ダブルス)	田邊	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・ダブルスのルールの再確認とペアとの連携について確認をしておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

14	(理論)課題:行動変容① (実技)バドミントン:ゲーム(ダブルス)	田邊	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ペアとの連携について再確認をしておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。		
15	(理論)課題:行動変容② (実技)バドミントン:ゲーム(ダブルス)	田邊	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ペアとの連携について再確認をしておくこと(30分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。		
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫	
①:PBL(課題解決型学習)			○	特になし	
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)					
③:ディスカッション・ディベート					
④:グループワーク			○		
⑤:プレゼンテーション					
⑥:実習・フィールドワーク					
【課題のフィードバック】					
次回の授業時に行う。 【成績の評価方法】 ①授業への取り組み(60%) ②レポートや試験(40%) などにより総合的に評価する。 【生成AI利活用(無)】 【ルーブリック評価の活用(無)】					
【履修申請上の条件】					
シラバスの内容は受講生のレベルに応じて対応する。実技は第2体育館で行い、課題は教室で行う。体調に留意して授業に臨むこと。					
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社 ISBN
	①			⑤	
	②			⑥	
	③			⑦	
	④			⑧	
【参考書】					
使用しない。必要に応じて資料を配付する。					
【オープンな教育リソース】					
特になし					
【担当教員の実務経験】					
特になし					
【オフィスアワー】					
メールで対応する					
【教員連絡先】					
【備考】					
特になし					

授業科目名	叡智の探究	担当教員名	若松 功一郎			
コード	26115	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力 ② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力 ③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力 ④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力 ⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力 ⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					
【授業の概要】	「叡智の探究」は、看護専門職としての責務を遂行する能力を身に付ける目的で、看護を学ぶ態度をはじめ、医療と看護の倫理を理解するための基礎となる教養科目である。具体的には、哲学史全体を概観しつつ、ソフィア(叡智)と倫理(人間の生き方)を探究する。本授業では主に西洋古代哲学の代表的な哲学者であるソクラテス、プラトンの人間観を概観していく講義形式である。また、プラトンの作品を手がかりに、哲学的な問いに受講生の皆さんが個人で向き合うだけでなく、小グループを作りその中のメンバーとの対話を通して意見交換するなどグループワークも取り入れる。今から2500年ほど前の古代ギリシアで哲学者が人間をいかに理解しようとしていたのかを「生と死」「勇気とは何か」「正義とは何か」などのテーマを概説する。					
【授業の到達目標】					評価方法	
					① ② ③ ④ ⑤	
1	西洋古代哲学の人間観を生かし、看護の対象をかけがえのない存在として全人的に評価することができる。				○	
2	「真」、「善」、「美」、「愛」といった哲学的な事柄に関する知見を、自らの言葉で説明することができる。				○	
3						
4						
5						
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	哲学とは——ソクラテス①	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。			
2	言語・論理——ソクラテス②	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。			
3	善と悪——イデア論①	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。			
4	真理とは——イデア論②	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。			
5	人間・人格——後世におけるプラトン哲学の受容①	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。			
6	誕生・生命——後世におけるプラトン哲学の受容②	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。			
7	美とは——プラトン『饗宴』	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。			
8	愛とは——プラトン『パイドロス』	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)				映像資料の活用。		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート			○			
④:グループワーク			○			
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】	提出された課題に対するフィードバックは、次回の講義の際に行う。					
【成績の評価方法】	①平常点(50%):グループワークへの積極的な参加、毎回の課題等を評価する。 ②期末レポート(50%):構成の明晰さ、内容の充実度を評価する。 合計:100%					
【生成AI活用(有・無)】	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>					
【ルーブリック評価の活用(有・無)】	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>					

【履修申請上の条件】						
特になし。						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	①			⑤		
	②			⑥		
	③			⑦		
	④			⑧		
【参考書】						
『ソクラテスの弁明 クリトン』(岩波文庫、久保勉訳、1964年)を読んで、西洋哲学の世界に親しんでおくとよいでしょう。						
【オープンな教育リソース】						
特になし。						
【担当教員の実務経験】						
特になし。						
【オフィスアワー】						
質問は授業後に受けつけます。						
【教員連絡先】						
k.wakamatsu123@gmail.com						
【備考】						
特になし。						

授業科目名	文章表現法	担当教員名	村松 香代子			
コード	26116	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
①	対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力				
②	看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力				
③	専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力				
◎	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力				
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力				
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力				

【授業の概要】
「文章表現法」は、質の高い看護をするために、対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力を身に付けることを目的とした科目である。現代はSNSの発達により、話し言葉と書き言葉の区別がつけられない若者が増えている。書き言葉により、きちんとした文章を書く訓練は必須である。具体的には、本授業では、文章で表現するための基礎的な技術と方法を習得する。自分の「考え」を他者に的確に伝える能力は、グループワーク、発表、レポート、卒業研究等に必須である。言葉を効果的に働かせ、相手に「伝える」言葉のあり方を考える。また、日本語の表現法の視点からも他者に的確に要点が伝わる表現方法を学んでいく。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 テキスト批評や参考文献の扱い等、基礎的な形式を踏まえて、問題提起+解答+解答を導く議論が成り立っているレポートが書けるようになる。	○	○			
2 理解や納得を得られるのみならず、共感・共鳴を呼び、受け取り手の自発的な行動を促すほどの、心に届くオリジナルな文章が書けるようになる。		○			
3 考えがまとまらないのは、思い出しているだけだから。考えたつもりから脱却し、視点を変えて視野を広げ、連想と深化で考えを適切に進め、自分の意見を育てていく。	○	○			
4 描写とは、数多の中から識別できるように唯一の特徴を選び出して表現すること。描写を駆使することにより、自分が知見した物事を正確に伝えられるようになる。	○	○			
5 「テーマ」とは「結論」の最後の一文である。「結論」を読了後、頁を戻して「テーマ」と合致していれば論理的なレポートといえる。その論理の道筋を、自力で辿ることができるようになる。	○				

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	「自己紹介で心がけたいこと五か条」—自己紹介は何を目的にしているか考えてみよう—まずはウォーミングアップ。自己紹介の仕方を具体的に学んでいこう。実際に自己紹介を披露してみよう。	村松	実習や履歴書等を書く際に必要となる自己紹介について、心がけたいことを文章上で実践して身につけていく。授業時間に「自己紹介」を実際に書いてみる。復習(30分):授業内容を各自ふり返る。授業外学修は上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
2	「レポートの大原則」—大学で学ぶための基礎的技術であるレポート課題・論文の書き方を学んでいこう—レポートを書く意味五か条を学び、文章のゴールを考えてみよう。どのように書けば相手の心に伝わるのかのみならず、相手に行動を起こさせるほどの共感・共鳴を受けてもらうことができるのか。伝わり方にはレベルがあることについて、順を追って学んでいこう。	村松	予習(60分)「私の名前の由来・誕生エピソード」という共通の題名で、15分程度で書ける文章にまとめる。復習(30分)授業内容を各自ふり返る。授業外学修は上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	「レポートのテーマの決め方」—3ステップを踏んで、自分の意見を育てよう—レポートや論文作成につながるレッスンとして、まず手始めに授業のリアクションペーパーや、就職活動に必須のエントリーシートの書き方を学んでいこう。	村松	予習(60分)エッセイ課題「私にとっての不思議な話」を執筆するための構想を練ってくる。なぜこのようなテーマを選んだかという、「自分以外の誰にも書けない内容」を書く練習になるからである。適時参考になる書籍も読んでくる。復習(30分)授業内容を各自ふり返る。授業外学修は上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	「レポートの構成—基礎の基礎」—考えたつもりから脱却しよう—いつもの視点を、あえて変えてみよう。連想と深化で、考えを適切に進めよう。ダメレポート脱出法としての七か条を身につけよう。	村松	予習(60分)エッセイ課題「私が抵抗を感じる言葉」を執筆するための構想を練ってくる。なぜ抵抗を感じるのか、授業内の既定の時間内で考えを深めながら書いてほしい。適時参考になる書籍も読んでくる。復習(30分)授業内容を各自ふり返る。授業外学修は上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	「機能する文章としての6つの視点」—描写とは、自分が知見した物事を正確に伝えること—看護日誌に必要な描写を学んでみよう。	村松	予習(60分)エッセイ課題「一瞬の隣人」を執筆するための構想を練ってくる。看護専門職を志す同志として、あなたにとっての一瞬の隣人は誰だったかを思い返してみよう。適時参考になる書籍も読んでくる。復習(30分)授業内容を各自ふり返る。授業外学修は上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	「論理的な文章を書く」—そもそも論理的とはどのようなことを指すのか—論理を作るポイントとなる3つの方法を学んでいく。「はじめに」で書くことの目次とは? 「考察」はどこに位置づけるべきか? 考察の住所と、レポートの着地点としての結論の書き方を、具体的な活字の事例を参考にして学んでみよう。	村松	予習(60分)エッセイ課題「青年の主張—私、言いたいことがあるんです—」を執筆するための構想を練ってくる。正しい怒りはエネルギーとなり、あなたを生かす力になるだろう。また、正しい主張は、社会貢献につながることもある。正しい主張を試みてみよう。適時参考になる書籍も読んでくる。復習(30分)授業内容を各自ふり返る。授業外学修は上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	「参考文献とは?」—参考文献とは何のためのものなのか—参考文献をどこで見つけるのか。どのように扱うのか、レポートや論文の中で、どのように載せたらよいかを学んでいこう。専門記事と仲良くなる。	村松	予習(60分)エッセイ課題「クリスマスの思い出」を執筆するための構想を練ってくる。キリスト教の精神を基調とする本学の学生が、クリスマスについてどのような思いでいるか、思い出を通して語ってほしい。適時参考になる書籍も読んでくる。復習(30分)授業内容を各自ふり返る。授業外学修は上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	「書評レポートとは」—読書感想文との違い—書評レポートに必要な構成を、失敗例から学んでいこう。	村松	予習(60分)8回分の授業のふり返りをして、まとめをしてみよう。適時参考になる書籍も読んでくる。復習(30分)授業内容を各自ふり返る。授業外学修は上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫		
①:PBL (課題解決型学習)		○	授業の後半に、毎回「柔軟体操」としてこちらが指定したテーマで短い文章をレポート用紙に書いてもらう。起承転結は構わない。心を込めて、真摯に書いていることが読み取れれば、文章の優劣も問わない。20分程度でまとめる要領でよい。		
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○			
③:ディスカッション・ディベート		○			
④:グループワーク		○			
⑤:プレゼンテーション		○			
⑥:実習・フィールドワーク		○			
【課題のフィードバック】					
課題のフィードバックは翌週の授業で行う。毎回指定したテーマのもとで書いた文章について講評を行い、各受講生に適した指導を行う。質疑応答の時間も充分に取る。					
【成績の評価方法】					
①授業時間内に示すテーマに基づいた短文の提出50% (真摯に書けていれば出来不出来は問わない) ②授業内での発言や課題への取り組み状況を含む総合的な授業態度50%					
【生成AI利活用 (無)】					
【ルーブリック評価の活用 (無)】					
【履修申請上の条件】					
特になし					
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社 ISBN
	① 特になし・授業前に適宜プリントを配布する			⑤	
	②			⑥	
	③			⑦	
	④			⑧	
【参考書】					
特になし					
【オープンな教育リソース】					
特になし					
【担当教員の実務経験】					
小説・エッセイの執筆。翻訳。公的役職者のスピーチ原稿の下請け。					
【オフィスアワー】					
水曜日11時～15時					
【教員連絡先】					
kmuramatsu@g.t-junshin.ac.jp					
【備考】					
特になし					

授業科目名	社会学概論	担当教員名	池本 紗良					
コード	26117	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力							
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力							
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力							
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力							
◎	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力							
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力							
【授業の概要】								
「社会学概論」は、地域社会における人々の健康を支援する能力を身に付ける教養科目である。ところで、社会学は何を研究する学問だろうか。この問いに正確に答えられる人は少ない。「社会全体の政治や経済をテーマにする」では不可である。社会学の授業は、小・中・高等学校で学習してきた社会科とは異なり、生活環境的側面と社会的・文化的側面を併せもつ、私達の生活を多面的に考究していく人間理解のための学問である。小・中・高等学校での社会科授業では、とすると人間の在り方や生き方の問題が捨象されがちであった。しかし、この授業では、生身の人間の来し方の記録、記憶に焦点をあてながら、未来の生活を創造していくのに必要な事柄を学修する。								
【授業の到達目標】								
				評価方法				
				①	②	③	④	⑤
1 社会の成り立ちを理解し、身近な出来事や人間関係等を社会や歴史と結びつけて説明できる。				○	○			
2 現代社会の諸問題に対して、構造的な把握をすることができる。				○	○			
3 社会的不平等や不公正について論理的に問題を捉え、批判できる。				○	○			
4 医療・看護の社会的意味・意義について説明できる。					○			
5 課題解決にむけて他者と協働して、意見を交換しながら、取り組むことができる。				○				
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	社会学とは何か ・社会学の成立と展開 ・さまざまな専攻分野	池本	予習(60分):社会学概説書を読んでおく。 課題(60分):興味のある専攻分野の関連書籍または論文を講読する。					
2	社会学の根本命題 ・社会学の基礎概念 ・さまざまな集団とその性質	池本	予習(60分):キーワードについて事前に意味を調べておく。 課題(60分):社会学の基礎概念を用いて、現代の社会問題を考えてみる。					
3	方法論的集合主義 ・「自殺」を社会学する ・社会構造とはなにか	池本	予習(60分):「自殺」問題がどのように語られているのかを調べておく。 課題(60分):「自殺」を「社会構造」の観点から説明できるようにする。					
4	方法論的個人主義 ・「美容整形」を考える ・相互行為とはなにか	池本	予習(60分):「美容整形」が社会でどのように語られているのかを調べておく。 課題(60分):「美容整形」を「相互行為」の観点から説明できるようにする。					
5	教育の社会学 ・学校の社会的機能 ・社会階層、格差と平等	池本	予習(60分):キーワードの意味を事前に調べておく。自らの学校教育経験を振り返り、能力やジェンダーで区別されたことがないか、それは差別とは違うのかを考えてみる。 課題(60分):学校の社会的機能と合わせて教育格差を考える。					
6	労働と経済生活 ・仕事と生活の調和 ・疎外と感情労働	池本	予習(60分):「ワーク・ライフ・バランス(WLB)」について説明できるよう調べておく。 課題(60分):ジェンダーの観点からWLBを説明できるよう復習する。					
7	医療をめぐる社会的視座(1) ・健康と病気	池本	予習(60分):健康リスクを抱える人びとは、どのような属性の人が多くか、研究論文や調査報告書等で調べておく。 課題(60分):貧困と健康の関係について説明できるよう復習する。					
8	医療をめぐる社会的視座(2) ・障害	池本	予習(60分):「障害」の捉え方について調べておく。 課題(60分):医学モデルと社会モデルの違いについて説明できるようにする。 最終課題(350分):1~8回の講義をふまえて、自分なりの問題設定をしたレポートをまとめる。					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			○	特になし。				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○					
③:ディスカッション・ディベート			○					
④:グループワーク								
⑤:プレゼンテーション								
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
・課題に対するフィードバックは、次回の講義に行う。 ・個人へのフィードバックは、課題コメントやGoogleClassroomを用いて行う。								

【成績の評価方法】					
①小テスト:30% ②定期試験:70% 合計:100% 「小テスト」は授業後のコメントシートに基づいて評価する。 ・定期試験は期末レポートで評価する。期末レポートは提示した条件をすべて満たしていることを前提に、内容を評価する。評価基準は、「適切な課題設定」、「既存の学説・知見を踏まえている」、「論拠および論述が妥当かつ明確である」とする。					
【生成AI活用（ 有 ※ただし吟味なしの使用は却下する。また期末レポートにおける文章作成では使わないこととする。）】					
【ルーブリック評価の活用（ 無 ）】					
【履修申請上の条件】					
なし					
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社 ISBN
	① 講義プリントを配布する。			⑤	
	②			⑥	
	③			⑦	
	④			⑧	
【参考書】					
『社会学で描く現代社会のスケッチ』(友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編、みらい、2019年) 『社会学入門』(盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功二編、ミネルヴァ書房、2017年) 『社会学のつばさ——医療・看護・福祉を学ぶ人のために』(早坂裕子・広井良典・天田城介編、ミネルヴァ書房、2010年)					
【オープンな教育リソース】					
なし。					
【担当教員の実務経験】					
なし。					
【オフィスアワー】					
メールで対応する。					
【教員連絡先】					
sikemoto@g.t-junshin.ac.jp					
【備考】					
やむを得ない場合を除いて毎回出席すること。					

授業科目名	音楽表現	担当教員名	田中路						
コード	26118	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択				
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/演習						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力								
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力								
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力								
◎	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力								
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力								
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力								
【授業の概要】									
「音楽表現」は、人間関係を築くためのコミュニケーション能力を、音楽を通じて修得するための科目である。看護と音楽の関わりという音楽療法が代表的であるが、実際には看護師には療法的な目的に限らず、様々な方法で音や音楽を用いたコミュニケーション能力が必要である。本授業では、各人が実際の演奏や鑑賞を通して、「看護の場で求められる音・音楽」を探究する。具体的には、特に患者と看護師の音楽を通じたコミュニケーションを豊かにする楽曲を選定し、各人のレパートリーとすることを目指す。授業では、選定した楽曲を患者と共に、あるいは患者に向けて演奏できるよう、演奏上の工夫を検討し、ミニ演奏会を企画する。最終回では各人の企画の説明、実際の演奏発表を行う。									
【授業の到達目標】					評価方法				
					①	②	③	④	⑤
1 音楽を用いたコミュニケーションが看護において果たす役割を理解し、説明できる。						○			
2 ハンドベルやトーンチャイムを用いたアンサンブルに参加し、協働して演奏できる。					○				
3 演奏発表の企画を立案し、患者を想定した演奏を実践できる。							○		
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	【オリエンテーション/看護と音・音楽の役割】 ・授業の目的・進め方の説明 ・看護場面における音・音楽の具体例(安楽、安心、覚醒、ストレス緩和、患者との関係づくり) ・音楽を用いたコミュニケーションの基本 ・ミニワーク:ハンドベル/トーンチャイムの音色体験	田中	【復習(1時間)】「看護のどの場面で音が役立つと思ったか」を100字程度でメモする。授業で体験したハンドベル/トーンチャイムの音色の違いをまとめる。						
2	【音のコミュニケーションを体験する】 ・手拍子・リズムゲームによる呼吸・同期の体験 ・看護と「合わせる・寄り添う」感覚 ・使用場面の検討(認知症ケア、終末期、子どもとの関わりなど)	田中	【予習(30分)】日常生活で「音で安心した/不安になった」例を1つ書き出す。 【復習(30分)】自分が感じた「音によるコミュニケーションの特徴」をまとめる。						
3	【ハンドベル/トーンチャイムの扱い方(基礎)】 ・ハンドベル/トーンチャイムの音色の特徴と違い ・基本的な持ち方・鳴らし方・止め方 ・音による心地よさと安全性について(看護の視点) ・アンサンブル準備(読譜)	田中	【予習(30分)】ハンドベルやトーンチャイムが看護で用いられている例を探しメモしておく。 【復習(30分)】配られた楽譜の自分の担当音を確認する。						
4	【アンサンブル①(ハンドベル・トーンチャイム)】 ・合奏における役割分担と協働 ・「患者に聴いてもらうなら?」:テンポ、音量、曲のイメージづくり ・アンサンブル練習と演奏の工夫	田中	【予習(30分)】ハンドベルやトーンチャイムが看護で用いられている例を探しメモしておく。 【復習(30分)】配られた楽譜の自分の担当音を確認する。						
5	【アンサンブル②(看護場면을想定した曲の表現)】 ・対象を想定した演奏の工夫(子ども・高齢者・不安の強い患者など) ・編曲の簡易的アイデア(楽器の変更、テンポ調整、繰り返しなど) ・アンサンブル練習と演奏の工夫	田中	【予習(30分)】配られた楽譜の自分の担当音を確認する。 【復習(30分)】配られた楽譜の自分の担当音の強弱変化、リズムなどの細部を確認する。						
6	【レパートリーづくりと演奏発表企画】 ・各自「看護で使いたい曲」を1曲選ぶ ・選曲理由(患者のニーズ・看護の目標・曲の効果) ・ミニ演奏発表の構成案(対象/時間/曲順/話し言葉の工夫) ・個別指導:演奏方法・アンサンブル案のブラッシュアップ	田中	【予習(30分)】「看護で使いたい曲」を選定し、理由と共に説明できるよう準備する。 【復習(30分)】演奏発表構成案を修正し完成させておく。						
7	【演奏発表準備(リハーサル)】 ・本番を想定したリハーサル	田中	【予習(30分)】演奏発表構成案を見直し、発表の流れを説明できるよう準備する。 【復習(30分)】もらったフィードバックを基に、演奏の改善点を整理する。						
8	【演奏発表】 ・実際の演奏発表(ハンドベル/トーンチャイムを含む) ・ふり返り ・音楽を用いたコミュニケーションの気づき ・今後の看護場面での応用	田中	【予習(30分)】最終発表用の話す内容(企画説明)を文章にまとめておく。 【復習(30分)】授業全体を通じて「音を使った看護コミュニケーション」に対する理解の変化をまとめる。						
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫						
①:PBL(課題解決型学習)									
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)									
③:ディスカッション・ディベート									
④:グループワーク		○							
⑤:プレゼンテーション									
⑥:実習・フィールドワーク									
【課題のフィードバック】									
演奏発表構成案については、提出後、個別にフィードバックシートを付けて返却する。演奏実技については授業内で個別に口頭でフィードバックする。									

【成績の評価方法】					
①授業参加度(演奏活動・練習への参加度):40%					
②課題(ふりかえりレポート):30%					
③演奏発表の内容:30%					
【生成AI利活用(無)】					
【ルーブリック評価の活用(無)】					
【履修申請上の条件】					
楽器の演奏スキルや読譜力は問わないが、積極的に演奏発表に関われること。 最終回の演奏発表は12月に行われる学内行事に組み込む場合があるので、そのための日程調整に協力できること。					
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社 ISBN
	① 教員による配布資料のみ			⑤	
	②			⑥	
	③			⑦	
	④			⑧	
【参考書】					
特になし					
【オープンな教育リソース】					
特になし					
【担当教員の実務経験】					
特になし					
【オフィスアワー】					
火・金の昼休み 12:15～12:55					
【教員連絡先】					
m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp					
【備考】					
特になし					

授業科目名	美術表現	担当教員名	井上 救				
コード	26119	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力 ② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力 ③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力 ④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力 ⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力 ⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力						
【授業の概要】							
美術表現は、人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得することを目的とする科目である。アートを通じ看護に役立つコミュニケーション方法を学ぶ。アート(芸術)は、古来より人々の生活の中に係わりを持ち、常に寄り添いながら時代と共に形やその価値を変えて多様化している。本授業では、この様なアートの存在意義を踏まえ、美術の分野から、現代社会に深く浸透している「デザイン」についても実践などを通してその役割や意義、活用方法を学ぶ。さらに、アクティブラーニングとして純心こどもの国のクリスマスでの美術表現・舞台表現を企画運営しながら、人間にとっての感性的世界の重要性和美術を通じたコミュニケーションを体得する。							
【授業の到達目標】							
			評価方法				
			①	②	③	④	⑤
1 子どもに向けた舞台美術の特徴を理解することができる				○			
2 基本的な舞台美術の制作技法を習得することができる			○		○		
3 舞台美術の計画・制作をととした協働を実践できる			○		○		
4 創作プロセスと成果を振り返り、改善点を言語化することができる。				○			
5 題材に基づいた美術コンセプトを作成し、統一感のあるデザインを提案できる。				○	○		
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	授業についてガイダンス説明 導入:前年度までの舞台の映像を鑑賞し、内容を確認する。 大道具、小道具、衣装、照明について役割分担を決定する。	井上	予習:子ども向けの舞台映像を鑑賞する。そこから印象に残ったシーン、また、「子ども向け」だと感じた理由をメモ書きしてくる。 復習:授業内容を踏まえ、「子どものための劇において舞台美術が果たす役割」をまとめる				
2	各担当ごとの役割を理解し、具体案を出す。 「班ごとに分かれて活動」 ・大道具:舞台全体の形・背景 ・小道具:必要な持ち物リスト ・衣装:登場人物の色・形・素材 ・照明:場面ごとの明るさ・色のイメージ スケッチ・メモ作成 全体共有	井上	予習:・大道具:舞台構成の案を作成する ・小道具:何を使うのかの想定案 ・衣装:素材加工のための道具確認 ・照明:舞台照明の参考作品を調べる 復習:自分が担当する分野(大道具/小道具/衣装/照明)の作業工程表を作成する。				
3	前回検討した具体案に基づき班ごとに分かれて活動する。 (照明は舞台での通し練習まで、大道具、小道具、衣装の制作に加わる)	井上	予習:今回の作業のための必要な事柄を箇条書きにして目標を定める 復習:作業工程表の進捗をチェックし次回の課題を具体的に書く				
4	前回までのそれぞれの進捗を報告し合い情報共有。その後、共有した問題点などについての解決方法を検討しつつ班ごとに分かれて活動する。 (前回同様、照明は舞台での通し練習まで、大道具、小道具、衣装の制作に加わる)	井上	予習:今回の作業のための必要な事柄を箇条書きにして目標を定める 復習:作業工程表の進捗をチェックし次回の課題を具体的に書く				
5	前回までのそれぞれの進捗を報告し合い情報共有。その後、共有した問題点などについての解決方法を検討しつつ班ごとに分かれて活動する。 (前回同様、照明は舞台での通し練習まで、大道具、小道具、衣装の制作に加わる)	井上	予習:今回の作業のための必要な事柄を箇条書きにして目標を定める 復習:作業工程表の進捗をチェックし次回の課題を具体的に書く				
6	前回までのそれぞれの進捗を報告し合い情報共有。 作業の進行度を確認しながら、舞台上での見え方・安全性などを確認。 →改善点があれば修正する	井上	予習:今回の作業のための必要な事柄を箇条書きにして目標を定める 復習:作業工程表の進捗をチェックし次回の課題を具体的に書く				
7	前回までのそれぞれの進捗を報告し合い情報共有。 作業の進行度を確認しながら、舞台上での見え方・安全性などを確認。 →改善点があれば修正する 照明については全体の流れを確認し、反復して練習を行う	井上	予習:今回の作業のための必要な事柄を箇条書きにして目標を定める 復習:作業工程表の進捗をチェックし次回の課題を具体的に書く				
8	学内行事としての上演 ・観客対応(導入・終演後の配慮) 振り返りを課題として提出	井上	予習:当日の動きをタイムスケジュールで確認し理解しておく 復習:作業工程表を利用して振り返りの課題を提出				
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)			○	特になし			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク			○				
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク			○				
【課題のフィードバック】							
授業時に適宜指示がありフィードバックを行う。							

【成績の評価方法】 ①授業参加度:40% ②課題提出:40% ③発表:20% 合計:100% ①どの程度、積極的に授業時の活動に参加したかを「授業参加度」として評価する。 ②事前課題および授業課題の提出を「課題提出」として評価する。評価の内訳は、課題の主旨に即しているか、表現の工夫がみられるか等を基準として内容の総合評価とする。 ③「発表」は内容だけでなく、発表に向かう姿勢も評価される。					
【生成AI利活用（ 無 ）】 【ルーブリック評価の活用（ 無 ）】					
【履修申請上の条件】 特になし					
【教科書】 赤字は記入例です。この部分を消して黒字で入力してください。	書名	出版社	ISBN	書名	出版社 ISBN
	① 教員による配布資料のみ			⑤	
	②			⑥	
	③			⑦	
	④			⑧	
【参考書】 授業時に指示する					
【オープンな教育リソース】 特になし					
【担当教員の実務経験】 特になし					
【オフィスアワー】 火曜日:昼休み					
【教員連絡先】 sinoue@g.t-junshin.ac.jp					
【備考】 試作等の作業を伴う場合、汚れても良い服装を選択すること					

授業科目名	絵本と発達	担当教員名	大竹聖美			
コード	26120	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力 ② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力 ③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力 ④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力 ⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力 ⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					

【授業の概要】
 「絵本と発達」は、人間関係を築くコミュニケーション能力を修得することを目的とした科目である。絵本を学び、読み聞かせを実践しながら、看護に役立つコミュニケーション方法を学ぶ。絵本は、0歳から100歳まで、どんな人にも平等に開かれた文学である。大人が子どもに、看護師が患者に、絵本はだれかに読んでもらうことで読み手と聞き手がページを共にする。そして、言葉のひびき・感情・物語世界を分かち合いながら、共感性と思いを育む。読み聞かせは、言葉に耳を傾け、膨らんだ想像力で心の扉を開かせる。1冊の絵本に向き合いながら、0歳の赤ちゃんが言葉や世界に出会う喜びを知り、100歳の人の心のひだに隠された深い経験を汲み取る。絵本と文学に出会い、人間の尊厳を確かめる。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 対象者の年齢や状況に応じた絵本を選定できる	○				
2 絵本の読み聞かせを通じて、非言語的・言語的な表現技法を実践できる		○		○	
3 読み聞かせ後の対象者の反応を観察し、共感的にフィードバックできる		○			
4 絵本を用いたコミュニケーションの意義を、看護場面に即して説明できる	○				
5 絵本を通じて得た気づきを振り返り、自己のコミュニケーションの課題と成長を記述できる			○	○	

【授業計画】	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【導入:絵本と看護の関係】絵本の役割とコミュニケーションの基礎を理解する	大竹	絵本に関する自身の経験を記述する(110分)
2	【絵本の選定と対象理解】年齢・状況に応じた絵本選びの演習	大竹	対象別に絵本を1冊選び理由を記述する(115分)
3	【読み聞かせ技法Ⅰ】声・間・視線などの基本技法を練習する	大竹	短い読み聞かせ動画を提出する(180分)
4	【読み聞かせ技法Ⅱ】感情表現と共感的関わりを体験する	大竹	課題の絵本を読み、感情・傾聴・共感・関わりをテーマに記述する(180分)
5	【看護場面での絵本活用】小児・高齢者事例を検討し活用法を考える	大竹	看護場面で使える絵本を選び活用法を記述する(180分)
6	【読み聞かせ演習Ⅰ:ペアで実践】	大竹	ペア相手の反応を記録し自己評価する(180分)
7	【読み聞かせ演習Ⅱ:対象別】高齢者や患者を想定した読み聞かせ演習	大竹	高齢者向け絵本選定理由を記述する(180分)
8	【まとめと振り返り:人間の尊厳と絵本】絵本と看護の意義を総合的に考察する	大竹	最終レポート(800字)提出(180分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		* Google forms を利用して記録と振り返りを効果的に行う。 * 本学図書館の絵本コーナーを活用し、実物経験を大切に。 * 2004年度から実施され地域に根付いている「純心こどもの国のクリスマス」にて、乳幼児から祖父母世代までを対象に読み聞かせの実践を行う。家族や団体(特別支援学校・デイサービス・保育所など)など、多様で包括的な実践の場を用意している。 * 病院や高齢者施設等での読み聞かせなど、活動の広がりも可能である。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】
 * 指示した課題は、次回以降の授業でフィードバックする。

【成績の評価方法】
 ①授業外課題提出(40%):対象者に応じた絵本選定や考察課題の内容を評価する。
 ②演習参加・実践(30%):読み聞かせ技法の活用、対象者の反応観察、共感的フィードバックを評価する。
 ③最終レポート(20%):絵本と看護の意義に関する考察、自己省察の深さを評価する。
 ④授業内発言・態度(10%):積極的な参加姿勢、協働的態度を評価する。
 合計:100%
 【生成AI利活用(無)】
 【ルーブリック評価の活用(有)】

【履修申請上の条件】
 特になし

【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
①	科目担当教員による配布資料のみ			⑤		
②				⑥		
③				⑦		
④				⑧		

<p>【参考書】</p> <p>*『この本読んで！』JPIC出版文化産業振興財団 *『こどものとも0. 1. 2』『こどものとも年少版』『こどものとも年中向き』『こどものとも』『ちいさなかかぐのとも』『かがくのとも』(以上すべて福音館書店) *『絵を読み解く—絵本入門』ミネルヴァ書院</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>国立国会図書館国際子ども図書館<電子展示会>「平成を彩った絵本作家たち」https://www.kodomo.go.jp/anv20thde/index.html</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>日本ペンクラブこどもの本委員、国立国会図書館国際子ども図書館外国語書籍調査員、韓国文学翻訳院審査員、東京都保育士等キャリアアップ研修講師等</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>月・水・金の昼休み</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>kootake@g.t-iunshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>特になし</p>

授業科目名	人体の構造と機能 I	担当教員名	日下部 辰三			
コード	26201	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
①	対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
②	看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
◎	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					
【授業の概要】						
人体の構造と機能 I は、看護学を学ぶための基盤となる学問である。人体の構造と機能に関する知識は、医学や治療の理解を深めるために必須であり、根拠を持った看護ケアを提供するための道筋を示す。また、医療チーム内での連携や患者とのコミュニケーションにおいて、形態機能学の知識は欠かせない。人体の構造と機能 I では、「細胞や組織」の構造とシステムを学習し、解剖生理学的観点から生命と生きる(活動する)ことの本質を、形態機能学的視点から理解を深める。また、人間が生きていくために必須である「栄養の消化と吸収」「呼吸と血液」「血液の循環とその調整」に関連した人体の構造とはたらきを理解する。あわせて日常生活の活動のなかのどのような場面で行われているか、看護における活用場面をイメージしながら学修する。						
【授業の到達目標】					評価方法	
					① ② ③ ④ ⑤	
1	人体を構成する細胞・組織・器官の構造と機能について習熟する。				○	
2	消化器系を構成する各種臓器の肉眼的および組織学的特徴を習得し、その機能(役割)について理解する。				○	
3	各種栄養素の働きを習得する。				○	
4	呼吸器系を構成する各種臓器の肉眼的および組織学的特徴を習得し、その機能について理解する。				○	
5	循環器系を構成する各種臓器の肉眼的および組織学的特徴を習得し、その機能について理解する。				○	
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	第1章 「人体の構造と機能」学習のための基礎知識: 構造からみた人体	日下部	予習:第1章Aに目を通し、疑問点等をチェックする、復習:講義ノートを読み教科書を再読する			
2	第1章 「人体の構造と機能」学習のための基礎知識: 人体のさまざまな器官	日下部	予習:第1章Bに目を通し、疑問点等をチェックする、復習:講義ノートを読み教科書を再読する			
3	第1章 「人体の構造と機能」学習のための基礎知識: 素材からみた人体(1)	日下部	予習:第1章C1-3に目を通し、疑問点等をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する			
4	第1章 「人体の構造と機能」学習のための基礎知識: 素材からみた人体(2)	日下部	予習:第1章Cに目を通し、疑問点等をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する			
5	第2章 栄養の消化と吸収: 口腔・咽頭・食道の構造と機能	日下部	予習:第2章Aに目を通し、疑問点等をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する			
6	第2章 栄養の消化と吸収: 腹部消化管(胃・小腸)の構造と機能	日下部	予習:第2章B1-4に目を通し、疑問点等をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する			
7	第2章 栄養の消化と吸収: 腹部消化管(大腸)の構造と機能	日下部	予習:第2章B5-7に目を通し、疑問点等をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する			
8	第2章 栄養の消化と吸収: 消化腺(膵臓・肝臓・胆嚢)の構造と機能	日下部	予習:第2章C,Dに目を通し、疑問点等をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する			
9	第3章 呼吸と血液のはたらき:呼吸器の構造	日下部	予習:第3章Aに目を通し、疑問点等をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する			
10	第3章 呼吸と血液のはたらき:内呼吸と外呼吸～肺の循環と血流	日下部	予習:第3章B1-5に目を通し、疑問点等をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する			
11	第3章 呼吸と血液のはたらき:呼吸運動の調節、呼吸器系の病態生理	日下部	予習:第3章B6-7に目を通し、疑問点等をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する			
12	第3章 呼吸と血液のはたらき:血液の組成と機能(赤血球・白血球)	日下部	予習:第3章C1-3に目を通し、疑問点等をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する			
13	第3章 呼吸と血液のはたらき:血小板・血液凝固・血液型	日下部	予習:第3章C4-7に目を通し、疑問点等をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する			
14	第4章 血液の循環とその調節:循環器系の構成(心臓・血管)	日下部	予習:第4章A,Bに目を通し、疑問点等をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する			
15	第4章 血液の循環とその調節:心臓の排出機能(心臓の興奮とその伝播)	日下部	予習:第4章C1-2に目を通し、疑問点等をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)			講義終了前に、講義内容の総括を行う時間と質問受付の時間を設ける			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○				
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						

【課題のフィードバック】					
課題を出した場合は、次回の講義時に対応する					
【成績の評価方法】					
①定期試験(60点以上を合格とする):100%					
【生成AI利活用(有・無)】					
【ルーブリック評価の活用(有・無)】					
【履修申請上の条件】					
特になし					
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社 ISBN
	① 解剖生理学 人体の構造と機能 1	医学書院		⑤	
	②			⑥	
	③			⑦	
	④			⑧	
【参考書】					
特になし、必要に応じてプリントを配布する					
【オープンな教育リソース】					
特になし					
【担当教員の実務経験】					
大学医学部で講義・実習担当					
【オフィスアワー】					
火曜日午後					
【教員連絡先】					
学務課を通して対応する					
【備考】					
特になし					

授業科目名	人体の構造と機能Ⅱ	担当教員名	日下部 辰三			
コード	26202	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					

【授業の概要】
 人体の構造と機能Ⅱでは、「体液の調整と尿の生成」「内蔵機能の調整」「情報の受容と処理」に関連した人体の構造とはたらきを理解する。「体液の調整と尿の生成」では体液を構成する水と電解質を調節する上で重要な尿の生成と排泄とこれらに担う泌尿器系の腎臓や尿路の構造について学ぶ。「内蔵機能の調整」では自律神経系や内分泌系による調整システムを理解する。とくに内分泌系の内分泌腺から分泌される情報伝達物質による調節について学ぶ。「情報の受容と処理」では脳、脊髄、末梢神経からなる神経系の構造および視覚、聴覚、平衡覚、味覚などの情報の受容と処理について学ぶ。あわせて日常生活の活動のなかのどのような場面で行われているか、看護における活用場面をイメージしながら学修する。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 循環器系を構成する心臓の生理機能について理解する。	○				
2 血液循環と血圧・血流量の調節について理解する。リンパの循環についても学ぶ。	○				
3 泌尿器系を構成する臓器の肉眼的および組織学的特徴を習得し、その機能について理解する。	○				
4 内蔵機能の自律神経系による調節について理解する。	○				
5 内蔵機能の内分泌系による調節について理解する。	○				

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	第4章 血液の循環とその調節:心臓の周期(収縮・拡張)	日下部	予習:第4章Cに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する
2	第4章 血液の循環とその調節:抹消循環系の構造	日下部	予習:第4章Dに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する
3	第4章 血液の循環とその調節:体循環・肺循環	日下部	予習:第4章Eに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する
4	第4章 血液の循環と調節:血圧・血流量の調節、病態生理、リンパ循環	日下部	予習:第4章Eに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する
5	第5章 体液の調節と尿の生成:腎臓の構造と機能、糸球体、排尿路	日下部	予習:第5章Aに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する
6	第5章 体液の調節と尿の生成:排尿のメカニズム	日下部	予習:第5章Bに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する
7	第6章 内蔵機能の調節:自律神経系および内分泌系による調節	日下部	予習:第6章Aに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する
8	第6章 内蔵機能の調節:視床下部-下垂体系、甲状腺と副甲状腺、膵臓	日下部	予習:第6章Cに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する
9	第6章 内蔵機能の調節:副腎、性腺、その他の内分泌腺	日下部	予習:第6章Cに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する
10	第6章 内蔵機能の調節:ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節の実際	日下部	予習:第6章D,Eに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する
11	第7章 身体の支持と運動:骨格とはどのようなものか、骨の構造、骨の連結	日下部	予習:第7章A,Bに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する
12	第7章 身体の支持と運動:人体にある三種類の筋(骨格筋・心筋・平滑筋)	日下部	予習:第7章C,Hに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する
13	第7章 身体の支持と運動:骨格筋収縮のメカニズム	日下部	予習:第7章Hに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する
14	第7章 身体の支持と運動:体幹、上肢と下肢、頭頸部の骨格と筋	日下部	予習:第7章D,E,F,Gに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する
15	第7章 身体の支持と運動:不随意筋の収縮、運動と代謝	日下部	予習:第7章H,Iに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する

【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			講義終了前に、講義内容の総括を行う時間と質問受付の時間を設ける
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○		
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク			
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			

【課題のフィードバック】			
課題を出した場合は、次回の講義時に対応する			
【成績の評価方法】			
①定期試験(60点以上を合格とする):100%			
【生成AI利活用(無)】			
【ルーブリック評価の活用(無)】			
【履修申請上の条件】			
人体の構造と機能 I を履修し身につけていることが望ましい			
【教科書】	書名	出版社	ISBN
	① 解剖生理学 人体の構造と機能 1	医学書院	
	②		
	③		
	④		
			⑤
			⑥
			⑦
			⑧
【参考書】			
特になし、必要に応じてプリントを配布する			
【オープンな教育リソース】			
特になし			
【担当教員の実務経験】			
大学医学部で講義・実習担当			
【オフィスアワー】			
火曜日午後			
【教員連絡先】			
学務課を通して対応する			
【備考】			
特になし			

授業科目名	人体の構造と機能Ⅲ	担当教員名	日下部 辰三			
コード	26203	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					

【授業の概要】
 人体の構造と機能Ⅲでは、「身体の支持と運動」「身体機能の防御と適応」「生殖・発生のしくみ」に関連した人体の構造とはたらきを理解する。「身体の支持と運動」では全身の骨格と筋の構造と機能を理解するとともに骨格筋の収縮メカニズムやエネルギー代謝について学ぶ。「身体機能の防御と適応」では、皮膚の構造と機能、免疫、体温とその調節について学ぶ。「生殖・発生のしくみ」では生殖器の内生殖器、外生殖器についてそれぞれを構成する細胞・組織・臓器の機能や機能を調節するシステムについて学ぶ。また、解剖見学を通して人体の各臓器や臓器組織の特徴を学び、講義で学習した各臓器の機能と結びつけて理解を深める。あわせて日常生活の活動のなかのどのような場面で使われているか、看護における活用場面をイメージしながら学修する。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 神経系(中枢および末梢神経)の構造について、肉眼的および組織学的特徴を習得し、その機能について理解する。	○				
2 神経系における情報伝達のメカニズムを理解する。	○				
3 生体の防御機構(免疫)のメカニズムを理解する。	○				
4 生殖器の肉眼的構造および組織学的特徴を習得し、受精後の初期発生について理解する。	○				
5 体表からみて触れられる構造を自ら体感する。	○				

【授業計画】		授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	第8章 情報の受容と処理:神経系の構造と機能(ニューロン、シナプス)	日下部	予習:第8章Aに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する	
2	第8章 情報の受容と処理:脊髄と脳の構造と機能	日下部	予習:第8章Bに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する	
3	第8章 情報の受容と処理:運動神経と感覚(知覚)神経	日下部	予習:第8章D,Eに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する	
4	第8章 情報の受容と処理:感覚器の構造と知覚メカニズム	日下部	予習:第8章G,Hに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する	
5	第8章 情報の受容と処理:脳の統合機能	日下部	予習:第8章Kに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する	
6	第9章 身体機能の防御と適応:皮膚の組織構造(表皮・真皮・皮下組織)	日下部	予習:第9章Aに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する	
7	第9章 身体機能の防御と適応:生体の防御機構	日下部	予習:第9章Bに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する	
8	第9章 身体機能の防御と適応:免疫の機序、体温調節	日下部	予習:第9章B,Cに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する	
9	第10章 生殖・発生と老化のしくみ:男性生殖器	日下部	予習:第10章Aに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する	
10	第10章 生殖・発生と老化のしくみ:女性生殖器	日下部	予習:第10章Bに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する	
11	第10章 生殖・発生と老化のしくみ:受精と胎児の発生	日下部	予習:第10章Cに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する	
12	第10章 生殖・発生と老化のしくみ:成長と老化	日下部	予習:第10章Dに目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する	
13	第11章 体表からみた人体の構造:体表から触知できる骨格部分	日下部	予習:第11章に目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する	
14	第11章 体表からみた人体の構造:体表から触知できる血管	日下部	予習:第11章に目を通し、疑問点をチェックする、復習:講義内容を教科書で再確認する	
15	総括: 試験の傾向と対策	日下部	傾向と対策に従い、試験勉強を行なう	

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		講義終了前に、講義内容の総括を行う時間と質問受付の時間を設ける
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】					
課題を出した場合は、次回の講義時に対応する					
【成績の評価方法】					
①定期試験(60点以上を合格とする):100%					
【生成AI利活用(無)】					
【ルーブリック評価の活用(無)】					
【履修申請上の条件】					
人体の構造と機能IとIIを履修していることが望ましい					
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社 ISBN
	① 解剖生理学	医学書院		⑤	
	②			⑥	
	③			⑦	
	④			⑧	
【参考書】					
特になし、必要に応じてプリントを配布する					
【オープンな教育リソース】					
特になし					
【担当教員の実務経験】					
大学医学部で講義・実習担当					
【オフィスアワー】					
火曜日午後					
【教員連絡先】					
学務課を通して対応する					
【備考】					
特になし					

授業科目名	栄養生化学	担当教員名	吉田 稔、熊谷 晶子、川島 由紀子				
コード	26207	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択		
			○				
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力						
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力						
◎	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力						
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力						
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力						
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力						
【授業の概要】							
ヒトはタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルなどを食物として取り入れ、エネルギー源やからだの構成材料として必要な物質に変換して正常な機能や形態を維持している。栄養素と呼ばれるこれら物質は水と酸素の存在下に酵素反応によって必要な物質に合成される。本講義では3大栄養素であるタンパク質、糖質、脂質の生化学的構造と特性、生体内での代謝とエネルギー産生・貯蓄そして身体にとって重要な水・電解質の特徴と機能を学習する。またこれらの栄養素の働きを理解することは、日常生活での栄養素の過剰摂取に起因する生活習慣病の予防や改善そして健康の維持を考える上で重要である。とくに生活習慣病の予防は食品を介して摂取する栄養素の種類、量、摂取のタイミングが重要であることを理解する。							
【授業の到達目標】							
			評価方法				
			①	②	③	④	⑤
1	栄養素の生体内での反応や酵素の役割を説明できる。		○	○			
2	糖質、脂質、タンパク質の構造、消化、吸収、代謝を説明できる。		○	○			
3	生体内におけるエネルギー産生の過程を説明できる。		○	○			
4	遺伝情報とその発現について説明できる。		○	○			
5	食品の栄養学的特徴と食事摂取基準を説明できる。		○				
6	それぞれのライフステージにおける栄養を説明できる。		○				
7	臨床栄養について学び、主な疾患の栄養管理や食事療法を説明できる。		○				
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	栄養と生化学の基礎 ・消化と吸収、同化と異化反応、細胞の構造、三大栄養素の代謝の概要等を学ぶ。	吉田 稔	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
2	酵素の栄養生化学 ・酵素の性質と酵素反応、酵素と補酵素等にC30:Q43ついて学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
3	糖質の栄養生化学 ・糖質の分類と構造、糖質の消化、吸収、代謝等について学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
4	脂質の栄養生化学 ・脂質、脂肪酸、コレステロールと胆汁酸の構造・消化・吸収・代謝およびリポたんぱく質の構造と代謝等について学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
5	タンパク質の栄養生化学 ・アミノ酸、タンパク質の構造・消化・吸収・代謝等を学ぶ。また血漿タンパク質について理解する。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
6	エネルギーの栄養生化学 ・呼吸とエネルギー産生、糖質・脂質・タンパク質代謝の相互の関連について学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
7	ポルフィリン代謝と異物代謝 ・ヘムの合成と分解、ビリルビンの代謝、生体異物代謝、活性酸素とその除去反応について学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
8	ビタミンと無機質の栄養生化学 ・各種ビタミンの消化・吸収、構造、機能と疾患そして各種無機質の機能等を学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
9	遺伝子の生化学(1) ・核酸の構造と代謝、遺伝子と染色体の構造、遺伝子とタンパク質の合成等を学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
10	遺伝子の生化学(2) ・遺伝子異常と疾患、がんの生化学、遺伝子工学の応用等を学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
11	食物と栄養 ・食物と栄養、栄養素と栄養価、主要食品の栄養的特徴、食生活指針等を学ぶ。	川島 由起子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
12	栄養摂取基準(1) ・栄養摂取基準、日本人の食事摂取基準の基本的考え方、食事摂取基準の使用の際の留意点、活用に関する基本的考え方、エネルギーの食事摂取基準等を学ぶ。	川島 由起子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
13	栄養摂取基準(2) ・タンパク質・脂質・糖質・食物繊維の食事摂取基準、エネルギー産生栄養素/ビタミン、水溶性ビタミンの食事摂取基準、多量・微量ミネラル等を学ぶ。	川島 由起子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				

14	成長・生活と栄養 ・乳幼児の栄養、学童期・青少年期の栄養と問題、中年期・老年期の栄養と問題、 妊産婦の栄養、エネルギー必要量と栄養等を学ぶ。	川島 由起子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。			
15	栄養療法 ・食事療法、経管栄養、輸液等を学ぶ。	川島 由起子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)			特になし			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○				
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
【成績の評価方法】						
①定期試験 90% ②小テスト 10%						
【生成AI利活用(有・○無)】						
【ルーブリック評価の活用(有・○無)】						
【履修申請上の条件】						
フィードバックとして小テストを実施し、解答の解説を行う。						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
①	系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能 ②	医学書院	電子テキスト	⑤		
②	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能 ③	医学書院	電子テキスト	⑥		
③				⑦		
④				⑧		
【参考書】						
脊山洋右・島野仁・松島照彦編集:新体系 看護学全書、人体の構造と機能、栄養生化学						
【オープンな教育リソース】						
本講義では使用しません。						
【担当教員の実務経験】						
栄養学は管理栄養士の資格をもつ教員が担当します。						
【オフィスアワー】						
月曜日 15:00~16:30 事前に連絡をしてから訪問すること						
【教員連絡先】						
myosida@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】						
特になし						

授業科目名	感染予防学	担当教員名	碓井 之雄／中谷 佳子					
コード	26208	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力							
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力							
◎	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力							
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力							
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力							
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力							
【授業の概要】								
感染症予防学では病原微生物と感染症について学び、感染症の予防および治療のための基本的知識の獲得を目指す。病原微生物としての細菌・ウイルス・真菌・原虫などの形態学的・生化学的・生理学的な性状を理解し、それらが引き起こす感染症とそれに伴う生体反応、薬物療法、予防方法を学ぶ。さらに宿主となるヒトと病原性微生物の相互関係として現れる感染症の成立や近年医療現場で問題となっている薬剤耐性菌や医療関連感染、新興感染症、再興感染症に関する感染経路やその予防方法を学ぶ。また看護師として、患者や自分自身を感染から守るための感染予防に関する一般的な考え方を学ぶ。演習では微生物を可視化し、医療現場で最も重要な感染予防の技術である手洗いについて総合的に学ぶ。								
【授業の到達目標】								
				評価方法				
				①	②	③	④	⑤
1 細菌・ウイルス等の病原微生物の形態学的・生化学的・生理学的な性状について説明できる。				○				
2 病原微生物の特性に応じた感染予防の方法に関する基本的な概念を説明できる。				○				
3 免疫の基本を理解し、宿主となるヒトと病原微生物の相互関係として現れる感染症の成立について説明できる。				○				
4 看護師として、臨床実践で必要とされる感染予防の具体策について説明できる。				○				
5 社会生活での感染予防における看護師の役割について説明できる。				○				
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	感染・感染症の基本 感染症と免疫の歴史、感染の仕組みと発生要因、感染症の種類について学ぶ。 水平感染、垂直感染、内因性感染、日和見感染症の概念について学ぶ。	碓井	予習(15分):教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習(30分):授業内容をまとめる。					
2	細菌の形態、グラム染色性、一般的な特徴を学ぶ。細菌の培養、細菌の遺伝と変異について学ぶ。感染症の検査、人獣共通感染症、節足動物媒介感染症等の概念について学ぶ。	碓井	予習(15分):教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習(30分):授業内容をまとめる。					
3	細菌感染症(1) ブドウ球菌、レンサ球菌などのグラム陽性球菌の性状および病原性、嫌気性菌であるクロストリジウム属の破傷風菌の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。	碓井	予習(15分):教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習(30分):授業内容をまとめる。					
4	細菌感染症(2) 腸内細菌科、Clostridioides difficileなど腸管感染症の原因となる細菌の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。梅毒、淋病、クラミジアなどの性行為感染症について学ぶ。	碓井	予習(15分):教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習(30分):授業内容をまとめる。					
5	細菌感染症(3) 肺炎球菌、インフルエンザ菌、髄膜炎菌、緑膿菌、レジオネラ菌、マイコプラズマ、クラミジアなど呼吸器感染症、中枢神経感染症(髄膜炎)の原因となる細菌の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。	碓井	予習(15分):教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習(30分):授業内容をまとめる。					
6	細菌感染症(4) 結核菌、非結核性抗酸菌、ジフテリアの性状および病原性、真菌感染症、リケッチア感染症、感染予防策などについて学ぶ。	碓井	予習(15分):教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習(30分):授業内容をまとめる。					
7	感染症の治療 化学療法と薬剤耐性 抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の特徴、副作用、細菌の薬剤耐性について学ぶ。新興・再興感染症と感染症法について学ぶ。	碓井	予習(15分):教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習(30分):授業内容をまとめる。					
8	ウイルス感染症(1) ウイルスの特徴を学ぶ。DNAウイルスに分類される感染症を起こすウイルスの性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。	碓井	予習(15分):教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習(30分):授業内容をまとめる。					
9	ウイルス感染症(2) RNAウイルスで感染症を起こすウイルスの性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。	碓井	予習(15分):教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習(30分):授業内容をまとめる。					
10	免疫と生体防御機構(1) ヒトのバリア機能、免疫の仕組みと種類について学ぶ。	碓井	予習(15分):教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習(30分):授業内容をまとめる。					
11	免疫と生体防御機構(2) 免疫応答、抗原、抗体、補体などの免疫で働く物質について学ぶ。アレルギー反応の仕組みについて学ぶ。	碓井	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。					

12	感染症の予防(1) 組織による感染予防対策 感染制御チーム、抗菌薬適正使用チームの実際の活動などについて学ぶ。	中谷	予習(15分):教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習(30分):授業内容をまとめる。			
13	感染症の予防(2) 医療関連感染予防対策① 標準予防策、感染経路別予防策などを学ぶ。 病院施設等で行われている感染予防対策の実際を学ぶ。	中谷	予習(15分):教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習(30分):授業内容をまとめる。			
14	感染症の予防(3) 医療関連感染予防対策② 滅菌、消毒、洗浄の概念を理解し、各種病原体の滅菌・消毒方法などを学ぶ。 手術部位感染対策、医療環境整備などについて学ぶ。	中谷	予習(15分):教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習(30分):授業内容をまとめる。			
15	感染症の予防(4) 職業感染予防対策 ワクチン接種、針刺し・切創などの職業感染対策などを学ぶ。 職業感染対策のグループディスカッションなどを含む。	中谷	予習(15分):教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習(30分):授業内容をまとめる。			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)				特になし		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○			
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
【成績の評価方法】						
①定期試験:100%						
【生成AI利活用(無)】						
【ルーブリック評価の活用(無)】						
【履修申請上の条件】						
教科書の該当箇所を予習して授業に臨むこと。 復習としてノートに授業内容をまとめること。						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 疾病のなりたちと回復[4]微生物学	医学書院		⑤		
	②			⑥		
	③			⑦		
	④			⑧		
【参考書】						
「戸田新細菌学」(柳雄介、林哲也、山崎晶編:南山堂:2025 ISBN 978-4-525-16115-6) 「標準微生物学」(神谷茂・錫谷達夫:医学書院:2018 ISBN 978-4-260-03456-2) 「生体防御 免疫と感染症」(谷口克・谷口維昭編:共立出版:2001 ISBN 978-4-320-05564-3) 「講義ノート 微生物」(高野利也著:南山堂:2000 ISBN 978-4-525-16091-3) 「医系免疫学」(矢田純一著:中外医学社:2021 ISBN 978-4-498-10607-9)						
【オープンな教育リソース】						
特になし。						
【担当教員の実務経験】						
特になし。						
【オフィスアワー】						
質問等がある場合は学務課へ連絡をする。						
【教員連絡先】						
学務課メールアドレス:u_gakumu@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】						
・現在、臨床で必要とされている最新の知識やトピックスは教科書には記載されていないことが多いので、メモを取りながら授業を聴講し、復習できるよう努めること。						

授業科目名	医療概論	担当教員名	三宅 良彦			
コード	26210	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					

【授業の概要】

医療を取り巻く変化は大きく、かつ多様化している。医療技術の高度化・複雑化に伴い、医療者自身の価値観による判断・行動が問われる課題は多い。この科目は、医療を学ぶイントロダクションとしての位置づけであり、講義を通して医学、医療、保健、福祉の基本理念を理解する。それぞれの歴史と現況、保健医療福祉システム、関わっている職種の役割・責務を学び、医療と付随する課題や医療の倫理的・社会的側面について考えを深める。また、将来医療に携わるものとしての自覚を持ち、学修する態度を身につけるために、医療の様々な側面を知り、患者の思いや立場に配慮しながら学ぶことの大切さを理解する。医療者としてどうあるべきかを考え、看護専門職者として対象を尊重する価値観・態度を養う。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 「医療とは何か」を述べることができる	○				
2 多彩な医療人の役割、責務を理解し、良き連携を図ることができる	○	○			
3 医療におけるevidenceを理解し、臨床・研究に活用することができる	○				
4 医療安全と医療倫理を理解し、あらゆる状況下でこれを実践できる	○				
5 良い生活習慣について、健康者や傷病者に指導することができる	○				
6 医学・医療の過去・現在を知り、医の未来を予測することができる	○	○			

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	医療とは 1. 医療がもたらす恩恵 2. 患者中心の医療 3. Cure と Care	三宅	予習(60分):①指定教科書、インターネットで「医療」「cureとcare」を検索し、理解する。②10年後、看護師として、どのような活動をしているか、あるいは、どのような活動をしたいか、思い描く(授業で発表する)。 復習(60分):診療以外での医療には何があり、それぞれの役割、機能を復習する。
2	医療人としての看護師の活動 1. 医療職種はとても多彩 2. 医療法とは 3. 医師法と保健師・助産師・看護師法 4. 医療保障	三宅	予習(90分):①指定教科書、インターネットで医療職にはどのようなものがあるか、検索し、またそれぞれについて、現時点でのわが国での活動する人数を調べる。②プロフェSSIONナリズムについて、調べ、考察する。 復習(90分):インターネットで「保健師・助産師・看護師法(昭和23年制定)」にアクセスし、本法(第一章:総則・第一条～第五章:罰則・第四十五条)が何が、どのように記載されているか、確認し、理解を深める。
3	EBMの活用 1. 医療におけるEvidenceとは 2. EBMとNBM 3. 診療ガイドラインとリアルワールド・データ 4. 診療録への記載 5. あふれる情報と収集・管理	三宅	予習(60分):指定教科書でEBNについて調べる。なぜ、EBNが尊ばれるようになったか、またEBNの弱点は何か、を考察する。 復習(90分):①医学雑誌やインターネットで記録が開示されている症例の診療録(診療カルテ)を探し出し、SOAP方式がどのように活用され、記載されているか、を確認する。②SOAP方式の長所、短所を考察する
4	多彩な医療連携 1. チーム医療と多職種連携 2. 病診連携・病病連携、診療施設と介護施設の連携 3. 対面診療、オンライン診療、在宅診療 4. 個人情報(母子手帳、お薬手帳、マイナ保険証)の活用	三宅	予習(90分):①なぜ今、チーム医療、多職種連携が重要視されているか、指定教科書やインターネットを活用して考察してみる。②介護施設にはどのようなものがあるか調べ、特徴を列挙する。 復習(90分):①自宅の近くに種々の介護施設がある。どのような介護施設が、どのくらいあるか、インターネットで調べる。②自宅に母子手帳、お薬手帳があるか確認し、どのような記載があるか、確認してみる。
5	不測の事態における医療 1. 救急医療 2. 心肺蘇生術とAEDの活用 3. 災害医療 4. 感染症パンデミックへの備え	三宅	予習(90分):①現在の救急医療の問題点は何か、調べてみる。②AEDはどこに設置されているか。自宅の近所、通学路、大学構内ではどこにあるか、調べる。③スペイン風邪について、インターネットなどで調べる 復習(90分):①首都直下型地震が発生した場合、看護学生として、何ができるか、何をすべきか、考えてみる。レポートを作成する。②感染症パンデミックが発現した場合、看護学生としてどのような行動をするか、考察する(レポート作成し提出)。③次の感染症パンデミックの到来に備えて、医療人はどのような準備をすべきか、考察する。
6	生活習慣と生活習慣病 1. 生活習慣病とは 2. 良い生活習慣とは 3. 良い生活習慣を健康者、傷病者へ指導する	三宅	予習(90分):生活習慣病にはどのようなものがあるか調べ、一覧表を作成する。 復習(90分):①生活習慣と生活習慣病との関連性が深いものを一覧表にして、自身が理解しやすいものを作成する。②自分自身の生活習慣で良い点、悪い点、を列挙する、後者に関しては如何にしたら改善できるか、考察する。
7	医療安全と医療倫理 1. 医療安全とは 2. インシデントレポート 3. ヒポクラテスの誓いと医療倫理	三宅	予習(90分):医療安全と医療倫理について、指定教科書、インターネットを読んで理解する。 復習(90分):①授業で提示された医療安全と医療倫理について指定教科書、インターネットを利用して、復習する。②雑誌などで医療倫理に反した症例が提示されている。これを探しだし、読み、考察する
8	医学・医療の過去・現在・未来 1. 生命の誕生と癒しの登場 2. ナイチンゲールの功績 3. 目覚ましい医学・医療の進歩・発展 4. 疾病構造の変化と取り巻く環境の変化	三宅	予習(90分):①「生命」とは何か、指定教科書、インターネットで調べる。同様に「寿命」とは何かについて調べる。②ナイチンゲールの生涯における諸活動(看護、研究、教育など)を調べる(指定教科書、資料、Wikipediaなどを活用) 復習(90分):①高齢化社会における看護師の役割について、指定教科書などを活用して調べ、考察する(レポート提出)。②看護師活動においてAIやITをどのように活用できるか、またどのように活用するか、復習する。

【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)			
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。			
【成績の評価方法】			
①定期試験90%			
②レポート10%			
【生成AI利活用 (無)】			
【ルーブリック評価の活用 (無)】			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】	書名	出版社	ISBN
①	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度1 医療概論	医学書院	9784260042246
②			
③			
④			
			⑤
			⑥
			⑦
			⑧
【参考書】			
特になし			
【オープンな教育リソース】			
特になし			
【担当教員の実務経験】			
貴大学、駒沢女子大学看護学部、聖マリアンナ医科大学看護専門学校で数年以上、講義(医療概論など)を担当			
【オフィスアワー】			
質問等がある場合は、講義時間内かメールにて対応する。			
【教員連絡先】			
メール: fmiyake@marianna-u.ac.jp			
【備考】			
特になし			

授業科目名	疾病治療論 I	担当教員名	青木 治人			
コード	26211	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
①	対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
②	看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
◎	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
④	人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
⑤	地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
⑥	生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					
【授業の概要】						
疾病治療論は、患者への適切なケアや治療を提供するための基盤となる学問分野である。さまざまな疾患の原因、病態生理と進行および治療法に関する知識は、患者の健康状態を的確に評価するために不可欠である。また、疾患と治療方法を理解することで、個別性を重視した看護計画を立案する能力を向上させる。疾病治療論Iでは、一般検査や負荷・生理機能検査、画像診断など「疾病診断」を学習する。また、感覚器系、耳鼻咽喉系、眼科・皮膚科系、呼吸器系の疾患の病態と診断・治療を中心に学習する。特に地域社会や医療機関で遭遇しやすい代表的疾患について、その病態の特徴やそれぞれの疾患に準じた検査・診断を学び、病院などで実際に行われている治療とその根拠について、すでに習得している「人体の構造と機能」と結び付けて理解する。						
【授業の到達目標】						
					評価方法	
					① ② ③ ④ ⑤	
1 疾病の診断に関する基本と方法および治療について記述できる。					○	
2 感覚器系および呼吸器系の疾患・病態・診断(検査)、治療について記述できる。					○	
3 感覚器系および耳鼻咽喉系の疾患・病態・診断(検査)、治療について記述できる。					○	
4 眼科系および皮膚科系の疾患・病態・診断(検査)、治療について記述できる。					○	
5 呼吸器系の疾患・病態・診断(検査)、治療について記述できる。					○	
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	一般検査、免疫・血液検査、負荷・生理機能検査	黒木	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。			
2・3	疾病診断・治療(画像診断)	黒木	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。			
4・5	感覚器系 (嗅覚障害・味覚障害)の疾患の病態と診断・治療 耳鼻咽喉系の疾患 (聴覚障害・難聴・メニエール病)の病態と診断・治療	岡田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(60分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。			
6・7	眼科系の疾患 (視覚障害:白内障・緑内障・網膜剥離・網膜症)の病態と診断・治療	金子	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(60分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。			
8・9	皮膚科系の疾患 (湿疹・アトピー性皮膚炎・帯状疱疹・疥癬・蜂窩織炎・熱傷)の病態と診断・治療	村上	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(60分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。			
10・11	呼吸器系の疾患 (気管支炎・肺炎・間質性肺炎・胸膜炎・気管支喘息・COPD)の病態と診断・内科的治療	峯下	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(60分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。			
12・13	呼吸器系の疾患 (肺高血圧・肺塞栓症・肺結核・気胸・肺癌・中皮腫)の病態と診断・内科的治療	峯下	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(60分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。			
14・15	呼吸器系の疾患 (気胸・肺癌・中皮腫)の病態と診断・外科的治療	峯下	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(60分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)			なし			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○				
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
リアクションペーパーや課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義のなかで実施する。						

【成績の評価方法】						
①到達目標1・2・3・4・5に記載されている基礎的知識を筆記試験で評価する。						
〈割合〉 筆記試験:100% 合計:100%						
【生成AI利活用（ 無 ）】						
【ルーブリック評価の活用（ 無 ）】						
【履修申請上の条件】						
特になし						
【教科書】	書 名	出版社	ISBN	書 名	出版社	ISBN
	① 別巻 臨床検査	医学書院	(電子テキスト)	⑤ 専門分野2呼吸	医学書院	(電子テキスト)
	② 専門分野14耳鼻咽喉	医学書院	(電子テキスト)	⑥ 専門分野12皮膚	医学書院	(電子テキスト)
	③ 専門分野15歯・口腔	医学書院	(電子テキスト)	⑦		
	④ 専門分野13眼	医学書院	(電子テキスト)	⑧		
【参考書】						
特になし。授業の中で紹介する場合がある。						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
医学専門分野における臨床学的研究活動ならびに教授活動の実績がある。						
【オフィスアワー】						
授業の前後で質問を受ける機会を設ける。質問等に対応する。						
【教員連絡先】						
連絡を必要とする要件がある場合には、学務課に申し出ること。						
【備考】						
授業終了後に試験を実施する。試験日程は、試験1か月前に公示する。						

授業科目名	疾病治療論Ⅱ	担当教員名	青木治人						
コード	26211	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択				
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力								
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力								
◎	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力								
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力								
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力								
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力								
【授業の概要】									
疾病治療論は、患者への適切なケアや治療を提供するための基盤となる学問分野である。さまざまな疾患の原因、病態生理と進行および治療法に関する知識は、患者の健康状態を的確に評価するために不可欠である。また、疾患と治療方法を理解することで、個別性を重視した看護計画を立案する能力を向上させる。疾病治療論Iでは、一般検査や負荷・生理機能検査、画像診断など「疾病診断」を学習する。また、感覚器系、耳鼻咽喉系、眼科・皮膚科系、呼吸器系の疾患の病態と診断・治療を中心に学習する。特に地域社会や医療機関で遭遇しやすい代表的疾患について、その病態の特徴やそれぞれの疾患に準じた検査・診断を学び、病院などで実際に行われている治療とその根拠について、すでに習得している「人体の構造と機能」と結び付けて理解する。									
【授業の到達目標】									
					評価方法				
					①	②	③	④	⑤
1 放射線治療学、麻酔法、手術療法、リハビリテーションの基本について記述できる。					○				
2 消化吸収機能、代謝機能に関連した疾患の病態、診断、治療について記述できる。					○				
3									
4									
5									
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	<疾病診断・治療> ・放射線治療学	黒木	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。						
2・3	上部消化管の疾患の病態と診断と内科的治療 ・炎症性疾患(逆流性食道炎・急性胃炎・ヘリコバクターピロリ感染症) ・潰瘍性疾患(胃潰瘍・十二指腸潰瘍) 下部消化管、肝臓・胆・膵臓を中心に疾患の病態と診断と内科的治療 ・炎症性疾患(潰瘍性大腸炎・Crohn病) ・イレウス ・排便障害(便秘・下痢)	黄	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。						
4・5	肝臓・胆・膵臓を中心に疾患の病態と診断と内科的治療 ・炎症性疾患(肝炎・胆管炎・膵炎) ・脂肪肝・アルコール性肝炎・肝硬変	服部	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(60分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。						
6・7	上部消化管の疾患の病態と診断と外科的治療 ・腫瘍(食道癌・胃癌) ・潰瘍性疾患(胃潰瘍・十二指腸潰瘍) 下部消化管の疾患の病態と診断と外科的治療 ・炎症性疾患(虫垂炎・痔核) ・イレウス ・腫瘍(大腸ポリープ・結腸癌・直腸癌)	大内	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(60分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。						
8・9	肝臓・胆・膵臓の疾患の病態と診断と外科的治療 ・胆石症・腫瘍(肝癌・胆嚢癌・胆管癌・膵癌) 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断と外科的治療 ・鼠経ヘルニア・腹膜炎・横隔膜ヘルニア	大内	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(60分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。						
10・11	<疾病診断・治療> ・リハビリテーション医学	青木	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(60分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。						
12・13	麻酔法・手術療法と生体侵襲など「各種治療法」(1) ・開腹術	黒子	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(60分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。						
14・15	麻酔法・手術療法と生体侵襲など「各種治療法」(2) ・開胸術・開頭術	黒子	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(60分):授業内容を配付資料とテキストを活用し分からない点を学習する。 授業外学修は、上記の予習復習時間以外にも必要なため、不足している部分は、休日等を活用して行う。						

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫				
①:PBL (課題解決型学習)						
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○					
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
リアクションペーパーや課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義のなかで実施する。						
【成績の評価方法】						
①到達目標1・2に記載されている基礎的知識を筆記試験で評価する。						
〈割合〉 筆記試験:100% 合計:100%						
【生成AI利活用 (無)】						
【ルーブリック評価の活用 (無)】						
【履修申請上の条件】						
特になし						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 別巻 臨床放射線医学	医学書院	(電子テキスト)	⑤ 専門分野5消化器	医学書院	(電子テキスト)
	② 別巻 リハビリテーション看護	医学書院	(電子テキスト)	⑥ 専門分野6内分泌・代謝	医学書院	(電子テキスト)
	③ 別巻 臨床外科看護総論	医学書院	(電子テキスト)	⑦		
	④ 別巻 臨床外科看護各論	医学書院	(電子テキスト)	⑧		
【参考書】						
特になし。授業の中で紹介する場合がある。						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
医学専門分野における臨床学的研究活動ならびに教授活動の実績がある。						
【オフィスアワー】						
授業の前後で質問を受ける機会を設ける。質問等に対応する。						
【教員連絡先】						
連絡を必要とする要件がある場合には、学務課に申し出ること。						
【備考】						
授業終了後に試験を実施する。試験日程は、試験1か月前に公示する。						

授業科目名	公衆衛生学	担当教員名	吉田 稔			
コード	26218	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修 ○	選択	
年次/期間	1年後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
◎	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					

【授業の概要】
 公衆衛生学では、健康の保持・増進を組織化された共同社会の中で社会努力によって、疾病の予防、寿命の延長そして身体的・精神的健康と能率の増進を目指す学問である。ここでは健康に関係する様々な要因を認識し、健康障害を予防するための一生を通じた様々な保健活動や産業活動に起因する疾病予防について学ぶ。さらに健康は環境、病因そして宿主(ヒト)のバランスの下で成立している。とくに人間の生命維持に不可欠なものは内部環境(人体の恒常性)に加え、外部環境(自然的環境、人為的環境)の保持である。しかし、我々を取り巻く外部環境は近年、多様化を模様し、人々の疾病構造や健康問題にも大きく影響を与えている。健康を取り巻く要因について個人レベル・集団レベルで学び、疾病の予防の在り方についても総合的に考える。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 健康の概念やそれに関わる保健の概念を説明することができる。		○	○		
2 我が国の健康状況の実態と疫学的概念を説明できる。		○			
3 感染症の成立とその対策を説明できる。		○			
4 種々な保健とその活動の意義について説明できる。	○				
5 生活環境および住居環境に関する健康問題を説明できる。	○				

【授業計画】		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
	授業計画		
1	「公衆衛生を学ぶにあたって」 ・公衆衛生の定義と役割や健康の概念を理解する。とくに「健康」については、グループワークを行いその結果を提出し、理解度を深める。	吉田	事前学習:「健康とは何か」を考え、完結にまとめる。(15分) 事後学習:講義とグループワークを踏まえて、「健康」を定義する。(10分) 復習(20分):授業内容を整理する。
2	「ヘルスプロモーションと公衆衛生の歴史」 ・ヘルスプロモーションの基本理念と目的、意義を理解する。公衆衛生の歴史を学ぶ。ヘルスプロモーションについては、関連するテーマについて、グループワークを行い、その内容を提出する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
3	「現代の健康問題」 ・健康日本21の目的を踏まえて、現代社会の生活基盤、ライフスタイルと健康との関係について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
4	「疫学」 ・疫学概念、疫学研究方法、疫学の効果指標を理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
5	「感染症とその予防」 ・感染症の現状、主な感染症とその対応、感染症対策のシステム、感染症患者の看護と保健活動について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
6	「母子保健」 ・母子保健の統計、地域母子保健対策の体系、主な母子保健施策について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
7	「学校保健」 ・学校保健の概要、目的、学校保健行政の内容(保健・安全・体育・給食)について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
8	「成人保健」 ・成人保健の意義と目的、健康問題の現状と課題、制度とシステムについて理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
9	「高齢者保健」 ・高齢者保健の目的と地域保健の役割、高齢者を支えるシステム・制度について理解する。高齢者特有の健康に関する問題や社会での問題について学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
10	「地域保健とソーシャル・キャピタル」 ・地域の保健活動、地域住民に対する保健サービス、その実現のための地域保健法を理解する。また保健活動におけるソーシャル・キャピタルの意義について学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
11	「産業保健」 ・産業保健の目的と特徴、労働衛生関係法令の概要、職業性疾患とその予防対策について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。

12	「食品保健」 ・食品保健の目的・制度について理解する。健康栄養、食品管理、食中毒に関する課題について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
13	「環境保健」 ・地球環境の保全、我が国の公害問題、大気汚染に関する問題について理解する。そして環境保全に関する基本理念や施策を定めた環境基本法を学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
14	「生活環境と健康」 ・温熱要素と温熱指数、上水道と下水道、悪臭、騒音に関する健康や生活環境に関わる課題を理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
15	「住居環境と健康」 ・室内空気環境、シックハウス症候群・化学物質過敏症に関する健康問題を理解する。ごみ・廃棄物問題について学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)				特になし		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○			
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク			○			
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
【成績の評価方法】						
①中間試験 40%						
②定期試験 50%						
③グループワーク課題 10%						
【生成AI利活用(有・○無)】						
【ルーブリック評価の活用(有・○無)】						
【履修申請上の条件】						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
①	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生学	医学書院	電子テキスト	⑤		
②				⑥		
③				⑦		
④				⑧		
【参考書】						
・公衆衛生がみえる2024-2025、メディックメディア						
【オープンな教育リソース】						
本講義では使用しません。						
【担当教員の実務経験】						
聖マリアンナ医科大学や八戸学院大学で公衆衛生学分野において研究活動および教授活動の実績がある。						
【オフィスアワー】						
月曜日 15:00~16:30 事前に連絡をしてから訪問すること						
【教員連絡先】						
myosida@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】						
特になし						

授業科目名	保健統計学 I	担当教員名	吉田 稔			
コード	26220	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修 ○	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	①	対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力				
	②	看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力				
	③	専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力				
	④	人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力				
	⑤	地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力				
	⑥	生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力				

【授業の概要】
統計学は集団に関する数量的研究方法を対象とする科学であり、集団の特徴を数値で把握し、活用する学問である。この集団の取り扱いの違いにより記述統計学と推測統計学(推計学)に分けられ、集団の特徴が健康に関連するものであるものが保健統計学である。看護の領域でも、根拠に基づく看護evidence-based nursing (EBN)が求められている。統計学はその根拠を導き出す手法であり、医療現場で得られたデータの性質の把握やデータ間の比較のために解析に用いられる。集団における健康事象に関するデータ収集や解析に関する基礎的知識としての統計学を身につけるとともに、統計解析正しく行うための基礎的な考え方についても学ぶ。さらに疾患の原因の探索や予防法の評価に疫学が用いられており、統計的手法は疫学を学ぶための基礎となる。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 統計学の基礎的な考え方を説明できる。	○				
2 基本統計量(平均、標準偏差など)の意味を理解し、計算方法と利用方法を説明できる。	○				
3 確率分布、検定と推定、回帰分析について説明できる。	○				
4 分析すべき問題に対し、適切な統計学的手法を用いて計算できる。	○				
5 論文に記載された統計処理の意味を説明できる。	○				

【授業計画】		授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	統計学の基礎 ・母集団と標本、統計調査の種類を理解する。		吉田	予習(40分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
2	データの整理 ・度数分布とヒストグラム、中心的傾向を示す指標、散らばりを示す指標を理解する。		吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
3	確率分布 ・正規分布、標準正規分布の応用、標本平均の分布、 χ^2 分布、t分布、F分布を理解する。		吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
4	区間推定 ・平均の区間推定、分散の区間推定を理解する		吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
5	2群の平均値の比較-t検定- ・対応のない2群の差の検定と対応がある2群の差の検定を理解する。		吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
6	F分布検定-等分散検定- ・F分布を応用した等分散の検定と分散分析(3群以上の平均値の一様性を検定)を理解する。		吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
7	独立性の検定- χ^2 検定- ・2群の割合の差の検定、Yatesの補正、Fisher直接確率検定について理解する。		吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
8	2つのデータの関わり合いを示す指標 ・ピアソン相関係数と回帰直線について理解する。		吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】
フィードバックとして授業中に演習問題を行い、その解答の解説を行う。

【成績の評価方法】
①定期試験 100%

【生成AI利活用(有・○無)】

【ルーブリック評価の活用(有・○無)】

【履修申請上の条件】
特になし。

【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 標準保健師講座 疫学・保健統計学	医学書院	978-4-260-01998-9	⑤		
	②			⑥		
	③			⑦		
	④			⑧		
【参考書】	加納克己・高橋秀人共著:基礎医学統計学 改定第7版、南江堂 石村貞夫、劉晨、石村友二郎共著:やさしく学ぶ統計学 Excelによる統計解析 東京図書					
【オープンな教育リソース】	本講義では使用しません。					
【担当教員の実務経験】	聖マリアンナ医科大学や八戸学院大学で公衆衛生学分野において研究活動および教授活動の実績がある。					
【オフィスアワー】	月曜日 15:00～16:30 事前に連絡をしてから訪問すること					
【教員連絡先】	myosida@g.t-iunshin.ac.jp					
【備考】	特になし					

授業科目名	看護学概論	担当教員名	安藤幸枝			
コード	26301	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					

【授業の概要】
 本科目は、看護の基盤を学修するにあたり理解しておきたい看護の歴史や概念について学修する。フローレンス・ナイチンゲールの思想を原点として、看護の歴史の変遷を概観し、看護が看護学として発展した経緯や先人の活躍を学修する。特に主要な看護理論家の看護概念を学び、看護の定義を理解する。更に、自らの日常生活を振り返り看護の対象である人間が生活する意味を理解することを目指す。看護学の概念を構成している人間、健康、環境、看護および看護の機能と役割について学習し、個々の課題の取り組みをもとにしてグループワークで視野を広げ、発表会やレポートを通して看護観を養う。本科目の履修により看護への興味を増し、関心が深まることで学習への動機づけを図る。□

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 看護の歴史の変遷を説明できる。	○	○			
2 看護の概念を説明できる。	○				
3 看護の専門性、看護の機能・役割を述べるができる。	○				
4 看護理論家が唱える看護の本質を考察できる。		○			

【授業計画】		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	ガイダンス:看護学、基礎看護学、科目概要、看護を学ぶ意義 看護の歴史の変遷①:歴史を学ぶ意義(課題解決型授業学修)	安藤	予習(90分):シラバスを熟読し、授業概要を理解する。テキスト1.序章、第4章Aを読み、看護学を学ぶ動機と看護職のイメージや仕事内容をノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護を学ぶ意義と看護の歴史の変遷について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。
2	看護の歴史の変遷②:看護職が活躍する場(プレゼンテーション)、医療・福祉・介護施設	安藤	予習(90分):看護職が活躍する場について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
3	看護の対象①:人間の特徴、基本的欲求、人間と発達、人間と生活、学習支援(課題解決型授業学修)	安藤	予習(90分):テキスト1.第2章を読み、看護の対象である人間の身体的・精神的・社会的特徴をノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護の対象について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。
4	看護の対象②:人間と生活(プレゼンテーション)	安藤	予習(90分):人間と生活について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
5	健康のとらえ方①:健康に影響を与えるもの、健康の定義、健康・障害・生活との関連(課題解決型授業学修)	安藤	予習(90分):テキスト1.第3章を読み、国民の健康状態と生活について、ノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、健康のとらえ方について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。
6	健康のとらえ方②:健康に影響を与えるもの(プレゼンテーション)	安藤	予習(90分):国民の健康について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
7	看護の提供者①:看護職の資格と養成制度、教育課程の変遷(課題解決型授業学修)	安藤	予習(90分):テキスト1.第4章BCDを読み、看護職の資格と養成制度をノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護の提供者について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。
8	看護の提供者②:看護の資格と教育(プレゼンテーション)	安藤	予習(90分):看護の資格と教育について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
9	看護の専門性①:看護のマネジメント、チーム医療(課題解決型授業学修)	安藤	予習(90分):テキスト1.第6章を読み、看護サービスとは何かについてノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。
10	看護の専門性②:看護方式(プレゼンテーション)	安藤	予習(90分):看護方式についてグループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
11	看護における倫理①:倫理の原則、ICN看護師の倫理綱領、日本看護協会の看護者の倫理綱領(課題解決型授業学修)	安藤	予習(90分):テキスト1.第5章を読み、看護における倫理とは何かについてノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。

12	看護における倫理②:倫理的事例(プレゼンテーション)	安藤	予習(90分):倫理的事例についてグループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。			
13	看護の理論①:看護の構成要素(課題解決型授業学修)	安藤	予習(90分):テキスト1.第1章を読み、看護とは何かについてノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。			
14	看護の理論②:私たちが考える看護の構成要素(プレゼンテーション)	安藤	予習(90分):看護の理論についてグループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。			
15	看護の国際化と看護:看護における国際化の視点、国際社会における看護の対象、多様な文化と看護、国際協力活動と看護 看護の役割と機能・課題:看護の将来ビジョン(グループワーク)、まとめ 授業評価アンケート	安藤	予習(90分):テキスト1.第7章を読み、看護の国際化の現状、看護専門職とは何か、期待される看護者像をノートにまとめる。 復習(90分):授業の第1回～第15回までの学びをノートにまとめる。小テストなどを通し、学修の理解度を確認する。			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)		○	•Google classroomを活用して、授業内容の指示をしたり、Google formsにより学修の理解度を確認する。			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク		○				
⑤:プレゼンテーション		○				
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
•課題・レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。						
【成績の評価方法】						
①:7回のグループ課題35%、評価視点…課題内容・構成・情報の伝達・質疑応答・提出を3段階ABCで評価(5点×7回=35点) ②:1回の個人レポート:65%、評価視点…課題内容・論理的思考・体裁・文章表現・提出を5段階ABCDEで評価(65点) 合計:100% 課題やレポートの取り組み内容が6割に満たない場合は、課題の再提出を課す。						
【生成AI利活用(無)】						
【ルーブリック評価の活用(有)】						
【履修申請上の条件】						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
①	系統看護学講座 看護学概論 基礎看護学1	医学書院	9784260038621	⑤		
②	看護覚え書きー本当の看護とそうでない看護	日本看護協会出版会	9784818022140	⑥		
③				⑦		
④				⑧		
【参考書】						
ヴァージニア・ヘンダーソン著, 湯楨ます, 小玉香津子訳:看護の基本となるもの, 日本看護協会出版.						
【オープンな教育リソース】						
•特になし。						
【担当教員の実務経験】						
•看護師としての臨床経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護学概論について教授する。						
【オフィスアワー】						
<月曜日～木曜日>12:10～13時、必ずアポイントメントを取ってください。						
【教員連絡先】						
vando@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】						
•本科目の単位修得が、2学年への進級要件となっている。						

授業科目名	基本援助技術	担当教員名	坂本 文子			
コード	26303	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
◎	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					

【授業の概要】
 本科目は人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活援助に関わる基本的看護技術であり、科学的根拠を踏まえた援助技術の修得をめざす。
 技術項目は看護技術に共通しているコミュニケーション、感染予防技術、観察の技術、環境調整の技術、ボディメカニクスと安楽な体位の援助技術などである。看護技術は、安全・安楽・自立という看護の原理原則に則り、対象者の個性をふまえて実施される。単に技術を実施するのではなく、演習を通して対象者とのコミュニケーション、対象者の観察などを体験的に学び、技術の一般的な手技のみならずエビデンスをふまえた安全で安楽かつ質が保証される技術の習得をめざす。授業ではワークシートや援助計画書等を使用し、援助前から計画的に学修し振り返りができるようにする。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 看護技術の概念を説明できる。	○				
2 看護の共通技術となるコミュニケーションに必要な知識と方法を説明できる。	○				
3 日常生活援助技術の基本となる対象者の安全、安楽を守る技術を実施できる。		○			
4 患者・看護者の役割体験から学んだ内容を述べるができる。			○		
5 自己の看護技術を振り返り、課題を述べるができる。			○		

【授業計画】		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	ガイダンス:演習での学習方法と実習室の使い方を学ぶ (演習の進行、身だしなみ・実習室の使用方法、評価等) 1. 看護技術の概念 看護技術の基本原則と習得のプロセス 2. 対象理解のための観察 対象者の全体をみるとは 3. コミュニケーション① コミュニケーションに関する基礎知識 コミュニケーションの意義と目的、構成要素、関係構築のためのコミュニケーション	坂本	予習(30分):シラバスを熟読する。 看護技術の概念、対象理解のための看護、コミュニケーション該当箇所の熟読 復習(30分):授業内容を振り返り、資料やノートを整理する
2	4. 感染防止の技術 <講義> スタンダードプリコーションと感染経路別予防策	坂本	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、整理する
3	5. 環境調整技術 <講義> 療養生活の環境と援助の実際	坂本	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、整理する
4	6. 苦痛の緩和・安楽確保の技術 <講義> 休息の援助に関する基礎知識(睡眠の援助 含む) ・体位保持(ポジショニング) ・電法	坂本	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、整理する
5	7. 活動・休息援助技術 ① <講義> 基本的活動の基礎知識(ボディメカニクスとよい姿勢、体位) ・運動機能の低下した人への援助に関する基礎知識 ・移動を援助する方法	坂本	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、整理する
6	4. 感染防止の技術 【演習】 患者・医療者双方を守る安全の技術(手洗い・PPE) 流水による手洗い、手指衛生、マスク・アイガード・エプロン・手袋の装着と脱着	坂本	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む
7	3. コミュニケーション 【演習】 関係構築のためのコミュニケーション 5. 環境調整技術 【演習】 療養生活の環境と援助の実際・環境整備	坂本	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む
8	5. 環境調整技術 【演習】 臥床患者のシーツ交換	坂本	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む
9	6. 苦痛の緩和・安楽確保の技術 【演習】 ポジショニング・電法 ・仰臥位 側臥位 半側臥位 フェーラー位 ・氷枕・氷嚢の作成	坂本	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む
10	7. 活動・休息援助技術 ②③ 【演習】 ボディメカニクスを活用による体の動きの体感 体位変換	坂本	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む
11	・左右への移動 仰臥位から側臥位 側臥位から仰臥位 ・仰臥位からフェーラー位 仰臥位から長坐位 長坐位から端坐位 端坐位から立位 端坐位から仰臥位		

12	7. 活動・休息援助技術 ④⑤ 【演習】 杖歩行・車いすの移乗と移送・ストレッチャー	坂本	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む			
13						
14	【技術確認】 臥床患者のシーツ交換 ルーブリックを基に実施 基本技術のまとめ	坂本	予習(60分):技術確認は、事例をもとに、学生間で援助計画書を立案し、技術の練習をする。 復習(30分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の追記・修正			
15						
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)			○	Webでの事前課題や確認課題の配信などを取り入れ、各自が主体的に学修できる よう工夫をする。		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○			
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク			○			
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】 事前課題は、講義や演習中使用し適宜フィードバックを行う。						
【成績の評価方法】 ①定期試験:60% ②技術確認:20% 評価基準:ルーブリック評価に則る ③事前又は事後課題:20% 評価基準:期限までに提出され、全ての必要項目を満たした記述となっている。 合計:100% 【生成AI利活用(無)】 【ルーブリック評価の活用(有)】						
【履修申請上の条件】 ・特になし						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I	医学書院	9784260049924	⑤		
	② 系統看護学講座 基礎看護学(3) 基礎看護技術 II	医学書院	9784260056885	⑥		
	③			⑦		
	④			⑧		
【参考書】 ・医療情報科学研究所編:看護がみえるVol.1 基礎看護技術,メディックメディア。						
【オープンな教育リソース】 ・動画コンテンツを紹介することがある。						
【担当教員の実務経験】 ・看護師として臨床経験のある教員および、看護教育に従事した経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護の思考過程や援助技術の実践などについて教授する。						
【オフィスアワー】 ・事前にアポイントメントをとると、スムーズに対応できます。						
【教員連絡先】						
【備考】 ・1年次後期の基礎看護技術実習に向けて、本科目を履修しておくことが望ましい。 ・演習前には、援助計画書を記載する。 ・身支度を整えて、手洗いを済ませた状態で演習を開始する。 ・実習室に入室する場合は、既定の実習室使用方法に準じる。 ・Webサイトへの登録・入室の方法は、初回ガイダンス時に説明するため、事前に大学のGmailに登録しておくこと。						

授業科目名	生活援助技術	担当教員名	坂本 文子			
コード	26303	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/60時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
◎	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					

【授業の概要】
この科目は、看護技術の中でも人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活援助に関わる基本的看護技術について体験的に学ぶ。また、技術の一般的な手順のみならず、科学的根拠を踏まえた技術の習得をめざす。具体的には、移動・移送、寝衣交換、部分浴・清拭、洗髪、排泄の援助、栄養と食事援助、電法などである。対象の日常生活行動、特に、清潔(清拭、洗髪、部分浴)、食事・排泄援助について講義・演習・グループワークを通して学修する。日常生活行動における援助に必要な看護の基本的知識や考え方について講義で学び、援助技術は、手順を覚えるだけでなく、事例を通して対象の安全・安楽、心地よさやプライバシーへの配慮等を考慮した技術の方法を習得する。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 日常生活援助技術を実施するために必要な知識と方法を説明することができる。	○				
2 日常生活援助技術を安全・安楽・自立に基づき実施することができる。		○			
3 看護師、患者の役割体験から学んだ内容を述べるができる。			○		
4 自己の看護技術を振り返り、課題を述べるができる。			○		

【授業計画】		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
	授業計画		
1	ガイダンス:本時の学習方法・進め方 (演習の進行、評価について)	坂本	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読し、提出課題に取り組む 復習(90分):授業内容を振り返り、整理する
2	1. 観察の技術 一般状態のアセスメント① :バイタルサイン測定 【講義】バイタルサインに関する基礎知識 (体温・脈拍・呼吸に関する基礎知識)		
3	1. 観察の技術 一般状態のアセスメント② :バイタルサイン測定 バイタルサインの測定・観察方法	坂本	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り、整理。演習に関するワークに取り組む
4	【演習】バイタルサイン測定① 体温・脈拍・呼吸・血圧(触診法)		
5	1. 観察の技術 一般状態のアセスメント③ :バイタルサイン測定 バイタルサインの測定・観察方法	坂本	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り、整理。演習に関するワークに取り組む
6	【演習】バイタルサイン測定② 血圧(聴診法)		
7	2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ① 【講義】衣生活の援助に関する基礎知識/衣生活を整える方法 清潔援助に関する基礎知識	坂本	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り、整理する
8	清潔を整える方法(入浴・シャワー浴・足浴・清拭)、整容		
9	2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ②	坂本	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り、整理。演習に関するワークに取り組む
10	【演習】寝衣交換、清潔援助技術		
11	2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ③	坂本	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り、整理。演習に関するワークに取り組む
12	【演習】足浴		
13	2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ④-1	坂本	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り、整理。演習に関するワークに取り組む
14	【演習】洗髪①		
15	2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ④-2	坂本	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り、整理。演習に関するワークに取り組む
16	【演習】洗髪②		
17	2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ⑤-1	坂本	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り、整理。演習に関するワークに取り組む
18	【演習】清拭①		
19	2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ⑤-2	坂本	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り、整理。演習に関するワークに取り組む
20	【演習】清拭②		
21	3. 「食べる」と「排泄すること」の援助 ① 3-1) 食事の援助(経口的栄養摂取)① 【講義】食事・栄養状態に関する基礎知識 食事の援助方法、口腔ケア	坂本	予習(45分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、援助計画書を記載する 復習(45分):授業内容を振り返り、整理する。
22	3. 「食べる」と「排泄すること」の援助 ② 3-2) 排泄の援助 【講義】排泄に関する基礎知識 / 自然排泄を促す援助 / 床上排泄の援助方法 / オムツ交換 / 陰部洗浄	坂本	予習(45分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、援助計画書を記載する 復習(45分):授業内容を振り返り、整理する。
23	3. 「食べる」と「排泄すること」の援助 ③ 3-1) 食事の援助	坂本	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り、整理する。演習に関するワークに取り組む
24	【演習】食事援助と口腔ケア		
25	3. 「食べる」と「排泄すること」の援助 ④ 3-2) 排泄の援助 【演習】便器・尿器を使用した排泄の援助 オムツ交換排泄の援助(便・尿器・オムツ交換)	坂本	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り、整理する。演習に関するワークに取り組む
26	2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ⑥ 【演習】陰部洗浄		

27	【技術の統合】 事例に対して、必要な援助とその根拠を考え、援助計画を立案する。 援助: 清潔に関する援助、移動・移送、罨法など 立案した援助計画をもとに患者に実施する。(グループワーク) (29・30回目プレゼンテーションを行う)	坂本	予習(90分): 指定したテキストの該当部分を熟読, Web教材の視聴をし, 援助計画書を記載し提出する 復習(90分): 授業内容を振り返り, 整理する。演習に関するワークに取り組む			
28						
29	生活援助技術まとめ 【技術の統合 発表会】 事例に対する看護援助の内容, 留意点や援助の工夫についてプレゼンテーションを行う	坂本	予習(90分): 19・20回で取り組みのまとめ, プレゼンテーション準備と看護援助技術の練習, 援助計画書の提出 復習(90分): 援助および援助内容の振り返り, 整理			
30	プレゼンテーションおよび援助に対して, 自己評価・他者評価を行う。					
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①: PBL (課題解決型学習)		○	Webでの事前課題配信や確認課題配信などを取り入れ, 各自が主体的に学修できる工夫をする。 事例に合わせて, 援助を統合させて実施する視点を学ぶ。			
②: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ, 知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○				
③: ディスカッション・ディベート						
④: グループワーク		○				
⑤: プレゼンテーション		○				
⑥: 実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】 講義・演習時に適宜フィードバックする。						
【成績の評価方法】 ①筆記試験60% ②事例演習発表会20%(ルーブリック評価とし, 授業内で評価内容・方法を説明する) ③演習課題の記載・提出 20% 合計100% 【生成AI利活用 (無)】 【ルーブリック評価 (有)】 評価視点は, 授業内に配布する。						
【履修申請上の条件】 ・特になし						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 系統看護学講座 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ	医学書院	9784260056885	⑤		
	②			⑥		
	③			⑦		
	④			⑧		
【参考書】 ・医療情報科学研究所編: 看護がみえるVol.1 基礎看護技術, メディックメディア。						
【オープンな教育リソース】 ・動画コンテンツを紹介することがある。						
【担当教員の実務経験】 ・看護師としての臨床経験のある教員が, 実務経験を踏まえて看護技術のエビデンスや実践などについて教授する						
【オフィスアワー】 事前にアポイントメントをとると, スムーズに対応できます。 ➤ メール受付時間 : 平日 9:00~18:00 ➤ メールタイトル(件名) : ①科目名「生活援助技術」②学籍番号 ③氏名を記載する。 ➤ 宛名とメール内容 : ④宛名を記載し, ⑤簡潔・明瞭に用件を記載する。 ※課題の提出確認は, 原則自己管理とする						
【教員連絡先】						
【備考】 ・1年後期の基礎看護技術実習に向けて, 本科目を履修しておくことが望ましい。 ・演習における準備品は, 授業内もしくはWeb上のGoogleクラスルームで伝達する。						

授業科目名	看護とコミュニケーション	担当教員名	安藤幸枝			
コード	26305	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					

【授業の概要】
 本科目は、コミュニケーション論や基本援助技術で学修した基本的知識に基づき、看護実践に必要なコミュニケーションの理論と方法について学ぶ。特に、対象一看護者関係に焦点を当て、信頼関係を構築するための基本的な内容を学び、さらに援助的コミュニケーションについて学修する。看護者が用いる質問の方法や誠実な対応、共感的理解に焦点を当て、沈黙の意味についても学ぶ。看護者に求められるコミュニケーションは、相互作用であること、挨拶や身だしなみなどの基本的態度が求められることが基盤となっている。ロールプレイングを実施し、その体験を逐語録にして自分のコミュニケーションの過程を振り返り、よりよいコミュニケーションとは何かについて学修する。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 コミュニケーションの目的を想起できる。	○	○			
2 接近的コミュニケーションの原理を説明できる。		○			
3 効果的なコミュニケーションの技術を説明できる。		○			
4 コミュニケーション障害がある人への対応を考えることができる。	○				
5 ロールプレイングにより自己の特徴を述べることができる。	○				

【授業計画】		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
	授業計画		
1	【ガイダンス】 1. コミュニケーションの目的の想起 1) 看護や医療におけるコミュニケーションの目的・特徴 2) 対人関係プロセスとしての看護 2. ロールプレイング(ディスカッション、グループワーク)	安藤	予習(90分):シラバスを熟読し、授業概要を理解する。テキスト第1章A.コミュニケーションの意義と目的、B.コミュニケーションの構成要素と成立過程を復習する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
2	1. 看護におけるケアリングとコミュニケーション 1)ケアリングの概念と今日的意味 2. ロールプレイング(ディスカッション、グループワーク)	安藤	予習(90分):看護学概論第1章B.看護の役割と機能を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
3	1. 関係構築のためのコミュニケーション__① 1)接近的コミュニケーションの原理 2)接近的行動の前提となる基本的な態度 3)接近的行動と非接近的行動 4)接近的コミュニケーションの成立 2. ロールプレイング(ディスカッション、グループワーク)	安藤	予習(90分):テキスト第1章C.関係構築のためのコミュニケーションの基本を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
4	1. 関係構築のためのコミュニケーション__② 1)接近的コミュニケーションの原理 2)接近的行動の前提となる基本的な態度 3)接近的行動と非接近的行動 4)接近的コミュニケーションの成立 2. ロールプレイング(ディスカッション、グループワーク)	安藤	予習(90分):テキスト第1章C.関係構築のためのコミュニケーションの基本を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
5	1. 効果的なコミュニケーションの実際__① 1)傾聴 2)情報収集 3)説明 4)アサーティブネス 2. ロールプレイング(ディスカッション、グループワーク)	安藤	予習(90分):テキスト第1章D.効果的なコミュニケーションの実際を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
6	1. 効果的なコミュニケーションの実際__② 1)傾聴 2)情報収集 3)説明 4)アサーティブネス 2. ロールプレイング(ディスカッション、グループワーク)	安藤	予習(90分):テキスト第1章D.効果的なコミュニケーションの実際を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
7	1. コミュニケーション障がいがある人への対応__① 1)コミュニケーションに障がいのある人の特徴 2)言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3)コミュニケーション障がいがある人への対応 2. ロールプレイング(ディスカッション、グループワーク)	安藤	予習(90分):テキスト第1章E.コミュニケーション障がいへの対応を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
8	1. コミュニケーション障がいがある人への対応__② 1)コミュニケーションに障がいのある人の特徴 2)言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3)コミュニケーション障がいがある人への対応 2. ロールプレイング(ディスカッション、グループワーク) 3. まとめ 授業評価アンケート	安藤	予習(90分):テキスト第1章E.コミュニケーション障がいへの対応を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。

【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL (課題解決型学習)			•Google classroomを活用して、授業内容の指示をしたり、Google formsにより学修の理解度を確認する。			
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク		○				
⑤:プレゼンテーション		○				
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
•課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。						
【成績の評価方法】						
①ロールプレイングの取り組みと課題50点 ②レポート50点 合計:100% (※提示された課題に取り組んでいない場合、減点対象となる。課題の取り組み内容が6割に満たない場合は、再提出を課す。)						
【生成AI利活用 (無)】						
【ルーブリック評価の活用 (有)】						
【履修申請上の条件】						
•特になし						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
①	系統看護学講座 看護学概論, 基礎看護学1	医学書院	978426003862	⑤		
②	系統看護学講座 基礎看護技術 I 基礎看護学2	医学書院	9784260049924	⑥		
③				⑦		
④				⑧		
【参考書】						
•宮脇美保子編:新体系看護学全書 基礎看護学[1] 看護学概論, メヂカルフレンド社. •松木光子編著:看護学概論, スーベルヒロカワ.						
【オープンな教育リソース】						
•特になし。						
【担当教員の実務経験】						
•看護師としての臨床経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護とコミュニケーションを教授する。						
【オフィスアワー】						
<月曜日～木曜日>12:10～13時、必ずアポイントメントを取ってください。						
【教員連絡先】						
yando@g.t-iunshin.ac.jp						
【備考】						
•特になし						

授業科目名	暮らしの理解	担当教員名	菊池美智子 松浦真理子 川込あゆみ			
コード	26308	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
◎	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					

【授業の概要】
この科目では、人々の暮らしが地域によって支えられていることを理解し、地域を看る看護の基礎的な視点を学修する。ここでいう「暮らし」とは、日々の営みや生活の方法・様式、ライフスタイルを含む広い概念である。授業では、地域における人々の暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に及ぼす影響について考察する。人の一生には、「学ぶこと」「働くこと」「子どもを産み育てる」「病気を治す・病気とともに生きる」「老いとともに生きる(定年後の生活)」「障害をもちながら暮らす」など、多様な暮らしの形が存在することを学ぶ。さらに、人々の暮らしを支える地域社会や、その生活環境(文化的環境・社会的環境・自然環境)が健康に与える影響を理解し、地域を看る看護の視点を養うことを目的とする。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 「暮らし」の意味を述べることができる。	○	○	○		
2 様々な人々の暮らしを述べるができる。	○	○			
3 生活環境が健康に及ぼす影響を述べるができる。	○		○		
4 各ライフステージによる多様性や関連する健康課題について述べるができる。	○	○	○		
5 地域包括ケアシステムと地域包括支援センターの概要を説明することができる。	○				
6 人々の健康を支える地域を理解することの意義を述べるができる。	○	○	○		

【授業計画】		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
	授業計画		
1	授業オリエンテーション 【「暮らし」・「生活」の概念】 ①「暮らし」とは ②暮らしと健康の関係 ③健康に影響を及ぼす「地域」(文化的・社会的・自然環境)とは ④地域を看る視点とは	菊池美智子 松浦真理子 川込あゆみ	予習(30分): ①シラバスを一読し、授業のイメージを持って参加する。 復習(30分): 課題①「地域を看る」ということについて自分の考えをまとめる。
2 3	【生活習慣や生活環境が健康に与える影響】 ・「食生活指針」(平成28年6月)に則り、健康的な食生活を考える ・生活環境(居住環境・家族等)と健康を考える ・生活習慣と健康を考える ・経済面と生活を考える 生活習慣(運動・睡眠・学習・趣味・買物等)が健康に与える影響についてディスカッションをする。 発表会と全体討論を通して、「生活習慣や生活環境が健康に与える影響」について、自分の考えをまとめる。	菊池美智子 松浦真理子 川込あゆみ	予習(45分): ①自らの食生活の傾向と改善の必要性について考えておく。 ②自らの運動や身体活動の傾向と改善の必要性について考えておく。 復習(30分): 課題②「生活習慣や生活環境が健康に与える影響」についてレポートをGoogleフォームに入力して提出する。
4 5	【人の一生の中の暮らしを考える】 ・予習のインタビュー内容を基に、「子どもを産み育てること」についてディスカッションをする。 【人の一生の中の暮らしを考える】 ・発表会と全体討論を通して、「子どもを産み育てること」を考え、自分の考えをまとめる。	川込あゆみ 松浦真理子 菊池美智子	予習(50分): ①人の一生の中で、「子どもを産み育てること」についてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「子どもを産み育てること」についてインタビューをして、その結果を『課題ノート』にまとめる。 復習(30分): 課題③人の一生の中で、「子どもを産み育てること」について自分の考えをまとめる。
6 7	【人の一生の中の暮らしを考える】 ・予習のインタビュー内容を基に、「定年後の暮らし」についてディスカッションをする。 【人の一生の中の暮らしを考える】 ・発表会と全体討論を通して、「定年後の暮らし」を考え、自分の考えをまとめる。	菊池美智子 松浦真理子 川込あゆみ	予習(60分): ①人の一生の中で、「定年後の暮らし」についてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「定年後の暮らし」についてインタビューをして、その結果を『課題ノート』にまとめる。 復習(30分): 課題④人の一生の中で、「定年後の暮らし」について自分の考えをまとめる。
8 9	【人の一生の中の暮らしを考える】 ・予習のインタビュー内容を基に、「健康を害する」「病を治す」「病と付き合い合う」ことについてディスカッションをする。 【人の一生の中の暮らしを考える】 ・発表会と全体討論を通して、「健康を害する」「病を治す」「病と付き合い合う」ことを考え、自分の考えをまとめる	菊池美智子 松浦真理子 川込あゆみ	予習(60分): ①人の一生の中で、「健康を害する」「病を治す」「病と付き合い合う」ことについてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「健康を害する」「病を治す」「病と付き合い合う」ことについてインタビューをして、その結果を『課題ノート』にまとめる。 復習(30分): 課題⑤人の一生の中で、「健康を害する」「病を治す」「病と付き合い合う」ことについて自分の考えをまとめる。

10 11	【地域における暮らしの理解】 ①地域の人々との暮らし ②予習のインタビュー内容を基に、「家族」「仲間」「近隣の人々」の暮らしについてディスカッションをする。 【地域包括ケアシステム】 ①地域包括ケアシステムとは 【地域包括ケアシステム】(外部講師) ①地域包括支援センターとは ②地域で暮らす:八王子市加住・滝山地区 ③地域包括支援センター加住の取り組み事例	川込あゆみ 松浦真理子 菊池美智子	予習(60分): ①「家族」「仲間」「近隣の人々」の暮らしについてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「家族」「仲間」「近隣の人々」の暮らしについてインタビューをして、その結果を『課題ノート』にまとめる。 ③厚生労働省ホームページの「地域包括ケアシステム」を熟読し、疑問点を課題ノートに記述する。 ④八王子市加住地区についてホームページ等で調べる。 復習(30分): 課題⑥地域住民に対する地域包括支援センター加住の役割についてまとめる。			
12 13	【障害をもちながら地域で暮らす】 ①障害の種類 ②障害者認定 ③障害者の生活と心理 【障害をもちながら地域で暮らす】 ①「地域生活」が意味するもの ②「地域生活」には何が必要か ③住まいの工夫 ④社会とのかかわり	川込あゆみ 松浦真理子 菊池美智子	予習(60分): テキストの該当箇所を熟読し、わからないことをノートに記述する。 復習(30分): 課題⑦「障害をもちながら地域で暮らすこと」について自分の考えをまとめる。			
14 15	【地域を見る】 ①領域実習での地域包括支援センターが位置する地区のいずれかについて、量的データ(市報、地図、ネットから得られる情報など)を収集する ②①で得られたデータをもとに地域の特性について考察する ③地域の特性が健康にどのように関連するか考察する ④地域を見ることについて考察する	菊池美智子 松浦真理子 川込あゆみ	予習(60分): ①自分の住む地域について、その特性を示す情報を収集し『課題ノート』にまとめる ②①で作成した内容から、健康に影響を及ぼす地域の特性についてイメージをもって参加する。 復習(40分): 課題⑧地域の特性を踏まえたケアシステムについて考察する。			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)			ICTを活用して授業を実施 ・授業に関する教材・資料・ビデオの提供 ・学生・教員間のコミュニケーション			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート		○				
④:グループワーク		○				
⑤:プレゼンテーション		○				
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
講義終了10分前に、講義内容の質問と意見をリアクションペーパーに記入し、質問等のフィードバックは、次の講義の中で実施する。						
【成績の評価方法】						
課題:『課題ノート』30% ※課題ノートは第1回～第15回までの予習・復習に活用し、記述内容の具体性を評価基準とする。 課題①～⑧はそれぞれ5%、計40% 最終の課題レポートは30% ※課題レポートは「暮らしと健康」について、ルーブリック評価を基に評価する。 合計:100%						
【生成AI利活用(有)】						
1)成績評価の対象となるレポートや記録等の作成において、生成AIが作成した内容(以下、生成AIの回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めない。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文元)がわかるように記載する。 2)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用し、チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としない。						
【ルーブリック評価の活用(有)】						
【履修申請上の条件】						
履修申請上の条件はなし						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤	医学書院	9784260046893	⑤		
	② 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践	医学書院	9784260047142	⑥		
	③			⑦		
	④			⑧		
【参考書】						
特になし						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
松浦真理子:臨床・訪問看護・ケアマネジメントの多角的な実務経験に基づき、疾患や障害を持つ対象者の「生活の再構築」や「自立支援」に向けた制度活用、社会資源、看護マネジメントの実際を教授する。 川込あゆみ:臨床看護、訪問看護、市町村保健師の実務経験をもとに様々なライフステージや健康レベルにある人と家族、地域を対象にした看護について講義を行う。 菊池美智子:臨床看護、難病在宅療養者への支援経験から、疾病や健康問題を抱える生活者やその生活を支える人々を対象とした看護の視点について講義を行う。						
【オフィスアワー】						
松浦真理子:月～金12:10～13:00 川込あゆみ:火・水・木・金12:10～13:00 菊池美智子:月～金12:10～13:00						
【教員連絡先】						
松浦真理子:mmatsuura@g.t-junshin.ac.jp 川込あゆみ:akawagome@g.t-junshin.ac.jp 菊池美智子:mkikuchi@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】						
特になし						

授業科目名	成人看護学概論	担当教員名	西山 久美江			
コード	26313	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力

【授業の概要】
 本科目では、成人各期(青年期・壮年期・中年期・向老期)の各発達段階における身体的・精神的・社会的特徴について、生涯発達の見点からさまざまな発達理論を基に学修する。成人各期の特徴について、自己学修を行いレポートにまとめた上で、グループディスカッションやプレゼンテーションを通して学びを深める。また、成人期にある学生自身も、大人としての自己の発達課題について考察し、成人期を多角的な視点から捉える力を養っていく。さらに、成人を取り巻く最新の成人保健の動向について学び、健康の維持・増進や疾病予防における看護師の役割についても理解を深める。成人への基本的な看護アプローチや、健康レベルや状態に応じた看護についても学修する。

【授業の到達目標】例	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 成人(大人)の生涯発達の特徴と各期の分類、各期における身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。	○				
2 成人(大人)の生活と健康の特徴と保健・医療・福祉システムの現状を説明できる、	○				
3 成人への看護アプローチの基本を説明できる。	○	○			
4 成人のヘルスプロモーションを促進する方法について説明できる。	○				
5 生活行動がもたらす健康問題とその予防について説明できる。	○	○			

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション(授業の概要・目標、スケジュール、評価基準等) I 成人と生活 A 対象の理解—大人になること、大人であること B 対象の生活—働いて生活を営むこと	西山	予習(30分):テキスト第1章-A・Bを予習し、疑問点を整理しておく。 復習(120分):講義の内容を整理し、自身でわかりやすくまとめる。
2	II 生活と健康 A 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 B 生活と健康をまもりはぐくむシステム	西山	予習(60分):テキスト第2章-A・Bを予習し、疑問を整理しておく。 復習(120分):講義の内容を整理し、自身でわかりやすくまとめる。
3	III 成人への看護アプローチの基本 A 生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 B 症状マネージメント C 健康問題と持つ大人と看護師の人間関係	西山	予習(60分):テキスト第3章-A・B・Cを予習し、疑問を整理しておく。 復習(120分):講義の内容を整理し、自身でわかりやすくまとめる。
4	III 成人への看護アプローチの基本 D 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ E チームアプローチ F 看護におけるマネージメント	西山	予習(60分):テキスト第3章-D・E・Fを予習し、疑問を整理しておく。 復習(120分):講義の内容を整理し、自身でわかりやすくまとめる。
5	III 成人への看護アプローチの基本 G 看護実践における倫理的判断 H 意思決定支援 I 家族支援	西山	予習(60分):テキスト第3章-G・H・Iを予習し、疑問を整理しておく。 復習(120分):講義の内容を整理し、自身でわかりやすくまとめる。
6	グループワーク <大人の健康行動をはぐくむ看護のアプローチについて、禁煙を例に方法を検討する>	西山	予習(60分):「喫煙による健康被害」について調べ、グループワークの準備を行う。 復習(60分):他のグループワークの発表内容から学びを共有し、課題レポート「喫煙による健康被害と禁煙教育の必要性」について、文献を用いてまとめる。
7	IV ヘルスプロモーションと看護 A ヘルスプロモーションと看護 B ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動	西山	予習(60分):テキスト第4章-A・Bを予習し、疑問を整理しておく。 復習(120分):講義の内容を整理し、自身でわかりやすくまとめる。
8	V 健康をおびやかす要因と看護 A 健康バランスの構成要素 B 健康バランスに影響を及ぼす要因 C 生活行動がもたらす健康問題とその予防	西山	予習(60分):テキスト第5章-A・B・Cを予習し、疑問を整理しておく。 復習(120分):講義の内容を整理し、自身でわかりやすくまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】
 課題レポートに対するフィードバックは、レポートにコメントを入れ返却する。

【成績の評価方法】						
①定期試験 80%						
②課題レポート 20%						
合計:100%						
【生成AI利活用（ 無 ）】						
【ルーブリック評価の活用（ 有 ）】						
【履修申請上の条件】						
未収得科目は2科目までとする。ただし「看護概論」は除く。						
【教科書】	書名	出版社	ISBN		書名	出版社 ISBN
	① 系統看護学講座 成人看護学総論	医学書院	電子テキスト	⑤		
	②			⑥		
	③			⑦		
	④			⑧		
【参考書】						
服部祥子:生涯人間発達論 医学書院						
厚生労働統計協会編:国民衛生の動向 (最新版)						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
急性・重症患者看護専門看護師としての実務経験、成人看護学の教育経験を活かして指導する。						
【オフィスアワー】						
月曜日～木曜日の12:00～13:00。事前に連絡してから訪問すること。						
【教員連絡先】						
西山久美江:knishiyama@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】						
特になし						

授業科目名	老年看護学概論	担当教員名	渡辺 みどり			
コード	26137	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					

【授業の概要】

老年看護学概論は、老年期にある対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力を身につけることを目的としている。ライフサイクルからみた老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を疑似的な生活体験をもとに学ぶ。生理的老化は、個体差が非常に大きいという特徴があり、生活者として一人ひとり捉えていくことの重要性を理解する。具体的には、避けることのできない老いに対して、フレイルやサルコペニアの視点から取り上げ、高齢者個々の日常生活への影響について考察する。また、少子超高齢社会が伸展し続ける現在、我が国の老年人口の推移と死因動向の特徴、世帯構成や要介護者の要因を理解し、高齢者を取り巻く保健医療福祉における課題を考察する。さらに、老年看護を支える理論・概念、高齢者の権利擁護について学ぶ。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 ライフサイクルからみた老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。	○				
2 高齢者を取り巻く保健医療福祉の動向や課題を述べることができる。			○		
3 高齢者の権利擁護について自己の考えを記述できる。		○			
4 老年看護の理論と概念について述べることができる。			○		
5 高齢者の健康障害の特徴をふまえ、看護の原則と目標を説明できる。			○		
6					
7					

【授業計画】		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	イントロダクション 1) 老いのイメージ 2) 高齢者の健康 3) 加齢と老化 4) フレイルとサルコペニア	渡辺	予習(60分):老いのイメージについて、自分自身の考えをまとめる。 復習(60分):講義後、「老いる」ことの自分自身の考えをまとめる。
2・3	老年期にある対象の身体的特徴 1) 老化の生活行動疑似体験 【グループ演習・アクティブラーニング②④IBM】 (1) 視力低下、視覚障害 (2) 手指の巧緻性の低下 (3) 聴覚低下 (4) 全身の筋力や関節可動域の変化	渡辺	予習(60分):老化にともなう高齢者の身体的変化についてテキストを読みまとめる。 復習(60分):演習を振り返り、器官別に身体的機能の変化の特徴をまとめる。 課題①(300分):「老化が心身と生活に及ぼす影響について」のレポートを提出する。 提出期間:1週間後。(成績評価15%)
	2) 臓器・器官別の加齢性変化 (1) 脳・神経系 (2) 心・血管系 (3) 呼吸器系 (4) 消化器系 (5) 腎・泌尿器系 (6) 骨・筋・運動器系 (7) 造血器・生殖器系	渡辺	予習(60分):テキストの該当するページを読み、分からない用語を調べる。 復習(60分):講義を振り返り、高齢者の生活のなかで注意が必要な場面について、根拠とともにまとめる。
4	老化による日常生活への影響 1) 身体的側面の変化 2) 知的・認知的側面の変化 3) 心理的側面の変化 4) 社会的側面の変化	渡辺	予習(60分):テキストの該当するページを読み、分からない用語を調べる。 復習(60分):講義を振り返り、高齢者の生活のなかで注意が必要な場面について、根拠とともにまとめる。
5	老年期の発達課題 1) 発達理論と発達課題 2) 老年期の発達課題 3) スピリチュアリティ	渡辺	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(60分):老年期の発達課題、死生観についてまとめる。
6	人口学的指標からの老年期の理解および医療のしくみ 1) 高齢化と高齢者世帯 2) 高齢者の健康状態、平均寿命、健康寿命、死亡の動向 3) 高齢者と家族機能 4) 介護家族の課題 5) 高齢者の医療のしくみ	渡辺	予習(60分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(60分):介護家族に対して、どのような対策が必要かを考えまとめる。各自在住する地域の介護保険サービス提供施設について調べる。
7	老年看護の原則と目標【1】 【アクティブラーニング③④⑤】 1) 高齢者に対するスティグマ、エイジズム 2) アドボカシー、アドボケイト 3) ノーマライゼーション 4) 自立支援	渡辺	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、看護師を目指す自己の課題を明らかにする。 復習(45分):自立支援についてまとめる。

8	<p>老年看護の原則・目標【2】</p> <p>1) 高齢者虐待/身体拘束 2) 権利擁護のための制度 3) 老年看護における看護理論 ・エンバワメント ・ストレングスモデル ・ライフレビュー ・コンフォート理論</p> <p>4) 高齢者のための国連原則 5) まとめ</p>	渡辺	<p>予習(30分):新聞記事の検索システムを活用し、高齢者虐待や身体拘束に関連した報道をとりあげ、自己の考えをまとめる。 復習(30分):高齢者の権利を擁護するために、必要な対策について考えをまとめる。</p> <p>課題②(360分) 1回～8回までの授業を振り返り、レポートを提出する。 タイトル「近年の高齢者を取り巻く問題・課題と看護職を目指す自分の考え」 表紙に、タイトルを書き、文字のフォントは、12ポイント・明朝体・太文字とする。 表紙以外の本文は、フォント10.5ポイント・明朝体とする。 用紙は、A4、横書き、上下・左右余白ともに20mmとし、1ページ40字×40行とする。</p> <p>提出期間:1週間後。(成績評価15%)</p>
---	---	----	---

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		IBL(Inquiry Based Learning) タブレット端末を活用した身体機能チェック 老化の生活行動疑似体験
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

リアクションペーパーや課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義のなかで実施する。

【成績の評価方法】

評価方法① 到達目標1は、ルーブリックを活用し課題レポートを評価する。
評価方法② 到達目標3は、3つの観点から考察した課題レポートを評価する。
評価方法③ 到達目標2・4・5は、筆記試験により理解度を評価する。

<割合> 課題レポート:30%(15%×2) 筆記試験:70% (合計100%)

【生成AI利活用(有)】
【ルーブリック評価の活用(有)】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
①	専門分野 老年看護学	医学書院	(電子テキスト)	⑤		
②				⑥		
③				⑦		
④				⑧		

【参考書】

1.百瀬 由美子, 奥野 茂代他:老年看護学—概論と看護の実践 第6版,スーベルヒロカワ.
2.亀井智子:老年看護学概論/老年保健,メヂカルフレンド社.
3.亀井智子:健康障害をもつ高齢者の看護,メヂカルフレンド社.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

老年内科での看護師実務経験、認知症高齢者の療養施設での研修・研究活動のある教員が、老化、病、障害を複合的に抱える高齢者と家族を支える看護の原則、目標・理論について教授する。

【オフィスアワー】

【教員連絡先】

【備考】

この科目は、2年次の必修科目である老年生活機能援助論・老年健康回復援助論につながる重要な学修内容となっています。
予習、復習は、必ず教科書を活用し、丁寧に行ってください。授業を受けることで、老年看護学への学問的な関心が高まります。

授業科目名	基礎看護技術実習	担当教員名	坂本文子・原口真由美・安藤幸枝 他			
コード	26338	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/実習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力					
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力					
◎	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力					
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力					
	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力					
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					

【授業の概要】
 本科目では、療養生活の場に出向き、患者とのコミュニケーションや環境調整や清潔の援助など看護援助場面の一部実施を通して、患者におこなわれている日常生活の援助について学ぶ。
 主な実習の目的は、対象との関わりと看護実践の場への参加を通して、療養生活をしている対象を理解することである。学生は、看護師のシャドウイングや実際に看護実践を一部援助することで療養環境や看護援助を理解し、患者と接することにより、看護者としてふさわしい行動や看護について考え、理解を深める。
 本科目は、医療施設において看護学生としての学習方法を学ぶ最初の実習である。実習では、他者と関わることで自己を振り返り、看護学生としての自覚と責任ある行動をとることが求められる。今後の看護の学修への動機づけにもなる科目でもあり、臨床で学生が計画性をもって行動すること、チームの一員であるという自覚をもって行動できることに繋がる。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 患者の療養環境と療養生活を述べるができる。	○				
2 看護の実際を説明することができる。	○				
3 患者を尊重しながら、会話をすることができる。	○				
4 自己の振り返りや他者との情報共有を通して、学びを深めることができる。	○				
5 看護学生として自覚と責任ある行動をとり、主体的に実習に取り組むことができる。	○				

【授業計画】		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	授業計画 詳細は基礎看護技術実習要項を参照	坂本、原口、 安藤	【実習1日目】 予習(25分): ・実習目標を理解し、各自の実習目標を立てる。 ・実習当日の一日の行動計画を立てる。 ・実習に向けた事前課題を準備する。 ・必要な援助技術の練習を行う。 復習(20分): ・本日の目標を評価し、明日の行動計画を立案する。 【実習2日目・3日目】 予習(各25分): ・実習目標を記録用紙に記載する。 ・見学及び一部実施できる援助技術の手順を確認する。 復習(各20分): ・実習を振り返り、記録用紙を整理する。 ・見学・実施した看護援助について振り返り、翌日の行動計画に活用する。 【実習4日目】 予習(25分): ・実習目標を記録用紙に記載する。 ・見学及び一部実施できる援助技術の手順を確認する。 復習(20分): ・実習を振り返り、記録用紙を整理する。 ・実習の学びについてまとめておく 【実習5日目】 学内 予習(各25分) ・4日間で学んだ内容をグループで共有する。 ・4日間で学んだ内容を記録用紙を使用して整理する。 ・評価表を基に自己評価をする。 ・教員による指導を受ける。 復習(各20分) 学内で指導を受けた内容をもとに記録用紙の整理をする。 ・実習記録提出。
2	実習期間:1クール目:2025年12月 日(月)ー12月 日(金) ・2クール目:2025年12月 日(月)ー12月 日(金)		
3	実習時間:原則として8:30~16:00		
4	実習施設:聖マリアンナ医科大学病院 ほか		
5	実習方法:		
6	・学生は5~6名程度でグループを編成し、各病棟に分かれて実習を行う。		
7	・病院・病棟オリエンテーションを受ける。		
8	・患者に行われている看護援助を見学する。		
9	・看護師とともに患者に行われている看護援助を一部実施する。		
10	(スタンダードプリコーション・環境整備・シーツ交換・清潔援助・移動/移送の援助)		
11	・療養環境を観察する。		
12	・患者と会話をする。		
13	・情報共有や疑問解決のために、毎日、グループカンファレンスを行う。		
14	・実習の翌週に個別面接を行い、自身の学びを客観的に評価する。		
15			

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		・基礎看護技術実習前に、グループを中心に実習室を有効活用して、看護技術の復習をする。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】
 ・実習中の質問や疑問は、当日や翌日に実習担当教員や実習指導者より返答する。また、必要時、記録の提出にコメントを入れて返却する。

【成績の評価方法】						
<p>①実習目標の到達度を実習内容・態度・実習記録・カンファレンスへの参加度などをもとに、到達目標1～5について評価表の評価項目(100%)に沿って総合的に評価する。 ・実習記録物の提出が指定された期日および時間に遅れた場合は、不合格となる。 合計:100%</p> <p>【生成AI利活用(無)】 【ルーブリック評価の活用(無)】 評価表は、実習要項に掲載する。</p>						
【履修申請上の条件】						
・特に指定しない。						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2	医学書院	9784260049924	⑤		
	② 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3	医学書院	9784260056885	⑥		
	③ 看護学概論 基礎看護学1	医学書院	9784260038621	⑦		
	④			⑧		
【参考書】						
・既習学習で使用したテキストや授業資料など						
【オープンな教育リソース】						
・特に使用しない						
【担当教員の実務経験】						
・看護師として臨床経験のある教員および、看護教育に従事した経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護の思考過程や援助技術の実践などについて教授する。						
【オフィスアワー】						
・担当教員…実習病院で実習時間内に行う。						
【教員連絡先】						
<p>・原口真由美 <mharaguchi@g.t-junshin.ac.jp> 各担当教員の連絡方法は、別途説明する。(Gmailもしくは、実習用携帯)</p>						
【備考】						
<p>・「看護学概論」「基本援助技術」の単位修得が望ましい。 ・「生活援助技術」の履修中が望ましい。 ・実習オリエンテーションでは、事前課題が提示されるので準備して実習に臨むこと。 ・基礎看護技術実習の翌週には、評価面接と記録提出日を設けるため、出席すること。 ・健康管理に十分留意して実習に臨むこと。</p>						

授業科目名	暮らしの理解体験実習	担当教員名	菊池美智子 松浦真理子 川込あゆみ					
コード	26340	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/実習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力							
	② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力							
	③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力							
	④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力							
◎	⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力							
	⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力							
【授業の概要】								
この科目では、「暮らしの理解」で学修した知識をもとに、地域で暮らす人々とのコミュニケーションを通して人々の暮らしと地域の人々への支援を学ぶ。暮らしの理解体験実習では、「学ぶこと」、「働くこと」、「子どもを産み育てる」、「病を治す」、「老いとともに生きる(定年後の生活)」のテーマを中心に地域の人々とのコミュニケーションを通して暮らしの実態を把握する。地域住民の暮らしの実態では、①地域住民の生活史、②地域住民の生活(食生活、運動、睡眠等)、③地域住民の社会生活(家族、趣味、ボランティア等)、④地域住民の健康状態、⑤地域住民の健康に対する価値観(考え)ならびに、健康と暮らしとの関連として、①地域住民の健康と暮らし(食生活・活動等)との関連、②地域住民の健康と社会生活との関連をまとめ、地域住民の暮らしのニーズ・課題を明確にする。さらに、グループディスカッションを通して、地域の人々の暮らしの理解を深めるとともに、支援のあり方を考察する。								
【授業の到達目標】								
				評価方法				
				①	②	③	④	⑤
	1 地域住民の暮らしの実際を述べることができる。			○	○			
	2 健康と暮らしとの関連について述べるができる。			○	○			
	3 地域住民の暮らしのニーズ、課題を述べるができる。			○	○			
	4 地域住民への支援のあり方を述べるができる。			○	○			
	5 地域住民の方を尊重し、マナーを守って行動することができる。			○				
	6 看護学生として住民の健康保持のために判断・行動することができる。			○				
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	1日目: (午前) 1. オリエンテーション ・実習の到達目標、実習概要 ・『暮らしの理解体験実習』の自己の目標を立案する。 ・訪問における心構え、マナーについて学修する。 (午後) 2. 「障害をもちながら地域で暮らす」講座後の交流会の計画立案 3. 「地域の方との交流会」の計画立案	菊池美智子 松浦真理子 川込あゆみ	予習(90分): (1)八王子市加住・高尾地域の特徴を配付資料とインターネット等で調べてまとめる。 (2)「暮らしの理解体験実習」の自身の実習目標を記述する。 (3)「障害をもちながら地域で暮らす」講座後の交流会の実習目的と実習スケジュールを記述する。 (4)「地域の方との交流会」の自身の実習目的と実習スケジュールを記述する。 (5)教科書②p.396～399を精読し、看護職として訪問する際の心構え、マナーについてまとめる。 復習(45分): (1)行動計画表(実習結果と考察、学び)をまとめる。					
2	2日目:加住地区 1. 介護予防教室等に参加 2. 地域の方との交流会に参加 ①地域住民の生活史 ②地域住民の生活(食生活、運動、睡眠等) ③地域住民の社会生活(家族、趣味、ボランティア等) ④地域住民の健康状態 ⑤地域住民の健康に対する価値観(考え) 高尾地区の学生 1.加住地区の特徴をまとめる。 2.共生社会に対する個々の考えをまとめる。	菊池美智子 松浦真理子 川込あゆみ	予習(90分): (1)行動計画表の行動目標・実習スケジュールを立案する。地域特性を踏まえた質問内容を考える。 復習(45分): (1)行動計画表(実習結果と考察、学び)をまとめる。 (2)協力住民へのお礼の手紙を書く。					
3	3日目:高尾地区 1. 介護予防教室等に参加 2. 地域の方との交流会に参加 ①地域住民の生活史 ②地域住民の生活(食生活、運動、睡眠等) ③地域住民の社会生活(家族、趣味、ボランティア等) ④地域住民の健康状態 ⑤地域住民の健康に対する価値観(考え) 加住地区の学生 1.加住地区の特徴をまとめる。 2.共生社会に対する個々の考えをまとめる。	川込あゆみ 菊池美智子 松浦真理子	予習(90分): (1)行動計画表の行動目標・実習スケジュールを立案する。地域特性を踏まえた質問内容を考える。 復習(45分): (1)行動計画表(実習結果と考察、学び)をまとめる。 (2)協力住民へのお礼の手紙を書く。					
4	4日目: (午前) 1. 地域の方との交流会の結果をまとめる ①地域住民の生活史、②地域住民の生活(食生活、運動、睡眠等) ③地域住民の社会生活(家族、趣味、ボランティア等) ④地域住民の健康状態、⑤地域住民の健康に対する価値観(考え) 2. 健康と暮らしとの関連 ①地域住民の健康と暮らし(食生活・活動等)との関連 ②地域住民の健康と社会生活との関連 3. 地域住民の暮らしのニーズ・課題を明確にする 4. 地域住民への支援のあり方 ①地域住民の健康に関する価値観・考え ②地域住民の生活に関する価値観・考え ③地域住民の価値観を取り入れた支援について (午後) 5. 「障害をもちながら地域で暮らす」講座 ①講師とのディスカッション ②学びのまとめ 6. 『暮らしの体験実習』の全体の学びをパワーポイントにまとめる。	菊池美智子 松浦真理子 川込あゆみ	予習(90分): (1)地域の方との交流会の結果をまとめる。 (2)健康と暮らしとの関連についてまとめる。 復習(45分): (1)地域住民の暮らしのニーズ・課題と地域住民への支援のあり方をまとめる					

5	<p>5日目: 1. 実習の学びの発表会・まとめ ①地域住民との交流会、障害をもちながら地域で暮らす講座から得られた学び ②健康と暮らしとの関連 ③地域住民の暮らしのニーズ・課題を明確にする ④地域住民への支援のあり方 ⑤『暮らしの理解体験実習』の学び</p>	<p>菊池美智子 松浦真理子 川込あゆみ</p>	<p>予習(90分): (1)実習の学びの発表会の準備 復習(45分): (1)実習記録の整理 (2)『暮らしの理解体験実習』の学びのレポートの作成</p>			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
実習に対する課題のフィードバックは、内容によって当日もしくは翌日に行う。						
【成績の評価方法】						
①暮らしの理解体験実習評価表(地域住民の暮らし、健康と暮らしの関連、支援のあり方、マナーや行動)に基づき評価する(80点) ②「暮らしの理解体験実習」課題レポート(20点) 合計100%						
【生成AI利活用(有)】						
1)成績評価の対象となるレポートや記録等の作成において、生成AIが作成した内容(以下、生成AIの回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めない。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文元)がわかるように記載する。 2)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用し、チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としない。						
【ルーブリック評価の活用(無)】						
【履修申請上の条件】						
「暮らしの理解」を履修していることが望ましい。						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤	医学書院	9784260046893	⑤		
	② 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践	医学書院	9784260047142	⑥		
	③			⑦		
	④			⑧		
【参考書】						
特になし。						
【オープンな教育リソース】						
特になし。						
【担当教員の実務経験】						
松浦真理子:臨床・訪問看護・ケアマネジメントの多角的な実務経験に基づき、疾患や障害を持つ対象者の「生活の再構築」や「自立支援」に向けた制度活用、社会資源、看護マネジメントの実際を教授する。 川込あゆみ:臨床看護、訪問看護、市町村保健師の実務経験をもとに様々なライフステージや健康レベルにある人と家族、地域を対象にした看護について講義を行う。 菊池美智子:臨床看護、難病在宅療養者への支援経験から、疾病や健康問題を抱える生活者やその生活を支える人々を対象とした看護の視点について講義を行う。						
【オフィスアワー】						
松浦真理子:月～金12:10～13:00 川込あゆみ:火・水・木・金12:10～13:00 菊池美智子:月～金12:10～13:00						
【教員連絡先】						
松浦真理子:mmatsuura@g.t-junshin.ac.jp 川込あゆみ:akawagome@g.t-junshin.ac.jp 菊池美智子:mkikuchi@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】						
実習施設の職員や地域住民、外部講師には学生から挨拶をしてください。 実習記録を進めるために必要な情報等を把握するために積極的、かつ節度をわきまえて実習指導者や外部講師、地域住民に質問をしてください。 住民などからの質問には、誠意をもって応じてください。また、住民との会話では、話をさえぎらず、傾聴してください。						

授業科目名	看護叡智探究論 I	担当教員名	福永ひとみ・川原 尚子			
コード	26409	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/通年	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 対象を全人的・個別的・総合的に捉える能力 人はかけがえのない存在であることを理解し、人として生活者として対象を捉えることができる能力 ② 看護専門職としての責務を遂行する能力 医療倫理、看護倫理および法的責任を理解し、看護を遂行する能力 ③ 専門的知識、臨床スキルを活用し問題を解決する能力 医療及び看護の専門的知識と臨床スキルを活用して、対象の問題(課題)を解決に向けた看護を実践する能力。健康上の課題を解決する能力 ④ 人間関係を築くためのコミュニケーション能力 質の高い看護をするために対象との援助関係の構築および様々な職種との連携・協働に必要なコミュニケーション能力 ⑤ 地域における人々の健康を支援する能力 地域社会における人々の健康と暮らしを支えるケアシステムの理解、疾病予防と健康保持・増進の視点からの支援、災害・感染等の健康危機への対応できる能力 ⑥ 生涯にわたり看護学を探究する能力 質の高い看護を提供するために、情報科学技術や人工知能を活用し、生涯にわたり看護学を探究する能力					
【授業の概要】						
本科目は、的確な看護実践能力の基盤となる科学的根拠を導く知識、思考、理解力、判断力を育成することを目的に、学修進度に応じて段階的にその能力を習得できるように全学年に配置された領域横断型科目である。看護叡智探究論 I は、1年次に開講し、既習科目の形態機能学 I・II、看護学概論および基本援助技術の知識をもとに人間の生活機能の特徴と生活行動を理解し、看護学の礎となる理論や看護技術、態度を統合し探究的に学修する。具体的には、人間の生命維持のための生活行動の特徴を理解し、健康状態に応じた援助の基本を安全と安楽の視点から科学的根拠に基づき探究する。学修方法は、本・新聞記事等を正確に読み、その内容を簡潔に文章で伝えること、また、その内容に対して自分の考えを論理的に表現できる能力を培う。						
【授業の到達目標】					評価方法	
					①	②
1	授業資料に載っている記事などを正確に読み取ることができる。				○	
2	自主的に課題に取り組み、小論文の書き方を述べるることができる。					○
3	小論文を完成させることで、今後の自己の課題を述べるることができる。				○	
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	科目のオリエンテーション 看護を学ぶために必要な読解力について理解する。 作文や小論文を書くにあたって必要な文章力を学ぶ。	川原 福永	予習(30分):シラバスを熟読する。 復習(60分):授業終了後の振り返りをまとめる。			
2	400字の作文を2段落で書く。 新聞のコラムを読み、筆者の考えと自分の考えを描き分ける。	川原 福永	予習(50分):作文の書き方について調べる。 復習(120分):授業で取り上げたコラムを読み、自分の思ったこと、今後考えていきたいことをまとめる。			
3	600字の小論文を3段構成で書く。 序論、本論、結論の3段構成の書き方を学ぶ。 文章を読み、自分の考えを明らかにして書く。	川原 福永	予習(50分):文章の3段構成について、前の授業で配布されたプリントを読み理解する。 復習(120分):返却された作文の添削を読み、誤字、不適切な表現を確認する。			
4	800字の小論文を4段構成で書く。 起承転結の4段構成の書き方を学ぶ。 自分の考えとは反対の考えを取り上げ、なぜ反対なのかを書く。	川原 福永	予習(50分):文章の4段構成について、前の授業配布されたプリントを読み、理解する。 復習(130分):返却された小論文の添削を読み、誤字、段落の区切り方を理解する。			
5	800字の小論文を4段構成で書く。 自分の考えの根拠を、明確にして述べる。 引用、参考文献の書き方を学ぶ。	川原 福永	予習(50分):文章の4段構成を確認する。 復習(130分):引用、参考文献の書き方を確認する。			
6	1000字の小論文を4、5段階で書く。 文章とデータを読み取り、分析し、傾向をまとめ、自分の考えを書く。	川原 福永	予習(50分):返却された小論文を読み、確認する。 復習(130分):取り上げたデータを読み取り、さらに分析したことについてまとめる。			
7	1200字の小論文を書く。 自分で問題を提起し、今後の対策を根拠を挙げて述べる。	川原 福永	予習(50分):配布された記事を読み、取り上げる問題について考える。 復習(130分):取り組んだ課題に対して、今後考えたいことを整理する。			
8	看護実践能力に向けての読解力について理解する。 小テスト 授業のまとめ	川原 福永	予習(90分):課題:1回~7回までの授業を振り返りをまとめる。 復習(65分):取り組んだ課題に対して、今後考えたいことを整理する。			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)			○	特になし		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○			
③:ディスカッション・ディベート			○			
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
基本的に毎回の課題に取り組み、小論文を書く。授業内で小論文のフィードバックをし読解力の確認を行う。毎回の課題である小論文提出後は、担当教員がフィードバックする。						
【成績の評価方法】						
①課題:80% ②小テスト:20% 合計:100% 課題:授業計画に明示している課題について、求められていることや書き方を理解し、自分の考えを論述できることを評価基準とする。						
【生成AI利活用(無)】						
【ルーブリック評価の活用(有)】						
【履修申請上の条件】						
特になし。1年次科目であるため、1年生のみ履修できる。						

【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
①				⑤		
②				⑥		
③				⑦		
④				⑧		
【参考書】 1. 世界思想社編集部:大学生 学びのハンドブック[5訂版], 世界思想社, 2021. 2. 坂井浩美・山崎啓子著:看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンBOOK, 日本看護協会出版, 2021. 3. 佐藤智明、矢島 彰、山本明志編:3訂 大学 学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック、ナカニシヤ出版、2020.						
【オープンな教育リソース】 公益社団法人日本看護協会ホームページ https://www.nurse.or.jp/episode/						
【担当教員の実務経験】 看護師としての実務経験および看護大学の教員経験のある者、国語の知識のある者を中心に、看護叡智探究論 I (基礎)を教授する。						
【オフィスアワー】 火12:10～13:00						
【教員連絡先】 福永研究室 3号館 3階 3316号室 hfukunaga@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】 教科書は使用しない。担当教員が授業資料を準備する。 この科目は、看護師国家試験の合格を目指すための、スタートラインになる。毎回の課題に取り組むことで、読解力を身につけられるので、積極的な参加を望む。進度は、隔週で授業を進める。						